

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更									
フリガナ設置者	ガッコウセキノ スギノガクエン 学校法人 杉野学園									
フリガナ大学の名称	スギノファッションカレッジ 杉野服飾大学 (Sugino Fashion College)									
大学本部の位置	東京都品川区上大崎4丁目6番19号									
大学の目的	日本の洋装の黎明期に「モードの創造」を掲げた創立者の先進性を受け継ぎ、持続可能な開発目標の立場から服飾産業の発展に寄与できる能力を身に付けさせ、アパレル産業やファッションの世界で専門職業人として活躍できる人材を育成する。									
新設学部等の目的	服飾文化の価値を次世代に継承、伝承する教育研究と、持続可能な社会のための新しい服飾文化の創造に向けられた教育研究を二本の柱とする学科を入学定員40名で設置し、杉野服飾大学における服飾教育の幅を広げたい。併設の短期大学が令和4年4月学生募集停止、令和5年4月以降に廃止予定であり、新学科においては、短大の定員枠、人員、設備等を活用する予定である。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	令和4年4月設置届出予定	
	服飾学部 [Faculty of Fashion]	年	人	年次人	人		年月 第年次	東京都品川区上大崎 4丁目6番19号		
	服飾学科 [Department of Fashion]	4	200	3年次 30	860	学士(服飾) [Bachelor of Fashion]	昭和39年4月 第1年次	同上		
	服飾文化学科 [Department of Costume and Culture Studies]	4	40 (0)	—	160 (0)	学士(服飾) [Bachelor of Fashion]	令和5年4月 第1年次	同上		
	服飾表現学科 [Department of Fashion Presentation and Communication]	4	40	—	160	学士(服飾) [Bachelor of Fashion]	平成30年4月 第1年次	東京都日野市百草 1006-44		
計		280 (240)	3年次 30	1,180 (1,020)						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	服飾学部服飾文化学科 (40) (令和4年4月設置届出予定) 杉野服飾大学短期大学 服飾学科 (廃止) (△50) ※令和4年4月学生募集停止、令和5年4月以降短期大学廃止申請予定									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計					
	—	一科目	一科目	一科目	一科目	—単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設	服飾学部	服飾学科	14人 (14)	3人 (1)	5人 (7)	6人 (6)	28人 (28)	8人 (8)	82人 (82)
			服飾文化学科	5 (5)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	7 (6)	3 (2)	78 (35)
			服飾表現学科	6 (6)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	9 (9)	1 (1)	54 (54)
			計	25 (25)	3 (1)	10 (11)	6 (6)	44 (43)	12 (11)	— (—)
	既設	該当なし	—	—	—	—	—	—	—	
			—	—	—	—	—	—	—	
		計	—	—	—	—	—	—	—	
	合計			25 (25)	5 (1)	8 (11)	6 (6)	44 (43)	12 (11)	— (—)

教員以外の職員 の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		28 (28) 人	11 (11) 人	39 (39) 人				
	技 術 職 員		12 (12)	8 (8)	20 (20)				
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)	0 (0)	3 (3)				
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計		43 (43)	19 (19)	62 (62)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	18,741 m ²	0 m ²	0 m ²	18,741 m ²				
	運 動 場 用 地	6,668 m ²	0 m ²	0 m ²	6,668 m ²				
	小 計	25,409 m ²	0 m ²	0 m ²	25,409 m ²				
	そ の 他	3,189 m ²	0 m ²	0 m ²	3,189 m ²				
合 計	28,598 m ²	0 m ²	0 m ²	28,598 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		21,390 m ² (21,390 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	21,390 m ² (21,390 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	19 室	7 室	52 室	9 室 (補助職員一人)	1 室 (補助職員一人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		大学全体		37 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	大学全体	82,636 [13,476] (81,836 [13,396])	252 [81] (248 [79])	0 [0] (0 [0])	2,912 (2,896)	0 (0)	0 (0)		
	計	82,636 [13,476] (81,836 [13,396])	252 [81] (248 [79])	0 [0] (0 [0])	2,912 (2,896)	0 (0)	0 (0)		
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数				
		1,380 m ²		159	130,000				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		720 m ²		該 当 な し 該 当 な し					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等	400,000	400,000	400,000	400,000	—	—	
	共同研究費等	500,000	500,000	500,000	500,000	—	—		
	図 書 購 入 費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	—	—	
	設 備 購 入 費	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	—	—	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,460千円	1,060千円	1,060千円	1,060千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、事業収入、雑収入等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称 杉野服飾大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地
	服飾学部	年	人	年次 人	人		倍		
	服飾学科	4	200	3年次 30	860	学士(服飾)	0.86	昭和39年度	東京都品川区 上大崎4-6-19
服飾表現学科	4	40	—	160	学士(服飾)	0.61	平成30年度	東京都日野市百草 1006番地44	
造形研究科 造形専攻	2	10	—	20	修士(造形)	0.45	平成24年度	東京都品川区 上大崎4-6-19	

既設大学等の状況	大学の名称	杉野服飾大学短期大学部								令和4年4月より 学生募集停止
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	服飾学科	2年	—人	—年次人	—人	短期大学士(服飾)	—倍	昭和25年度	東京都品川区上大崎4-6-19	
附属施設の概要		名称： 杉野学園衣裳博物館 目的： 服飾の研究 所在地： 東京都品川区上大崎4-6-13 設置年月： 昭和31年8月31日 規模等： 土地 409.98㎡ 建物 647.25㎡								

(注)

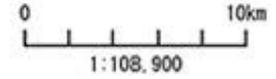
- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人杉野学園 収容定員変更に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
杉野服飾大学				→	杉野服飾大学				
服飾学部	3年次				服飾学部	3年次			
服飾学科	200	30	860		服飾学科	200	30	860	
服飾表現学科	40	-	160		服飾表現学科	40	-	160	
					服飾文化学科	40	-	160	学科の設置(届出)
計	240	30	1020		計	280	30	1180	定員変更(160) (認可申請)
ファッションデザイン専攻科					ファッションデザイン専攻科				
	10	-	10			10	-	10	
計	10	-	10		計	10	-	10	
杉野服飾大学大学院				→	杉野服飾大学大学院				
造形研究科(M)	10	-	20		造形研究科(M)	10	-	20	
計	10	-	20		計	10	-	20	
杉野服飾大学短期大学部				→	杉野服飾大学短期大学部				
服飾学科	0	-	0		服飾学科	0	-	0	短期大学の廃止(認可申請)
令和4年4月学生募集停止									
計	0	-	0		計	0	-	0	
専門学校				→	専門学校				
ドレスメーカー学院					ドレスメーカー学院				
服飾造形科	70	-	140		服飾造形科	70	-	140	
アパレル技術科	30	-	90		アパレル技術科	30	-	90	
ファッションビジネス科	30	-	60		ファッションビジネス科	30	-	60	
高度アパレル専門科	15	-	60		高度アパレル専門科	15	-	60	
アパレルデザイン科	35	-	35		アパレルデザイン科	35	-	35	
計	180	-	385		計	180	-	385	
杉野幼稚園				→	杉野幼稚園				
3歳児	105				3歳児	105			
4歳児	105				4歳児	105			
5歳児	105		315		5歳児	105		315	
計	315		315		計	315		315	

都道府県内における位置関係

東京都

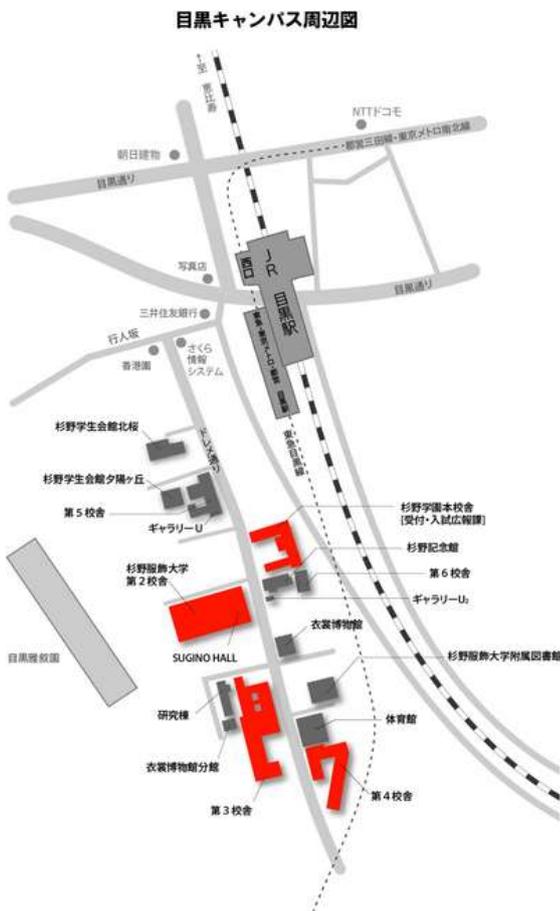


東京都日野市百草1006-44

東京都品川区上大崎4-6-19

最寄り駅からの距離及び交通機関の図面

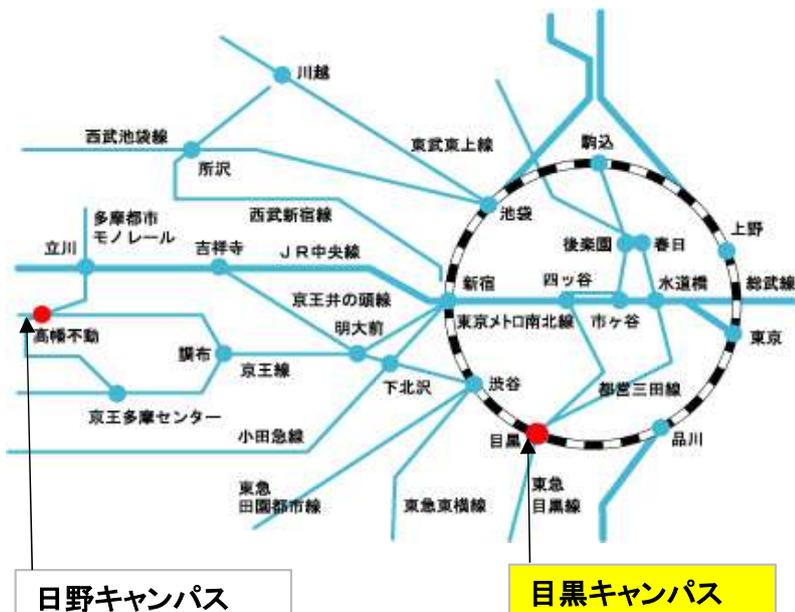
【目黒キャンパス周辺地図】



【日野キャンパス周辺地図】



<ACCESS>



- 目黒キャンパスまでの交通案内
- ・東京からJR山手線で19分
- ・横浜からJR品川のりかえ25分
- ・上野からJR山手線で27分
- ・大宮からJR恵比寿のりかえ41分
- ・四ツ谷から東京メトロ南北線で16分
- ・目黒駅から校舎まで徒歩6分

校舎・運動場の配置図

京王線
急行 3 6 分 特急 2 8 分

日野キャンパス

- 校地面積計: 17,304.00㎡ (専用)
- 校舎敷地面積(算入面積)
 - 校舎敷地面積: 8,715.31㎡
- 運動場敷地面積(算入面積)
 - 大学グラウンド: 6,491.00㎡
 - 日野グラウンド: 177.00㎡
 - 運動場敷地計 6,668.00㎡
- その他面積(不算入面積)
 - 百草苑: 420.69㎡
 - 駐車場・法面等: 1,500.00㎡
 - 計 1,920.69㎡

目黒キャンパス

- 校地面積合計: 11,294.32㎡ (専用)
- 校舎面積計: 22,746.22㎡ (専用)
- 校舎敷地面積(算入面積)
 - 第二校舎: 2,636.14㎡
 - 第三校舎: 3,510.72㎡
 - 第四校舎: 2,170.55㎡
 - 附属図書館: 641.19㎡
 - 研究棟: 416.35㎡
 - 体育館: 651.23㎡
 - 校舎敷地面積計 10,026.18㎡
- 校舎面積(算入面積)
 - 第二校舎: 5,922.19㎡
 - 第三校舎: 7,412.61㎡
 - 第四校舎: 4,159.53㎡
 - 附属図書館: 1,380.63㎡
 - 研究棟: 772.56㎡
 - 計 19,647.52㎡
- その他面積(不算入面積)
 - 体育館: 720.30㎡
 - 博物館: 647.25㎡
 - 博物館分室: 386.05㎡
 - 北桜寮: 1,345.10㎡
 - 計 3,098.70㎡

新宿

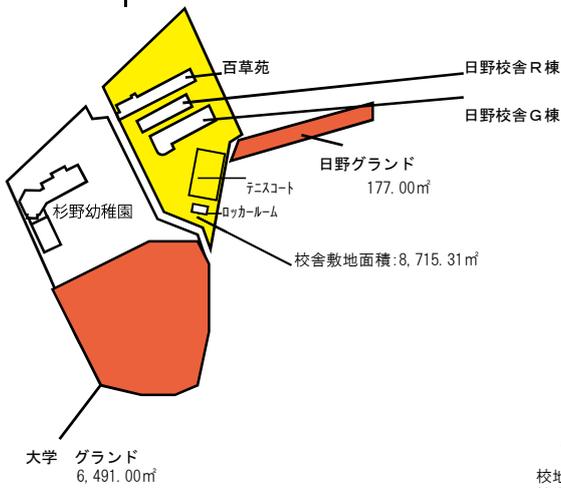
目黒

目黒

東急目黒線・都営三田線・営団南北線

JR東横線

バス 10 分
徒歩 10 分



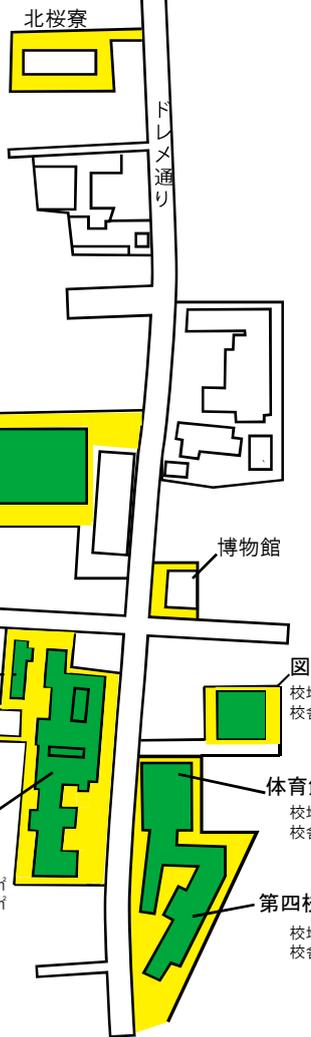
- 校地 (校舎敷地)
- 校地 (運動場敷地)
- 新設学科と既設学科
共用校舎

第二校舎
校地面積: 2,636.14㎡
校舎面積: 5,922.19㎡

研究棟
校地面積: 416.35㎡
校舎面積: 772.56㎡

博物館分室

第三校舎
校地面積: 3,510.72㎡
校舎面積: 7,412.61㎡



杉野服飾大学学則（案）

- 第1章 総則および所在地
- 第2章 大学院、学部、学科、修業年限および収容定員
- 第3章 学年、学期および休業日
- 第4章 入学、退学、停学、休学、復学
- 第5章 教育課程および履修方法等
- 第6章 履修科目の単位認定
- 第7章 卒業等
- 第8章 入学選考料、入学金および授業料等
- 第9章 職員組織
- 第10章 教授会
- 第10章の2 専攻科
- 第11章 科目等履修生、単位互換履修生、委託生および研究生
- 第12章 賞罰
- 第13章 図書館
- 第14章 衣裳博物館
- 第15章 公開講座
- 第16章 厚生施設

第1章 総則および所在地

（校名）

第1条 本学は、杉野服飾大学と称する。

（目的）

第2条 本学は、教育基本法、学校教育法および建学の精神に基づき、個人を尊重し、豊かな人格を養うとともに、専門としての服飾に関して理論的・技術的および芸術的に深く教授研究し、創造力・実践力をそなえた有能にして健全な社会人を育成することを目的とする。

（自己点検および評価）

第3条 本学は、教育研究水準の向上を図り、第2条の目的および社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検および評価を行うに当たっては、同項の趣旨に即し、別に項目を設定し、適当な体制を整える。

3 第1項の点検および評価の結果について、本学の職員以外の者による検証を行うものとする。

（情報の積極的な提供）

第3条の2 本学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

（所在地）

第4条 本学は、東京都品川区上大崎4丁目6番19号におく。

第2章 大学院、学部、学科、修業年限および収容定員

(大学院、学部、学科および収容定員)

第5条 本学に、次の大学院研究科および学部、学科をおく。

大学院 造形研究科

入学定員 10名

収容定員 20名

服飾学部

入学定員 280名

服飾学科 200名

服飾表現学科 40名

服飾文化学科 40名

編入学定員(3年次) 30名

収容定員 1180名

2 大学院の学則は、別に定める。

(修業年限および在学年限)

第6条 本学の、修業年限は4年とする。ただし、在学期間は8年を超えてはならない。

第3章 学年、学期および休業日

(学年、学期)

第7条 学年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終り、1学年度を分けて、次の2期とする。

前期 4月1日から9月23日まで

後期 9月24日から翌年3月31日まで

2 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(休業日)

第8条 休業日は次のとおりとする。

(1) 日曜日、国民の祝日に関する法律に定めた休日

(2) 本学園創立記念日(11月2日)

(3) 春季休業 3月5日から4月4日まで

(4) 夏季休業 8月11日から9月23日まで

(5) 冬季休業 12月27日から翌年1月6日まで

2 学長が必要と認めたときは、春季、夏季および冬季の休業の始期ならびに終期を変更し、休業日に授業を行い、または臨時に休業日を設けることができる。

第4章 入学、退学、停学、休学、復学

(入学の時期)

第9条 入学は毎学年の始めとする。

(入学資格)

第10条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者
 - ① 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
 - ② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
 - ③ 文部科学大臣の指定した者
 - ④ 文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者または大学入学資格検定に合格した者

(入学の出願)

第11条 本学に入学を志望する者は、本学所定の書類に入学選考料を添えて、提出しなければならない。

(入学者の選考)

第12条 入学は、選考の上、教授会の意見を聴いて学長が許可する。

2 前項に規定する選考に関する事項は別にこれを定める。

(入学手続きおよび入学許可)

第13条 前条の選考の結果に基づき合格通知を受けた者は、所定の期日までに住民票記載事項証明書および保証人連署の書類(誓約書)を提出するとともに、所定の納付金を納入しなければならない。

2 前項に規定する入学手続きを終了しない者は、入学の許可を取消すことがある。

第14条 保証人は1名とし、父母兄弟等の親権者とする。本人が成人した社会人の場合は、配偶者、兄弟、姉妹、成人した子も可能とする。保証人は、入学時の学則に定められた修業年限に支払うべき学費相当額を上限として、保証するものとする。

第15条 学生が、住所または姓名を変更し、あるいは保証人が死亡、転居またはその他の理由により、その資格を喪失したときは、連署の上ただちにその旨を届け出なければならない。

(再入学)

第16条 願いにより本学を退学した者が、再入学を希望するときは、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。

2 前項の場合、退学前に修得した授業科目および単位数の取り扱い並びに在学すべき年数については、学長が決定する。

3 再入学の場合に必要な手続きは別にこれを定める。

(編入学および転入学)

第17条 本学に編入学を志願する者があるときは、編入学定員を考慮して、また転入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可する。

2 前項の規定により、入学を許可された者の既に修得した授業科目および単位数の取り扱い、ならびに在学すべき年数については、学長が決定する。

3 編入学、転入学に関するその他の事項は、別にこれを定める。

(退学)

第18条 疾病その他の理由により退学しようとする者は、保証人連署の上、退学願を提出し、許可を得なければならない。

(停学)

第19条 疾病その他の理由により、修学することが適当でないと認められた者について、学長は登校停止または休学を命ずることができる。

2 停学期間は在学期間に算入される。

(休学)

第20条 疾病その他止むを得ない理由により、6週間以上修学できないときは、理由を明記し、保証人連署の上、その旨を願い出て休学することができる。ただし、疾病の場合は、医師の診断書を添付するものとする。

(休学の期間)

第21条 休学期間は当該年度末までとする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

2 休学期間は在学期間に算入しない。

(通算して休学できる期間)

第22条 休学は通算して4年を超えてはならない。

(復学)

第23条 休学期間中にその理由が消滅した場合は、復学願を提出して許可を得なければならない。ただし、疾病の場合は、医師の診断書を添付するものとする。

(除籍)

第24条 次の各号の一に該当するものは、在学関係を一方的に終了する退学措置として、学長が除籍する。

(1) 第6条に定める在学年限を超えた者

(2) 第21条に定める休学期間を超えても修学できない者、あるいは復学の願い出がない者

(3) ア 当該学期の授業料を納入せず退学を願い出た者

イ 授業料を納入期限後再三の督促にもかかわらず、前期は6月末、後期は12月末までに納入しない者

ウ 卒業延期手続き後、前期納入期限までに授業料を納入しない者

エ 卒業延期手続きを行わなかった者

(4) 長期の行方不明および死亡した者

第5章 教育課程および履修方法等

(教育課程)

第25条 本学の授業科目を必修科目、選択科目、自由科目に分け、これを各年次に配当して編成する。

2 本学の授業科目の種類、履修方法、授業の方法、単位数等は別表のとおりとする。

第26条 前条に定めるもののほか、教職に関する科目および博物館に関する科目をおく。

2 本学の授業科目の種類、単位数等は別表のとおりとする。

(授業の方法)

第27条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第27条の2 本学は、授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修および研究を実施するものとする。

(単位)

第28条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

2 講義および演習については、15時間から30時間までの範囲において定める時間の授業をもって1単位とする。

3 実験、実習および実技については、30時間から45時間までの範囲において定める時間の授業をもって1単位とする。ただし、個別指導による授業については、定める時間の授業をもって1単位とすることができる。

第6章 履修科目の単位認定

(単位の授与)

第29条 一の授業科目を履修した学生に対し、試験の上単位を与える。ただし、授業科目の内容により、適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えることができる。

2 前項試験に関する細則は別にこれを定める。

第30条 やむを得ない事情によって試験を受けることができなかつた者については、欠試の理由を検討した上で、内規にてらして追試験を行う。

2 試験の結果不合格であった学生に対する再試験は、担当教員が特に許可する場合に限り、一定期間内に受けることができる。

第31条 修学について正規の手続きを怠っている者、所定の校納金が未納である者は、その学期または学年度における履修科目の単位認定試験の受験の資格を失うことがある。

(学習の評価)

第32条 学業成績の評価はS(100点—90点)、A(89点—80点)、B(79点—70点)、C(69点—60点)、D(59点以下)とし、SABCを合格、Dを不合格とする。

2 再試験の評価は最高をCとする。

3 追試験の評価は最高をAとする。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第33条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科

目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項の規定は、学生が外国の大学または短期大学に留学する場合にも準用する。
- 3 前2項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(大学以外の教育施設等における学修)

第34条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項および第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
- 3 前2項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第35条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 学生が入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
- 3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第33条第1項および第2項並びに前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
- 4 前3項の単位認定の取扱いについては、別に定める。

第7章 卒業等

(卒業の要件)

第36条 本学を卒業するためには、学生は4年以上在学し、所定の必修科目、選択科目を含めて124単位以上を修得しなければならない。

- 2 履修方法の細則は別にこれを定める。

(卒業)

第37条 本学に4年以上在学し、第36条に規定する授業科目および単位数を修得した者については、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定する。

- 2 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する。

第38条 本学を卒業した者には、学士(服飾)の学位を授与する。

(取得できる資格)

第39条 教育職員免許状(中学校教諭1種免許状「家庭」および高等学校教諭1種免許状「家庭」)を得ようとする者は、第36条に規定するもののほか、教育職員免許法および同法施行規則に規定する授業科目および単位を履修しなければならない。

第40条 本学において学芸員資格を得ようとする者は、第36条に規定するもののほか、博物館法および同法施行規則に規定する授業科目および単位を履修しなければならない。

第8章 入学選考料、入学金および授業料等

(入学選考料)

第41条 本学に入学を志願する者は、別表1に定める入学選考料を納入しなければならない。

(入学金および施設・設備費)

第42条 本学に入学を許可された者は、別表1に定める入学金および施設・設備費を納入しなければならない。又、施設・設備費は2年次以降も別表1に定める年額を納入しなければならない。

(授業料)

第43条 授業料は別表1に定める額とし、2期に分納するものとする。納入期日については、前期は4月20日まで、後期は10月12日までとする。

(実験実習費および維持費)

第44条 本学における実験実習費および維持費は別表1に定める額とし、4月20日までに納入しなければならない。

(納付した授業料等)

第45条 いったん納付した入学金、授業料その他の納付金は、所定の期限に申し出があれば、入学金以外の納付金を返還することがある。

(休学の場合の授業料)

第46条 休学期間の授業料は、全額免除する。ただし、在籍料として学期について50,000円を納付するものとする。

(復学の場合の授業料)

第47条 復学した者は、復学した学期から授業料を納付しなければならない。

(学年の途中で卒業する場合の授業料)

第48条 前期で卒業する見込みの者は、前期分の授業料を納付するものとする。

(退学および停学の場合の授業料)

第49条 学期の途中で退学する者の当該学期分の授業料は徴収する。

2 停学中の授業料は徴収する。

(授業料未納者に対する措置)

第50条 正当な理由なく授業料を期日までに納入しない者は、登校を停止させることがある。

第9章 職員組織

(職員組織)

第51条 本学に次の職員をおく。

学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、その他の職員

2 本学に副学長を置くことができる。

(名誉教授の称号)

第52条 本学に、学長、教授、准教授、助教授または講師として多年勤務した者であつて、教育上または学術上特に功績のあつた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が名誉教授の称号を授与することができる。

第10章 教授会

(教授会の構成)

第53条 本学に教授会をおき、学長、教授、准教授および専任の講師をもって組織する。

2 学長または教授会が必要と認めたときは、他の職員の出席を求めることがある。

(教授会の運営)

第54条 教授会は、定期に開催するほか、次の場合に学長がこれを招集、開催する。

(1) 学長が必要と認めたとき

(2) 構成員の3分の1以上の要求があつたとき

第55条 教授会は、学長あるいは学長の指名する者が議長となり運営する。

(教授会の審議事項)

第56条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業および課程の修了

(2) 学位の授与

(3) 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長および学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、および学長および学部長の求めに応じ、意見を述べることができる。

第10章の2 専攻科

(専攻科)

第56条の2 服飾学部は、学校教育法第91条に定める専攻科を次のとおりおく。

ファッションデザイン専攻科

入学定員 10名

修業年限 1年 ただし、途中国外研修をする者は2年

在学年限 修業年限を1年超える年数

(入学資格)

第56条の3 専攻科に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 大学において服飾のデザイン又はパターンに関する課程を修了した者

(2) 修業年限が4年以上である専修学校の専門課程で大学の専攻科への入学に関し大学を卒業した者と同等以上の学力があると文部科学大臣が認める基準を満たすものにおいて服飾のデザイン又はパターンに関する課程を修了した者

(入学選考料)

第56条の4 専攻科に入学を志願する者は、別表1に定める入学選考料を納入しなければならない。

(入学金および施設・設備費)

第56条の5 専攻科に入学を許可された者は、別表1に定める入学金および施設・設備費を納入しなければならない。

(授業料)

第56条の6 専攻科の授業料は別表1に定める額とし、2期に分納するものとする。納入期日については、前期は4月20日まで、後期は10月12日までとする。

(実験実習費)

第56条の7 専攻科の実験実習費は別表1に定める額とし、4月20日までに納入しなければならない。

(国外研修の場合の授業料)

第56条の8 国外研修期間の授業料は免除される。

(教育課程等)

第56条の9 専攻科の教育課程、国外研修、修了の認定その他専攻科について必要な事項は、別に定める。

第11章 科目等履修生、単位互換履修生、委託生および研究生

(科目等履修生)

第57条 大学教育の普及と生涯教育の充実を図るため、本学に科目等履修生制度をおく。

第58条 第10条に定める入学資格をもっている者で、一または複数の授業科目を選んで科目等履修を希望する者があるときは、当該科目履修の学生の教育に支障がない限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

2 履修した授業科目について単位を与えることができる。

3 科目等履修生に関し必要な事項は、別にこれを定める。

(単位互換履修生)

第59条 他の大学または短期大学(外国の大学または短期大学を含む)および、専修学校(文部科学大臣が別に定める学修に該当する)との協議により、当該他大学等の学生に、単位互換履修生として、本学における授業科目の履修を許可することがある。

2 単位互換履修生に関し必要な事項は、別にこれを定める。

(委託生)

第60条 公共団体もしくはその他の機関より、本学開講の特定の科目に対し修学を委託された場合は、学生の授業に差支えない限り選考の上、これを委託生として入学を許可することができる。

2 委託生に関し必要な事項は別にこれを定める。

(研究生)

第61条 本学において、専門にかかわる事項の研究を希望する者があるときは、当該事項の担当教員が適当と認め、本学学生の授業に支障がない場合に限り、選考の上研究生として、入学を許可することがある。

2 研究生を志願することのできる者は、大学を卒業した者またはこれと同等以上の学力が

あると認められた者とする。

3 研究期間は、1年とする。ただし特別の理由がある場合は、その期間を更新することが

できる。

4 研究生に関し必要な事項は、別にこれを定める。

第12章 賞罰

(表彰)

第62条 学生として優秀な研究業績のあった者または特に有益な行為のあった者は、学長が表彰する。

(罰則)

第63条 本学の学則および諸規定に違反した者、あるいは本学学生としての品位を傷つけ、学生としての本分にもとる行為のあった者は、懲戒の手続きを経た上で、学長が懲戒の処分を行う。

2 懲戒は退学、停学、訓告およびその他の処分とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に行うものとする。

(1) 学力劣等で修業の見込みがないと認められる者

(2) 性行不良にして改善の見込みがないと認められる者

(3) 正当な理由なくして出席の常でない者

(4) 本学の秩序をみだした者、その他学生としての本分に反した者で重大な事案に該当する者

4 懲戒の手続きについては別にこれを定める。

第13章 図書館

(図書館)

第64条 本学に図書館をおく。

第65条 図書館には次の職員をおく。

館長

司書

事務職員

第66条 図書館に関し必要な事項は、別にこれを定める。

第14章 衣裳博物館

(衣裳博物館)

第67条 本学に衣裳博物館をおく。

第68条 衣裳博物館には次の職員をおく。

館長

学芸員

事務職員

第69条 衣裳博物館に関し必要な事項は、別にこれを定める。

第15章 公開講座

(公開講座)

第70条 本学の教育研究活動の成果を広く社会に公開し、生涯教育を通して社会人の教養を高め、文化の向上に資するために、本学に公開講座を開設することができる。

- 2 公開講座に関する必要な事項は、別にこれを定める。

第16章 厚生施設

(学生会館)

第71条 本学に学生会館をおく。

- 2 学生会館に関する事項は別にこれを定める。

附則

- 1 本学則は平成19年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正後の学則(学部・学科)第5条、(教育課程)第25条・第26条、(卒業)第38条の規定にかかわらず、平成19年3月31日に在学する者については、平成22年3月31日までの間は旧学則を適用するが、それ以降引き続き在学する者については、改正後の学則を適用する。

附則

- 1 本学則は平成21年4月1日から施行する。

- 2 別表の改正規定中「ファッションクリエーションⅠ、Ⅱ」および「ファッション画Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ」の改正に係る部分および「映像制作」および「モードデザインⅣ」の授業科目の新設に係る部分は、平成21年度の入学生から適用するものとする。

附則

- 1 本学則は、平成23年4月1日から施行する。

- 2 別表の改正規定にかかわらず、平成23年3月末日にファッションビジネス・マネジメントコースに在学する者については、なお従前の別表を適用する。

附則

本学則は、平成24年4月1日から施行する。

附則

本学則は、平成25年4月1日から施行する。

附則

本学則は、平成27年4月1日から施行する。

附則

本学則は、平成28年4月1日から施行する。

附則

本学則は、平成29年4月1日から施行する。

附則

本学則は、平成30年4月1日から施行する。

附則

本学則は、平成31年4月1日から施行する。

附則

本学則は、令和2年4月1日から施行する。

附則

本学則は、令和3年4月1日から施行する。

附則

本学則は、令和4年4月1日から施行する。

附則

本学則は、令和5年4月1日から施行する。

服飾学部服飾学科カリキュラム表

(2023年度生)大-1

授業科目名	単位数			履修方法											配 当 年 次	週時間数		備 考	
	講 義	演 習	実 習	卒業を目的とするもの												前 期	後 期		
				コース別必修															
				モ ー ド ク リ エ ー シ ョ ン	イ ン ダ ス ト リ ア ル パ タ ー ン	テ キ ス タ イ ル デ ザ イ ン	フ ア ッ シ ョ ン プ ロ ダ ク ト デ ザ イ ン	フ ・ ア ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス	フ ・ ア ッ シ ョ ン メ ジ ネ ス	フ ・ ア ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス	フ ・ ア ッ シ ョ ン メ ジ ネ ス	選 自	職 業 員 課 程	教 育 課 程					
服飾造形基礎Ⅰ	3			○													1	6	
服飾造形基礎Ⅱ	3			○													1	6	
流通・商業入門	2			○													1	2	
ファッションビジネス概論	2			○													1	2	
ファッション・フィールド・リサーチ	1			○													1	2又	は2
衣服材料学	2			○													1	2又	は2
西洋服飾文化史	2			○													1	2又	は2
ファッション画Ⅰ	1			○													1	2	
ファッション画Ⅱ	1			○													1		2
色彩演習	2				○	○	○	○					○				1	2又	は2
ドローイングⅠa	2				○	○	○	○									1	4又	は4
ドローイングⅠb	2								○	○							1	4又	は4
経営学入門	2								○	○	○						1	2又	は2
日本服飾文化史	2			○													2	2又	は2
アパレル素材論	2			○													2	2又	は2
色材演習	1			○													2	2又	は2
マーケティング・データサイエンス論	2			○													2	2又	は2
現代ファッション論	2				○	○	○	○									2	2又	は2
CADパターンメイキング	1				○	○	○	○									2	2又	は2
計	20	15	0																
専門科目(服飾関係)必修科目については、テクノロジー系については31単位、ファッションビジネス系については28単位を修得すること 1年次で必修科目を含む36単位以上取得しないと2年次のコース科目は履修出来ません																			
モードクリエイションⅠ			3	○													2	9	
モードクリエイションⅡ			3	○													2		9
ドレーピング&パターンメイキングⅠ			1	○													2	3	
ドレーピング&パターンメイキングⅡ			1	○													2		3
モードデザインⅠ			1	○													2		3
服飾デザイン概論	2			○													2	2	
装飾技法			1	○													2		3
ファッション史	2			○									○				2	2又	は2
モードクリエイションⅢ			4	○													3	12	
モードクリエイションⅣ			4	○													3		12
ドレーピング&パターンメイキングⅢ			1	○													3	3	
ドレーピング&パターンメイキングⅣ			1	○													3		3
モードデザインⅡ			1	○													3	3	
モードデザインⅢ			1	○													3		3
アパレルCADⅠ	1			○													3	2	
アパレルCADⅡ	1			○													3		2
モードデザインⅣ	1			○													4	2	
卒業制作Ⅰ(モード)			4	○													4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
卒業制作Ⅱ(モード)			4	○													4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
インダストリアルパターンⅠ			2		○												2	6	
インダストリアルパターンⅡ			2		○												2		6
感性産業デザインⅠ		3			○												2	6	
感性産業デザインⅡ		3			○												2		6
CGデザインⅠ			1		○												2	3	
CGデザインⅡ			1		○												2		3
人体工学設計技術Ⅰ	2				○												2	2	
人体工学設計技術Ⅱ	2				○												2		2
インダストリアルパターンⅢ			2		○												3	6	
インダストリアルパターンⅣ			2		○												3		6
CGデザインⅢ			1		○												3	3	
CGデザインⅣ			1		○												3		3
CAD&3D演習Ⅰ	1				○												3	2	
CAD&3D演習Ⅱ	1				○												3		2
感性産業CADⅠ		3			○												3	6	
感性産業CADⅡ		3			○												3		6
卒業制作Ⅰ(インダストリアル)			3		○												4	9	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
卒業制作Ⅱ(インダストリアル)			4		○												4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可

授業科目名	単位数				履修方法										配 当 年 次	週時間数		備 考				
	講 義	演 習	実 習	共 修	卒業を目的とするもの											職 業 課 程	学 員 課 程		前 期	後 期		
					コース別必修																選 択	自 由
					モ ー ド ク リ エ ー シ ョ ン	イ ン ダ ス ト リ ア ル パ タ ー ン	テ キ ス タ イ ル デ ザ イ ン	フ ァ ッ シ ョ ン プ ロ ダ ク ト デ ザ イ ン	フ ァ ・ マ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス ト	フ ・ ア ッ シ ョ ン メ ジ シ ョ ン	フ ・ ア ッ シ ョ ン ノ ベ ー シ ョ ン	フ ・ ア ッ シ ョ ン シ ス テ ム										
テキスタイルデザイン I			2														2	6				
テキスタイルデザイン II			2														2	6				
ダイニングテクニック I			2														2	6				
ダイニングテクニック II			2														2	6				
素材設計論 I	2																2	2				
素材設計論 II	2																2	2				
テキスタイルデザイン III			2														3	6				
テキスタイルデザイン IV			2														3	6				
ダイニングテクニック III			2														3	6				
ダイニングテクニック IV			2														3	6				
ニットイング I		2															3	4				
ニットイング II		2															3	4				
プリントデザイン演習 I		1															3	2				
プリントデザイン演習 II		1															3	2				
素材分析実験			1														3	3				
画像表現演習 I		1															3	2				
画像表現演習 II		1															3	2				
テキスタイルデザイン V		1															4	2				
卒業制作 I (テキスタイル)			4														4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可			
卒業制作 II (テキスタイル)			4														4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可			
ファッションプロダクトデザイン論	2																2	2				
ファッションプロダクトデザイン I		2															2	4				
ファッションプロダクトデザイン II		2															2	4				
デザインプロセス		1															2	2				
アクセサリーデザイン		1															2	2				
デジタルデザインワーク I			1														2	3				
デジタルデザインワーク II			1														2	3				
プロダクトデザイン演習 I		2															2	4				
ファッションプロダクトデザイン III		4															3	8				
ファッションプロダクトデザイン IV		4															3	8				
ファッションプロダクトデザインゼミ			1														3	3				
マテリアル実習 I (金属)			1														3	3				
マテリアル実習 II (金属)			1														3	3				
プロダクトデザイン演習 II		2															3	4				
デジタルデザインワーク III			1														3	3				
卒業制作 I (プロダクト)			4														4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可			
卒業制作 II (プロダクト)			5														4	15	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可			
消費者行動論 I	2																2	2				
ビジネスプレゼンテーション技法		1															2	2				
企業会計入門	2																2	2				
グローバルマネジメント特論 I	2																2	2				
ファッションエディトリアル I		2															2	4				
ファッションマーケティング論	2																2	2				
プレゼミ(マネジメント)		2															2	2	2			
プレゼミ(イノベーション)		2															2	2	2			
ブランド・マネジメント論	2								(○)								3	2				
トレンド分析とディレクション制作	2								(○)	(○)	○						3	2				
P.R.マネジメント論	2																3	2				
新製品(商品)開発論	2																3	2				
生産管理論	2								(○)								3	2				
バイヤーの実践学	2										○	(○)	○				3	2				
リテールマーチャンダイジング	2												○				3	2				
「産学連携」プロジェクト演習 I		2															3	4				
「産学連携」プロジェクト演習 II		2															3	4				
グローバル・マネジメント特論 II	2																4	2				
店舗開発マネジメント論	2																4	2				
ファッションMD評価システム	2																4	2				
卒業論文 I (マネジメント)		2															4	4	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可			
卒業論文 II (マネジメント)		2															4	4	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可			

専 門 科 目 係	授業科目名	単位数			履修方法										配		週時間数		備 考
		講	演	実 験	卒業を目的とするもの										当 年	前 期	後 期		
					共 通	コース別必修					選 択	自 由	資格取得を目的とするもの	教 職 員 課 程				学 芸 員 課 程	
						モ ー ド ク リ エ ー シ ョ ン	イ ン ダ ス ト リ ア ル パ タ ー ン	テ キ ス タ イ ル デ ザ イ ン	フ ァ ッ シ ョ ン プ ロ ダ ク ト デ ザ イ ン	フ ァ ッ シ ョ ン ヨ ン ビ ジ ネ ス									
消費行動論Ⅱ	2																3	2	
現代流通論	2																3	2	
ファッションエディトリアルⅡ		2															3	4	
流通イノベーション特講(オムニ、ダイヤモンド)	2																3	2	
流通イノベーションゼミⅠ		2															3	4	
グローバルマーケティング特講	2																3	2	
フィールドリサーチ実践論(国内、海外)	2																3	2	
流通イノベーションゼミⅡ		2															3	4	
顧客関係論	2																4	2	
ファッションテック論	2																4	2	
卒業論文Ⅰ(イノベーション)		2															4	4	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
卒業論文Ⅱ(イノベーション)		2															4	4	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
専門コース必修合計	56	69	89																
1, 2年次の必修科目とコース必修科目を取得していない場合は、各コースの卒業制作は履修できません																			
専門科目(服飾関係)のコース別必修科目についてはコースのいずれかを選んで上記の○印の単位を修得すること。 コース別必修科目を当該コース以外の学生が選択科目として履修した場合、修得単位は卒業の要件に算入する。																			
服飾関係	服飾造形応用		2														1	4	
	人体工学論	2															1	2	
	現代デザイン論	2															1	2又	は2
	ファッション販売論	2															1	2又	は2
	流行論	2															1	2又	は2
	画像設計演習		1														2	2又	は2
	ドローイングⅡ			1													2	3又	は3 原則としてドローイングⅠ修得者のみ履修可
	写真表現演習		1														2	2又	は2
	立体造形演習		1														2	2又	は2 プログラクコース希望者は履修することが望ましい
	和服構成論・実習Ⅰ			1													2	3	
	和服構成論・実習Ⅱ			1													2	3	
	衣服管理	2															2	2又	は2
	染色化学	2															2	2	
	繊維ファッション産業構造論	2															2	2又	は2
	映像制作			1													2	集中	45h
	基礎デザイン(平面)		1														2	2	プログラクコース希望者は履修することが望ましい
	基礎デザイン(立体)		1														2	2	プログラクコース希望者は履修することが望ましい
	ファッション販売論上級	2															2	2	
	色彩実践学	2															2	2	
	インターンシップ			2													2	集中90h	
																	3	又は集中	又は集中
	長期インターンシップ			4													2	180h	
																	3	又は180h	又は180h
	服飾手芸(ニットを含む)			1													3	3又	は3
	ショップディスプレイ	2															3	2又	は2 プログラクコース履修者は履修することが望ましい
	服飾クラブ			1													3	3又	は3
	メディアコミュニケーション論	2															3	2	2020年度名称変更
	ファッション画(CG)			1													3	3又	は3
	アパレル産業論特講	2															3	2又	は2
	民族衣裳論	2															3	2又	は2
	染 織 史	2															3	2	
	ファッションプレゼンテーション演習		2														3	4	
	ドレーピング&パターンメイキング(選)			1													3	3	
	近代日本モード史	2															3	2又	は2
	リテールビジネスにおけるVMDマネジメント	2															3	2	
	コミュニケーション論	2															3	2	

専門科	授業科目名	単位数		履修方法										配当年次	週時間数		備考				
		講義	演習	実験実習	共通必修	卒業を目的とするもの					選択	自由	資格取得を目的とするもの 課職員		期前	期後					
						コース別必修															
						エリア	リレー	ロンダブ	シア	アブ											
専門科	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む)	2													○	○	2	2			
	家庭電気・機械	1													○	○	2	1			
	食物学(実践栄養学)	2													○	○	2	2			
	家庭情報処理	1													○	○	2	1			
	食物学(食品学)	2													○	○	3	2			
	住居学(製図を含む)	2													○	○	3	2			
	保育学(実習及び家庭看護を含む)	2													○	○	3	2			
	食文化論	2													○		3	2			
	食物学(調理実習・実験) I			1											○	○	3	3			
	食物学(調理実習・実験) II			1											○	○	3	3			
専門選択小計	48	9	16																		
専門科目小計	124	93	105																		
専門科目合計	322																				
目	専門科目の選択科目については上記のうちから卒業要件単位として 21~25 単位以上を修得すること。																				
専門科	初年次	学習基礎	2			○												1	2		
	キャリア	文章表現	2			○													1	2又	は2
		情報演習 I (学修ポートフォリオを含む)	1	1		○													1	2	
		情報演習 II (学修ポートフォリオを含む)	1	1		○													1		2
		キャリアプランニング	2			○													2	2又	は2
	一般	社会人基礎A	2													○			1	2	
		社会人基礎B	2													○			1		2
		心理学A	2													○			1・2	2	
		心理学B	2													○			1・2		2
		文学	2													○			1	2又	は2
		日本美術史	2													○	○	1	2又	は2	
		西洋美術史	2													○	○	1	2又	は2	
		憲法	2													○	○	1・2	2又	は2	
		社会福祉学A	2													○			1・2	2	
		社会福祉学B	2													○			1・2		2
化学A	2													○			1・2	2			
化学B	2													○			1・2		2		
目	体育		1												○	○		1	2又	は2	
	体育B		1												○	○		1・2		2	

授業科目名	単位数			履修方法										配当年次	週時間数		備考			
	講義	演習	実習	卒業を目的とするもの											教職課程	学芸員課程		前	後	
				共通	コース別必修						選択	自由	教職							学芸員
					モード	インダ	テキ	フ	フ	フ										
言語と服飾文化	2														3・4	2又	は2			
日本文化・日本事情 I	2														1・3	2		外国人留学生は履修のこと		
日本文化・日本事情 II	2														1・3		2	外国人留学生は履修のこと		
英語(総合)A	2														2	2				
英語(総合)B	2														2		2			
ワールド・カルチャーA	2														2	2				
ワールド・カルチャーB	2														2		2			
国際関係 実用英語 A	2														2	2				
国際関係 実用英語 B	2														2		2			
国際関係 ファッション英語 A	2														2	2				
国際関係 ファッション英語 B	2														2		2			
国際関係 フランス語(総合) A	2														2	2				
国際関係 フランス語(総合) B	2														2		2			
国際関係 ファッションフランス語 A	2														2	2				
国際関係 ファッションフランス語 B	2														2		2			
国際関係 中国語(総合) A	2														2	2				
国際関係 中国語(総合) B	2														2		2			
国際関係 中国語(会話) A	2														2	2				
国際関係 中国語(会話) B	2														2		2			
外国語 英語(総合) I	2														1	2				
外国語 英語(総合) II	2														1		2			
外国語 基礎英会話 I	2														1	2				
外国語 基礎英会話 II	2														1		2			
外国語 フランス語(総合) I	2														1	2				
外国語 フランス語(総合) II	2														1		2			
外国語 フランス語(会話) I	2														1	2				
外国語 フランス語(会話) II	2														1		2			
外国語 中国語(総合) I	2														1	2				
外国語 中国語(総合) II	2														1		2			
外国語 中国語(会話) I	2														1	2				
外国語 中国語(会話) II	2														1		2			
外国語 日本語 I	4														1・3	4		*外国人留学生は下記の欄を参照		
外国語 日本語 II	4														1・3		4	*外国人留学生は下記の欄を参照		
教養科目合計	100	4																		

教養科目については初年次の「学習基礎」2単位(必修)と、キャリアの「文章表現」「情報演習 I」「情報演習 II」「キャリアプランニング」8単位(必修)と、一般・体育・総合・国際関係より16単位以上を修得すること。

外国語は、英語・フランス語・中国語のいずれか I～IIまで8単位を修得すること。(母国語を除く)

*外国人留学生全員(編入生を含む)に対し、「学内日本語実力テスト」を実施し、その結果に応じて履修指導を行う。
 具体的には実力テストの結果に応じて ①「日本語 I (4単位)」「日本語 II (4単位)」を履修する
 ②「日本文化・日本事情(2単位)」は教養科目として留学生は履修する。
 但し、実力試験の結果、「日本語」を履修する必要のない者も「日本語 I (4単位)」「日本語 II (4単位)」を履修することができる。

教職課程履修者は教職課程の欄の○印の科目の単位を修得すること。

学芸員課程履修者は学芸員課程の欄の○印の科目の単位を修得すること。

授業科目名	単位数			履修方法										配当年次	週時間数		備考				
	講義	演習	実習	卒業を目的とするもの											教職課程	当		前	後		
				共通	コース別必修						選	自	学							員	課
					モ	イ	テ	フ	フ	フ											
ード	ン	キ	ア	・	・	選	自	教	学	員	課										
クリ	ダ	ス	ッ	ア	ア	選	自	職	学	員	課	期	期								
エー	ス	タ	シ	・	・	選	自	課	学	員	課	次	次								
シ	ト	イ	ョ	流	通	選	自	課	学	員	課	年	年								
ョン	リアル	ル	ン	シ	ン	選	自	課	学	員	課	期	期								
	パター	デ	ビ	メ	ジ	選	自	課	学	員	課	次	次								
	ン	ザ	メ	ジ	ネ	選	自	課	学	員	課	年	年								
	ン	イン	ネ	ス	ト	選	自	課	学	員	課	期	期								
						択	由	程	程	次	次	期	期								
教師論	2											○	1	2							
教育心理学	2											○	1	2							
教育制度論	2											○	1	2							
教育原理	2											○	2	2							
教育課程論	2											○	2	2							
特別支援教育概論	2											○	2	2							
道徳の指導法	2											○	2	2							
生徒指導論(進路指導を含む)	2											○	2	2							
教科教育法基礎(家庭)	1											○	2	1							
教育現場でのICT活用	1											○	2	1							
特別活動の指導法	2											○	3	2							
教育方法論	2											○	3	2							
家庭科教育法(基礎)	2											○	3	2							
総合的な学習の時間の指導法	2											○	3	2							
家庭科教育法	2											○	3	2							
教科教育法(家庭)	2	1										○	3	2	模擬授業を含む(集中)						
教育法規	2											(○)	3	2							
教育相談(カウンセリングを含む)	2											○	3	2							
教育実習(事前事後指導を含む)		1	4									○	4	2	他に中・高校で3週間実習						
教職実践演習(中等)		2										○	4	2							
計	34	4	4																		
教職課程履修者は、教職に関する科目必修40単位を修得すること。他に7日以上期間、介護・介助・交流等の体験が義務づけられている。																					
生涯学習概論	2											○	1	2							
博物館概論	2											○	1	2							
博物館経営論	2											○	2	2							
博物館資料論	2											○	2	2							
博物館資料保存論	2											○	2	2							
博物館展示論	2											○	3	2							
博物館教育論	2											○	3	2							
博物館情報・メディア論	2											○	3	2							
博物館実習			3									○	4	3	3及集中						
計	16		3																		
学芸員課程履修者は、博物館に関する科目19単位を修得すること。																					
カリキュラムは、授業科目の段階的履修や体系的な履修を考慮して編成してあります。従って再履修の必要がある場合の履修順序は、下記の通りとします。																					
1)原則として開講学年順とします。																					
2)個々の履修状況に応じて審議決定します。																					
コース選択要件については、別紙に記載してあります。																					

(注)各科目の配当年次及び開講学期は都合により変更になることがあります。

服飾学部服飾文化学科カリキュラム表

(2023年度生)大-1

専服	門飾	授業科目名	単位数			履修方法				配当年次	週時間数		備考
			講義	演習	実習	卒業を目的とするもの			資格取得を目的とするもの		前	後	
						必	選	自	教職課程				
		服飾造形基礎 I		3		○					1	6	
		サステイナブル・ファッション概論	2			○					1	2	
		ファッション画 I		1		○					1	2	
		ファッションビジネス概論	2			○					1	2	
		ファッション・フィールド・リサーチ		1		○					1	2	
		フィールドワーク(集中)		1		○					1	2	
		服飾造形基礎 II		3		○					1	6	
		西洋服飾文化史	2			○					1	2	
		衣服材料学	2			○					1	2	
		ドローイング I a		2		○					1	4	
		色彩演習	2			○					1	2	
		リ・ファッション実習			2	○					2	6	
		服飾史料研究		1		○					2	2	
		日本服飾文化史	2			○					2	2	
		ファッション史	2			○					2	2	
		アパレル素材論	2			○					2	2	
		CAD/パターンメイキング		1		○					2	2	
		レプリカ製作(民族衣装)			2	○					2	6	
		民族衣裳論	2			○					2	2	
		ファッションと環境	2			○					2	2	
		ユニバーサルファッション論	2			○					2	2	
		現代ファッション論	2			○					2	2	
		マーケティング・データサイエンス論	2			○					2	2	
		レプリカ製作(歴史衣装)			2	○					3	6	
		衣の伝統と現代 I (衣の民俗文化)	2			○					3	2	
		服飾文化演習A		1		(○)					3	2	
		服飾文化造形演習A			1	(○)					3	3	
		レプリカ製作特講	1			○					3	集中15h	
		エシカル・ファッション実習			2	○					3	6	
		衣の伝統と現代 II (衣のものづくり)	2			○					3	2	
		服飾文化演習B		1		(○)					3	2	
		服飾文化造形演習B			1	(○)					3	3	
		衣服修復技術	2			○					3	2	
		卒業研究 I (制作)			2	(○)					4	6	
		卒業研究 I (論文)		2		(○)					4	4	
		卒業研究 II (制作)			2	(○)					4	6	
		卒業研究 II (論文)		2		(○)					4	4	
		計	33	19	14								
		専門科目(服飾関係)必修科目については、54単位を修得すること 専門科目(服飾関係)選択必修科目については、6単位を修得すること											

授業科目名	単位数			履修方法				配 当 年 次	週時間数		備 考
	講	演	実 験 実 習	卒業を目的とするもの		資格取得を目的とするもの			前	後	
				必	選	自	教 学 教 育 課 職 員 課 程				
服飾		2			○			1		4	
人体工学論	2				○			1	2		
現代デザイン論	2				○		○	1	2		
ファッション販売論	2				○			1	2		
流行論	2				○			1		2	
流通・商業入門	2				○			1	2		
ファッション画Ⅱ		1			○			1		2	
経営学入門	2				○			1	2		
画像設計演習		1			○			2	2		
ドローイングⅡ			1		○			2	3		原則としてドローイングⅠ修得者のみ履修可
写真表現演習		1			○			2	2		
立体造形演習		1			○			2		2	
和服構成論・実習Ⅰ			1		○		○	2	3		
和服構成論・実習Ⅱ			1		○		○	2		3	
衣服管理	2				○		○	2	2		
染色化学	2				○			2		2	
繊維ファッション産業構造論	2				○			2	2		
映像制作			1		○			2	集中	45h	
基礎デザイン(平面)		1			○			2	2		
基礎デザイン(立体)		1			○			2		2	
ファッション販売論上級	2				○			2		2	
色彩実践学	2				○			2		2	
色材演習		1			○			2		2	
服飾手芸(ニットを含む)			1		○		○	3		3	
服飾クラフト			1		○			3	3		
服飾デザイン概論	2				○			2	2		
デザインプロセス		1			○			2	2		
消費者行動論Ⅰ	2				○			2		2	
グローバルマネジメント特論Ⅰ	2				○			2		2	
インターンシップ			2		○			2		集中90h	
								3	又は集中	又は集中	
長期インターンシップ			4		○			2		180h	
								3	又は180h	又は180h	
ショップディスプレイ	2				○			3		2	
メディアコミュニケーション論	2				○			3	2		
ファッション画(CG)			1		○			3		3	
アパレル産業論特講	2				○			3		2	
染織史	2				○		○	3	2		
ファッションプレゼンテーション演習		2			○		○	3	4		
ドレーピング&パターンメイキング(選)			1		○			3	3		
近代日本モード史	2				○			3	2		
リテールビジネスにおけるVMDマネジメント	2				○			3	2		
コミュニケーション論	2				○			3	2		
現代流通論	2				○			3	2		
関係											

授業科目名	単位数			履修方法				配 当 年 次	週時間数		備 考
	講	演	実 験 実 習	卒業を目的とするもの			資格取得を 目的と するもの		前	後	
				必 修	選 択	自 由					
家庭経営学(家族関係学 及び家庭経済学を含む)	2				○		○	2	2		
家庭電気・機械	1				○		○	2	1		
食物学(実践栄養学)	2				○		○	2		2	
家庭情報処理	1				○		○	2		1	
食物学(食品学)	2				○		○	3	2		
住居学(製図を含む)	2				○		○	3		2	
保育学(実習及び家庭看護を含む)	2				○		○	3		2	
食文化論	2				○			3	2		
食物学(調理実習・実験) I			1		○		○	3	3		
食物学(調理実習・実験) II			1		○		○	3		3	
専門選択小計	48	9	16								
専門科目小計	81	28	30								
専門科目合計	139										
目	専門科目の選択科目については上記のうちから卒業要件単位として30単位以上を修得すること。										
教	初 年 次	学習基礎	2			○			1	2	
養	キ ャ リ ア	文章表現	2			○			1	2	
		情報演習Ⅰ(学修ポートフォリオを含む)	1	1		○			1	2	
		情報演習Ⅱ(学修ポートフォリオを含む)	1	1		○			1		2
		キャリアプランニング	2			○			2		2
		社会人基礎A	2				○			1	2
一 般	社 会 人 基 礎 B	社会人基礎B	2			○				1	2
		心理学A	2			○			1・2	2	
		心理学B	2			○			1・2		2
		文学	2			○				1	2
		日本美術史	2			○		○		1	2
		西洋美術史	2			○		○		1	2
		憲法	2			○		○	1・2	2	
		社会福祉学A	2			○			1・2	2	
		社会福祉学B	2			○			1・2		2
		化学A	2			○			1・2	2	
体 育	体 育 B	化学B	2			○			1・2		2
		体育A		1		○		○	1	2又	は2
目	体 育	体育B		1		○		○	1・2		2

授業科目名	単位数			履修方法			配 当 年 次	週時間数		備 考
	講	演	実 験 実 習	卒業を目的とするもの				前	後	
				必 修	選 択	自 由				
言語と服飾文化	2			○			3・4	2		
日本文化・日本事情 I	2			○			1・3	2		外国人留学生は履修のこと
日本文化・日本事情 II	2			○			1・3		2	外国人留学生は履修のこと
英語(総合)A	2			○			2	2		
英語(総合)B	2			○			2		2	
ワールド・カルチャーA	2			○			2	2		
ワールド・カルチャーB	2			○			2		2	
実用英語 A	2			○			2	2		
実用英語 B	2			○			2		2	
ファッション英語 A	2			○			2	2		
ファッション英語 B	2			○			2		2	
フランス語(総合)A	2			○			2	2		
フランス語(総合)B	2			○			2		2	
ファッションフランス語 A	2			○			2	2		
ファッションフランス語 B	2			○			2		2	
中国語(総合)A	2			○			2	2		
中国語(総合)B	2			○			2		2	
中国語(会話)A	2			○			2	2		
中国語(会話)B	2			○			2		2	
英語(総合)I	2			○			1	2		
英語(総合)II	2			○			1		2	
基礎英会話 I	2			○			1	2		
基礎英会話 II	2			○			1		2	
フランス語(総合)I	2			○			1	2		
フランス語(総合)II	2			○			1		2	
フランス語(会話)I	2			○			1	2		
フランス語(会話)II	2			○			1		2	
中国語(総合)I	2			○			1	2		
中国語(総合)II	2			○			1		2	
中国語(会話)I	2			○			1	2		
中国語(会話)II	2			○			1		2	
日本語 I	4			○			1・3	4		*外国人留学生は下記の欄を参照
日本語 II	4			○			1・3		4	*外国人留学生は下記の欄を参照
教養科目合計	100	4								

教養科目については初年次の「学習基礎」2単位(必修)と、キャリアの「文章表現」「情報演習 I」「情報演習 II」「キャリアプランニング」8単位(必修)と、一般・体育・総合・国際関係より16単位以上を修得すること。

外国語は、英語・フランス語・中国語のいずれか I～IIまで8単位を修得すること。(母国語を除く)

*外国人留学生全員(編入生を含む)に対し、「学内日本語実力テスト」を実施し、その結果に応じて履修指導を行う。
 具体的には実力テストの結果に応じて ①「日本語 I (4単位)」「日本語 II (4単位)」を履修する
 ②「日本文化・日本事情(2単位)」は教養科目として留学生は履修する。
 但し、実力試験の結果、「日本語」を履修する必要のない者も「日本語 I (4単位)」「日本語 II (4単位)」を履修することができる。

教職課程履修者は教職課程の欄の○印の科目の単位を修得すること。

学芸員課程履修者は学芸員課程の欄の○印の科目の単位を修得すること。

授業科目名	単位数			履修方法			配 当 年 次	週時間数		備 考	
	講	演	実 験 実 習	必 修	選 択	自 由		資格取得を 目的と するもの			
								教 職 課 程	学 芸 員 課 程		
								前	後		
教 職 に 関 する 科 目	教師論	2					○	1	2		
	教育心理学	2					○	1	2		
	教育制度論	2					○	1	2		
	教育原理	2					○	2	2		
	教育課程論	2					○	2	2		
	特別支援教育概論	2					○	2	2		
	道徳の指導法	2					○	2		2	
	生徒指導論(進路指導を含む)	2					○	2		2	
	教科教育法基礎(家庭)	1					○	2		1	
	教育現場でのICT活用	1					○	2		1	
	特別活動の指導法	2					○	3	2		
	教育方法論	2					○	3	2		
	家庭科教育法(基礎)	2					○	3	2		
	総合的な学習の時間の指導法	2					○	3		2	
	家庭科教育法	2					○	3		2	
	教科教育法(家庭)	2	1				○	3		2	模擬授業を含む(集中)
	教育法規	2					(○)	3		2	
	教育相談(カウンセリングを含む)	2					○	3	2		
	教育実習(事前事後指導を含む)		1	4			○	4	2		他に中・高校で3週間実習
	教職実践演習(中等)		2				○	4		2	
計	34	4	4								
教職課程履修者は、教職に関する科目必修40単位を修得すること。他に7日以上(期間・介護・介助・交流等の体験が義務づけられている。											
博 物 館 に 関 する 科 目	生涯学習概論	2					○	1	2		
	博物館概論	2					○	1	2		
	博物館経営論	2					○	2	2		
	博物館資料論	2					○	2	2		
	博物館資料保存論	2					○	2		2	
	博物館展示論	2					○	3		2	
	博物館教育論	2					○	3	2		
	博物館情報・メディア論	2					○	3		2	
	博物館実習			3			○	4	3	3及集中	博物館概論修得者のみ履修可 博物館見学
計	16		3								
学芸員課程履修者は、博物館に関する科目19単位を修得すること。											
カリキュラムは、授業科目の段階的履修や体系的な履修を考慮して編成してあります。従って再履修の必要がある場合の履修順序は、下記の通りとします。 1) 原則として開講学年順とします。 2) 個々の履修状況に応じて審議決定します。											

(注)各科目の配当年次及び開講学期は都合により変更になることがあります。

服飾学部服飾表現学科カリキュラム表

(2023年度生)大-1

専 門 科 目	授業科目名	単位数			履修方法			目 黒 キ ヤ ン パ ス	日 野 キ ヤ ン パ ス	配 当 年 次	週時間数	
		講 義	演 習	実 験 実 習	卒業を目的とするもの						前 期	後 期
					必 修	選 択	自 由					
専 門 科	服飾造形基礎 I		3		○			○	1	6		
	服飾表現概論	1			○			○	1	1		
	色彩演習	2			○			○	1	2		
	衣服材科学	2			○			○	1	2		
	ドローイング I a		2		○			○	1	4		
	西洋服飾文化史	2			○			○	1	2		
	服飾造形基礎 II		3		○			○	1		6	
	グラフィックデザイン I		1		○			○	1		2	
	身体表現 Iー基本の動きー		1		○			○	1		2	
	写真表現		1		○			○	1		2	
	ファッション・フィールド・リサーチ		1		○			○	1		2	
	プレゼンテーション論	2			○			○	1		2	
	現代ファッション論	2			○			○	2	2		
	日本服飾文化史	2			○			○	2	2		
	表現心理学ー魅力の発見、魅力の伝達ー	2			○			○	2	2		
	身体表現 IIーパフォーマンスー		1		○			○	2	2		
	空間構成 I		1		○			○	2	2		
	画像表現		1		○			○	2	2		
	ドローイング・構想		1		○			○	2	2		
	グラフィックデザイン II		1		○			○	2	2		
	服飾表現演習		2		○			○	2	4		
	色材演習		1		○			○	2		2	
	服飾表現史	2			○			○	2		2	
	空間構成 II		2		○			○	2		4	
	立体造形構想		1		○			○	2		2	
	近代日本モード史		2		○			○	2		2	
	マーケティング・データサイエンス論	2			○				2	2又	は2	
マネキン学	2			○			○	3	2			
プレゼンテーション技法		2		○			○	3	4			
ポートフォリオ演習		2		○			○	3	4			
卒業制作企画		3		○			○	4	6			
卒業制作		6		○			○	4		12		
計		21	38	0								
専門科目(服飾関係)必修科目については、59単位を修得すること												
専 門 科 目	衣装デザイン・制作 I			2	(○)			○	2		6	
	スタイリング演習 I		2		(○)			○	2		4	
	ビジュアルマーチャンダイジング演習 I		2		(○)			○	2		4	
	ショープロデュース I		2		(○)			○	2		4	
	映像・メディア表現 I		2		(○)			○	2		4	
	衣装デザイン・制作 II			2	(○)			○	3	6		
	スタイリング演習 II		2		(○)			○	3	4		
	ビジュアルマーチャンダイジング演習 II		2		(○)			○	3	4		
	ショープロデュース II		2		(○)			○	3	4		
	映像・メディア表現 II		2		(○)			○	3	4		
	衣装デザイン・制作 III		6		(○)			○	3		12	
	スタイリング演習 III		6		(○)			○	3		12	
	ビジュアルマーチャンダイジング演習 III		6		(○)			○	3		12	
ショープロデュース III		6		(○)			○	3		12		
映像・メディア表現 III		6		(○)			○	3		12		
専門選択必修合計		0	46	4								
専門科目(服飾関係)選択必修科目については、10単位を修得すること												

専	授業科目名	単位数			履修方法			目	日	配	週時間数		備考		
		講	演	実	卒業を目的とするもの						野	年		前	後
					必	選	自								
		義	習	習	修	択	由	ス	ス	次	期	期			
服	流通・商業入門	2				○		○		1	2				
	ファッションビジネス概論	2				○		○		1	2				
	ファッション画Ⅰ		1			○		○		1	2				
	ファッション画Ⅱ		1			○		○		1		2			
	経営学入門	2				○		○		1	2又	は2			
	服飾造形応用		2			○		○		1		4			
	現代デザイン論	2				○		○		1	2又	は2			
	ファッション販売論	2				○		○		1	2又	は2			
	流行論	2				○		○		1	2又	は2			
	アパレル素材論	2				○		○		2	2又	は2			
	画像設計演習		1			○		○		2	2又	は2			
	ドローイングⅡ			1		○		○		2	3又	は3	原則として「ドローイングⅠ」修得者のみ履修可		
	和服構成論・実習Ⅰ			1		○		○		2	3				
	和服構成論・実習Ⅱ			1		○		○		2		3			
	衣服管理	2				○		○		2	2又	は2			
	染色化学	2				○		○		2		2			
	繊維ファッション産業構造論	2				○		○		2	2又	は2			
	ファッション史	2				○		○		2	2又	は2			
	インターンシップ			2		○		○		2・3		集中90h 又は集中 又は集中			
	色彩論	1				○		○		2		1			
	服飾手芸(ニットを含む)			1		○		○		3	3又	は3			
リテールマーチャンダイジング	2				○		○		3	2					
ショップディスプレイ	2				○		○		3	2又	は2				
服飾クラフト			1		○		○		3	3又	は3				
アパレル産業論特講	2				○		○		3	2又	は2				
民族衣裳論	2				○		○		3	2又	は2				
染織史	2				○		○		3	2					
ファッションプレゼンテーション演習		2			○		○		3	4					
開	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む)	2				○		○		2	2				
	家庭電気・機械	1				○		○		2	1				
	食物学(実践栄養学)	2				○		○		2		2			
	家庭情報処理	1				○		○		2		1			
	食物学(食品学)	2				○		○		3	2				
	住居学(製図を含む)	2				○		○		3		2			
	保育学(実習及び家庭看護を含む)	2				○		○		3		2			
	食文化論	2				○		○		3	2				
	食物学(調理実習・実験)Ⅰ			1		○		○		3	3				
	食物学(調理実習・実験)Ⅱ			1		○		○		3		3			
科	専門選択小計	47	7	9											
	専門科目小計	68	91	13											
	専門科目合計	172													
目	専門科目の選択科目については上記のうちから卒業要件単位として 21 単位以上を修得すること。														

	授業科目名	単位数			履修方法 卒業を目的とするもの			目 黒 キ ヤ ン パ ス	日 野 キ ヤ ン パ ス	配 当 年 次	週時間数		備 考
		講	演	実 験 実 習	必 修	選 択	自 由				前 期	後 期	
教	初年次	学修基礎	2			○			○	1	2		
	キャリア	文章表現	2			○			○	1	2		
情報演習Ⅰ(学修ポートフォリオを含む)		1	1		○			○	1	2			
情報演習Ⅱ(学修ポートフォリオを含む)		1	1		○			○	1		2		
キャリアプランニング		2			○			○	2	2			
一般		社会人基礎A	2				○		○	1	2		
養	社会人基礎B	2				○		○	1		2		
	心理学A	2				○		○	1・2	2			
	心理学B	2				○		○	1・2		2		
	文学	2				○		○	1	2又	は2		
	日本美術史	2				○		○	1	2又	は2		
	西洋美術史	2				○		○	1	2又	は2		
	憲法	2				○		○	1・2	2又	は2		
	社会福祉学A	2				○		○	1・2	2			
	社会福祉学B	2				○		○	1・2		2		
	化学A	2				○		○	1・2	2			
	化学B	2				○		○	1・2		2		
	体育	体育A		1			○		○	1	2又	は2	
		体育B		1			○		○	1・2		2	
科	国際関係	言語と服飾文化	2			○		○	3・4	2又	は2		
	日本文化・日本事情Ⅰ	2				○		○	1・3	2		外国人留学生は履修のこと	
	日本文化・日本事情Ⅱ	2				○		○	1・3		2	外国人留学生は履修のこと	
	英語(総合)A	2				○		○	2	2			
	英語(総合)B	2				○		○	2		2		
	ワールド・カルチャーA	2				○		○	2	2			
	ワールド・カルチャーB	2				○		○	2		2		
	実用英語 A	2				○		○	2	2			
	実用英語 B	2				○		○	2		2		
	ファッション英語 A	2				○		○	2	2			
	ファッション英語 B	2				○		○	2		2		
	フランス語(総合) A	2				○		○	2	2			
	フランス語(総合) B	2				○		○	2		2		
	ファッションフランス語 A	2				○		○	2	2			
	ファッションフランス語 B	2				○		○	2		2		
	中国語(総合) A	2				○		○	2	2			
	中国語(総合) B	2				○		○	2		2		
	中国語(会話) A	2				○		○	2	2			
	中国語(会話) B	2				○		○	2		2		

授業科目名	単位数			履修方法			目黒キャンパス	日野キャンパス	配当年	週時間数		備考
	講義	演習	実習	卒業を目的とするもの						前	後	
				必	選	自						
英語(総合)I	2				○		○		1	2		
英語(総合)II	2				○		○		1	2		
基礎英会話 I	2				○		○		1	2		
基礎英会話 II	2				○		○		1	2		
フランス語(総合)I	2				○		○		1	2		
フランス語(総合)II	2				○		○		1	2		
フランス語(会話)I	2				○		○		1	2		
フランス語(会話)II	2				○		○		1	2		
中国語(総合)I	2				○		○		1	2		
中国語(総合)II	2				○		○		1	2		
中国語(会話)I	2				○		○		1	2		
中国語(会話)II	2				○		○		1	2		
日本語 I	4				○		○		1・3	4	*外国人留学生は下記の欄を参照	
日本語 II	4				○		○		1・3	4	*外国人留学生は下記の欄を参照	
教養科目小計	104	4	0									
教養科目総合計	108											
<p>服飾表現学科「専攻」、「インターンシップ」に関して</p> <p>■「専攻」に関して 服飾表現に関する豊かな知識・技術を修得して、服飾表現の専門職業人として活躍できる能力の育成のために、以下のように専攻科目を履修することとする。 1)一つを選んで「主専攻」とする。 2)主専攻科目以外の専攻科目の履修による単位取得を可能とする。</p> <p>■「インターンシップ」に関して 服飾表現に関する豊かな知識・技術を修得して、服飾表現の専門職業人として活躍できる能力の育成のためには、実際の職場における体験でなければ得られないことが多い。それを実践するためには「長期インターンシップ」が不可欠である。 専攻科目の授業の一環として、以下のように「長期インターンシップ」を実施する。 ・「長期インターンシップ」は単位化する。 ・実施は「3年次前期」から「4年次前期」までの期間内とする。 ・上記期間中に「集中」若しくは「分割」して実施する。</p> <p>※「長期インターンシップ」に関連する科目</p> <p>3年前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「衣装デザイン・制作Ⅱ(長期インターンシップを含む)」(3年前期、実験実習2単位) ・「スタイリング演習Ⅱ(長期インターンシップを含む)」(3年前期、演習2単位) ・「ビジュアルマーチャンダイジング演習Ⅱ(長期インターンシップを含む)」(長期インターンシップを含む)」(3年前期、演習2単位) ・「ショープロデュースⅡ(長期インターンシップを含む)」(3年前期、演習2単位) ・「映像・メディア表現Ⅱ(長期インターンシップを含む)」(3年前期、演習2単位) <p>3年後期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「衣装デザイン・制作Ⅲ(長期インターンシップを含む)」(3年後期、演習6単位) ・「スタイリング演習Ⅲ(長期インターンシップを含む)」(3年後期、演習6単位) ・「ビジュアルマーチャンダイジング演習Ⅲ(長期インターンシップを含む)」(3年後期、演習6単位) ・「ショープロデュースⅢ(長期インターンシップを含む)」(3年後期、演習6単位) ・「映像・メディア表現Ⅲ(長期インターンシップを含む)」(3年前期、演習6単位) <p>4年前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「衣装デザイン・制作卒業制作企画(長期インターンシップを含む)」(4年前期、演習3単位) ・「スタイリング卒業制作企画(長期インターンシップを含む)」(4年後期、演習3単位) ・「ビジュアルマーチャンダイジング卒業制作企画(長期インターンシップを含む)」(4年後期、演習3単位) ・「ショープロデュース卒業制作企画(長期インターンシップを含む)」(4年後期、演習3単位) ・「映像・メディア表現卒業制作企画(長期インターンシップを含む)」(4年前期、演習3単位) <p>・教養科目については初年次の「学修基礎」2単位(必修)と、キャリアの「文章表現」「情報演習Ⅰ」「情報演習Ⅱ」「キャリアプランニング」8単位(必修)と、一般・体育・総合・国際関係より16単位以上を修得すること。</p> <p>・外国語は、英語・フランス語・中国語のいずれかⅠ～Ⅱまで8単位を修得すること。(母国語を除く)</p> <p>*外国人留学生全員(編入生を含む)に対し、「学内日本語実力テスト」を実施し、その結果に応じて履修指導を行う。 具体的には実力テストの結果に応じて ①「日本語Ⅰ(4単位)」「日本語Ⅱ(4単位)」を履修する ②「日本文化・日本事情(2単位)」は教養科目として留学生は履修する。 但し、実力試験の結果、「日本語」を履修する必要のない者も「日本語Ⅰ(4単位)」「日本語Ⅱ(4単位)」を履修することができる。</p> <p>カリキュラムは、授業科目の段階的履修や体系的な履修を考慮して編成してあります。従って再履修の必要がある場合の履修順序は、下記の通りとします。</p> <p>1)原則として開講学年順とします。</p> <p>2)個々の履修状況に応じて審議決定します。</p>												

別表1 入学選考料、入学金および授業料等

杉野服飾大学

単位： 円

	服飾学部	専攻科
入 学 金 (1 年 次 の み)	300,000	100,000
授 業 料 (年 額)	800,000	500,000
実 験 実 習 費 (年 額)	40,000	20,000
施 設 ・ 設 備 費 (1 年 次 年 額) (2 年 次 以 降 年 額)	300,000 200,000	100,000
維 持 費 (年 額)	20,000	
入 学 選 考 料	35,000	30,000

備考

1. 服飾学部1年次の施設・設備費は前期と後期で半額ずつ納入するものとする。
2. 大学入学共通テストを利用した場合の入学選考料は17,000円とする。

変更事項を記載した書類（変更の事由及び変更点）

1. 変更の事由

服飾学部服飾文化学科を新たに設置するにあたり、服飾文化学科の入学定員を40名とし、服飾学部の入学定員240名を280名とし、収容定員1020名を1180名と変更する。

2. 変更点

杉野服飾大学学則第5条（大学院、学部、学科及び収容定員）第1項中

服飾学部	
入学定員	240名
服飾学科	200名
服飾表現学科	40名
編入学定員(3年次)	30名
収容定員	1020名

を

服飾学部	
入学定員	280名
服飾学科	200名
服飾表現学科	40名
服飾文化学科	40名
編入学定員(3年次)	30名
収容定員	1180名

に改める

変更の時期 令和5年4月

杉野服飾大学学則の一部改正

杉野服飾大学学則の一部を次のとおり改正する。

新旧対照表

改正	現行
<p>(学科および学生定員)</p> <p>第5条 本学に、次の大学院研究科及び学部、学科をおく。</p> <p style="padding-left: 2em;">大学院 造形研究科</p> <p style="padding-left: 4em;">入学定員 10名</p> <p style="padding-left: 4em;">収容定員 20名</p> <p style="padding-left: 2em;">服飾学部</p> <p style="padding-left: 4em;">入学定員 <u>280名</u></p> <p style="padding-left: 4em;">服飾学科 200名</p> <p style="padding-left: 4em;">服飾表現学科 40名</p> <p style="padding-left: 4em;"><u>服飾文化学科 40名</u></p> <p style="padding-left: 2em;">編入学定員(3年次) 30名</p> <p style="padding-left: 2em;">収容定員 <u>1180名</u></p> <p>附則</p> <p style="padding-left: 2em;"><u>本学則は、令和5年4月1日から施行する。</u></p>	<p>(学科および学生定員)</p> <p>第5条 本学に、次の大学院研究科及び学部、学科をおく。</p> <p style="padding-left: 2em;">大学院 造形研究科</p> <p style="padding-left: 4em;">入学定員 10名</p> <p style="padding-left: 4em;">収容定員 20名</p> <p style="padding-left: 2em;">服飾学部</p> <p style="padding-left: 4em;">入学定員 240名</p> <p style="padding-left: 4em;">服飾学科 200名</p> <p style="padding-left: 4em;">服飾表現学科 40名</p> <p style="padding-left: 2em;">編入学定員(3年次) 30名</p> <p style="padding-left: 2em;">収容定員 1020名</p>

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目次

ア 学則変更（収容定員変更）の内容	p.2
イ 学則変更（収容定員変更）の必要性	p.2
ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	p.5
(ア) 教育課程の変更内容について	p.5
(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容	p.6
(ウ) 教員組織の変更内容	p.8
(エ) 大学全体の施設・設備の変更内容	p.8
資料目次	(資料) - p.1

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア 学則変更(収容定員変更)の内容

杉野服飾大学服飾学部¹に服飾文化学科(入学定員40名)を設置する。またそれに伴い、杉野服飾大学服飾学部²の入学定員240名を280名に、収容定員1020名を1180名とする。

杉野服飾大学

	変更前			変更後		
	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
服飾学部	240	30	1020	<u>280</u>	30	<u>1180</u>
服飾学科	200	30	860	200	30	860
服飾表現学科	40	—	160	40	—	160
<u>服飾文化学科(新設)</u>	—	—	—	<u>40</u>	—	<u>160</u>

イ 学則変更(収容定員変更)の必要性

杉野服飾大学は服飾に特化した教育研究を行う服飾学部³のみの単科大学である。服飾学部は服飾学科と服飾表現学科の2学科から構成されている。

服飾学科は服飾における造形を学ぶ領域と服飾に関するビジネスを学ぶ2つの領域から成り、ビジネスの分かるクリエイター、クリエイションの分かるビジネス人の養成を目指している。2年次以降の専門課程では、6つの専門コースに分かれる。

服飾表現学科は創り出された服飾を人々に伝える表現の仕方を学ぶ学科で、5つの専攻があり、それぞれの分野において服飾をいかに表現し伝えるかを教育研究する学科である。

学科	領域	コース・専攻
服飾学科	造形系	モードクリエイションコース インダストリアルパターンコース テキスタイルデザインコース ファッションプロダクトデザインコース
	ビジネス系	ファッションビジネス・マネジメントコース ファッションビジネス・流通イノベーションコース
服飾表現学科		衣装表現専攻 スタイリング専攻 ビジュアルマーチャンダイジング専攻 ショープロデュース専攻 映像・メディア表現専攻

今回、前記の2学科に加え「服飾文化学科」を新しく設置する。新学科は入学定員40名とし、収容定員160名を大学の定員増加として申請するものである。

この定員増加にあたっては、同じ法人内の杉野服飾大学短期大学部（入学定員50名、収容定員100名）が令和4年4月に学生募集を停止し、令和5年4月以降に廃止申請の予定であることから、この短大の人材、設備等を活用することとしたい。短期大学部も服飾学科の1学科のみであり、教育研究分野が同じ「服飾」であることから、教員、設備ともにフルに活用できると考えている。

<服飾文化学科設置の必要性>

服飾文化学科は服飾に関する文化現象の諸相について教育研究することを目的とした学科である。

服飾における伝統技術、あるいは歴史衣装、民族衣装などの服飾の史料の保存、そして次世代への継承は、重要課題の一つである。服飾品に見られる素材・技術・意匠は時代の産業構造や科学技術、文化的背景にともなう美意識とつながるものである。服飾は時代や社会を映し出す存在であり、世界と日本の服飾文化を歴史的、空間的に捉える視点を養うことは現代の服飾文化が抱える諸課題に向き合うことに繋がっていく。

SDGs が広く訴えられている現代社会にあつては、服飾産業と服飾の消費生活においても環境・社会・人権への配慮の必要性が訴えられている。織研新聞は認定 NPO 法人 ACE との繊維・ファッション企業を対象とした共同調査「サステナブル（持続可能）な調達に関するアンケート」の「SDGs を意識した事業活動」の記事で「あらゆる産業界で SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向け、企業にも本業を通じた環境・社会への貢献が求められている。企業規模や事業内容などによって濃淡はあるものの、サステナブルな事業活動を推進する動きが広がっている。」¹¹としている。この動きを捉え推進していくためには、それに至る因果関係を理解することにも繋がっていく。

このように歴史的流れの上に現代的問題を見出すこと、また現代的問題に照らして歴史を捉えていくところに本学科の教育研究の姿勢がある。現代の服飾文化が直面する諸問題について課題解決を自ら目指し新しい提案ができる人材を養成することが今や必要不可欠である。

本学の2つの既設学科における服飾に関する学びには、歴史や社会における服飾のあり方等を考察する授業が理論を中心に組み込まれているが、服飾文化学科では社会における服飾のあるべき姿をより深く掘り下げ、実践的な教育として理論と制作の双方の面から教育研究をしていく必要がある。

このため、服飾文化の価値を次世代に継承、伝承する教育研究と、持続可能な社会のための新しい服飾文化の創造に向けられた教育研究を二本の柱とする学科を新た

に設置し、本学の服飾教育研究の領域を広げたいと考える。

- 1)「繊維・ファッション企業の95%が実施」 織研新聞「SDGsを意識した事業活動」
2021（令和3）年12月3日、1面

<定員増の必要性>

平成30年度から令和3年度までの4年間の服飾学科と服飾表現学科の入学定員充足の状況は以下の通りである。

学科	入学定員	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
服飾学科	200	0.89	0.92	0.86	0.77
服飾表現学科	40	0.55	0.60	0.72	0.60

服飾学科はこの2年間入学者数が減少しているが、それまでは入学定員の9割前後で推移してきた。この減少はコロナ禍により対面のオープンキャンパスが開催できなかったことが大きいと考えている。令和4年度からは対面でのオープンキャンパスをできるだけ開催し、学内見学者も多く受け入れ、造形の教育現場を実際に見て理解してもらい、志願者数を2年前の水準以上に戻すことを目指している。

服飾表現学科は定員を大きく割っているが、服飾学科と異なり、令和2年度、3年度はそこからの減少には至っていない。この服飾表現学科は平成30年度に開設、令和3年度で完成年度に達した学科で、この3月に第1期生が卒業するが、在学生のGPAを調べると服飾学科より高い傾向にある。服飾学科と服飾表現学科で多くの履修科目が共通している初年次の学生の成績をこの2学科で比較すると以下のようになる。

学科	平成30年度生 1年次 GPA 平均値	令和元年度生 1年次 GPA 平均値	令和2年度生 1年次 GPA 平均値
服飾学科	2.541	2.335	2.401
服飾表現学科	2.870	2.774	2.574

このことから服飾表現学科自体は認知度がまだ低く入学者数が伸び悩んでいるが、入学した学生は目的意識を持ち、学修意欲の高い者が多いと考えられる。

服飾表現学科は5つの専攻に分かれる教育課程であるので、教育内容から考えて現状の40名の枠のまま、今後、学科の充実を図りたい。4年間の学びの内容をより積極的に発信し、認知度を高めていくことで定員の充足と、学修内容の一層の充実を目指していきたいと考えている。

以上より、既設の2学科は現状を維持し、来年度より対面のオープンキャンパス、体験授業、模擬授業等々の地道な広報活動をできるだけ復活させ、さらにSNSによる積極的な発信をより強化させていくことで、定員充足を目指すこととしたい。

新設の学科の入学定員は、令和5年度以降廃止予定の短期大学部の入学定員50名

をそのまま移行するのではなく、10名少ない40名と設定した。この40名は「学生確保の見通し等を記載した書類」の(1)①で述べているが、本学実施の高校生対象のWEBアンケート結果から新設学科への関心が高く新たな志願者層が期待できることと、一方で全国の大学入学者数及び被服学科の入学者数が減少傾向にあることを併せて考慮し判断した数字である。また、新設の学科では演習27科目、実習22科目が開講予定であるが、この40名はそうした教育を1クラスの枠として教員、教室、設備等の面で無理なく展開できる人数とも考えている。

ウ 学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程等の変更内容

(ア) 教育課程の変更内容について

今回の収容定員変更においては、大学の教育課程として新学科の教育課程が新たに加わる形であり、既設学科(服飾学科、服飾表現学科)の教育課程に変更は生じない。

杉野服飾大学の教育課程においては実習(実技)に重きを置いているということが言える。服飾学科では造形を中心に学ぶ領域のみならずビジネスの領域で学ぶ学生も全員服飾造形の基礎を初年次の必修科目として履修する。服飾表現学科も同様である。服そのものを理解した上でそれぞれの専門の学びを進めていくことに本学の教育の特色がある。設置予定である服飾文化学科においてもこの方針は貫かれており、学生は理論のみではなく、実際に「つくる」ことから服飾への理解、考察を深めていく教育課程が編成されている。

既設の学科と共通する基礎科目や教養科目などにおいては、大学としてはクラス数が増加することになる。ただ、これまで大学の教員が廃止予定の短期大学の同様の授業を担当していたケースも多い。そうした教員が新学科の授業を担当することで新たな負担は生じず、同等の授業内容が確保できる。服飾造形の授業においては、短期大学の服飾造形の教員が新学科の授業を担当することにより、大学既設学科の授業に影響は及ぼさない。

[初年次教育]

初年次教育課程は、服飾に関する基本的な知識と技術を修得するための課程として、必修科目と専門選択科目および学習基礎(初年次教育)を置き、既設の2学科と共通する科目を含めた学科独自の科目編成とする。服飾造形の基礎とファッションビジネスの基礎の両方を全員学ぶことになるのは既設の2学科と同じである。そのうえで専門に繋がる学科独自の科目として、「サステイナブル・ファッション概論」を専任教員のオムニバス授業で行い、教員一人一人の立場、視点から講義し、服飾における視野を広げていく。

[専門教育]

2年次からの専門教育課程は、服飾に関する理論と制作の双方から総合的に取り組む

課程として、日本および世界の服飾文化を歴史的、空間的に捉え、現代が抱える様々な問題を見出し、問題解決に向けての発想力、提案力を高めていくための科目編成とする。

新学科の教育の二本の柱のうち、まず、服飾文化の次世代への継承、伝承という観点からは2年次以降に「服飾史料研究」「衣の伝統と現代」「民族衣裳論」「衣服修復技術」の講義・演習科目と「レプリカ製作（歴史衣装）」「レプリカ製作（民族衣装）」の実習科目が必修として課せられる。

もう一つの柱の持続可能な社会のための新しい服飾文化の創造の観点からは「サステイナブル・ファッション概論」が初年次の必修科目として置かれているが、2年次には「ファッションと環境」「ユニバーサルファッション論」の講義科目が必修として置かれ、同時に「リ・ファッション実習」「エシカル・ファッション実習」と実習科目が必修として課せられている。

また、上記の専門科目においてはそれぞれ関係する企業や博物館、地域の文化活動施設等々との連携も授業内容に組み込む予定である。

3年次では「服飾文化演習」「服飾文化造形演習」にそれぞれA,Bとして上記の2本の柱（系統）を学生は選択し、卒業制作または卒業論文につなげていくことになる。

このように専門課程では理論と制作の両面から学びを深めていく科目編成となっており、学生は最終的に卒業年次で卒業論文、卒業制作のいずれかを選び取り組むことになる。

[教養教育]

教養教育では、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目的として、キャリア・一般・体育・国際関係・外国語に関する科目編成とする。

本学の教養科目の中で国際関係に位置づけられる科目には内容として「服飾」「ファッション」に関する要素を取り入れた授業があることが一つの特長である。3, 4年次の選択科目である「言語と服飾文化」は服飾造形の教員と英語の教員の共同授業で1940～1950年代のパリ・オートクチュールについての英文を扱い、英語と服飾文化の両方に焦点を当てた授業科目である。またファッション英語語彙・表現の修得を目指す「ファッション英語」という科目も2年次の選択科目として開講されている。服飾を学ぶ学生に、より興味を持って学べる授業科目として開講されてきているが、新学科の学生にとっても学科の学びに深く関係してくる科目であると言える。

(イ)教育方法及び履修指導方法の変更内容

<教育方法の変更内容>

新学科の初年次教育課程では、服飾関連科目について、概論から実技まで講義・演習・実習の幅広い授業形態で行い、2年次からの専門教育に向けた基本的な知識と技術を習得する。また、学習基礎（初年次教育）は大学における学生生活と学修に向けた内容（チューデントスキル、アカデミックスキル、ソーシャルスキル）で組み立てられ、大学

4年間の学びの導入として各専門の教員がオムニバス形式で行う。これらの授業ではその内容に応じ、アクティブ・ラーニングを適切に取り入れる。

また専門教育課程では、初年次教育の基礎的な学修を踏まえ、服飾文化に関する理論と制作の双方から専門的に学修を積み重ねていく。

2年次では、講義科目で服飾文化学科における専門教育の基礎となる知識を学び、実習科目により新たな服飾文化を創造するための技術力を身につける。特に実習系の科目では博学連携・産学連携・域学連携プロジェクトに積極的に取り組んでいく。この連携プロジェクトの実施においては令和5年度以降廃止予定の短期大学部所属の教員がこうした授業も担当するが、もともと短期大学部では「地域貢献プログラム」という授業を地元の東京都品川区と提携して教員全員が関わりながら学生主導で展開し、学外の高い評価を毎年得てきている実績がある。この経験を活かし、新学科でも企業、地域等との連携による授業を実施していく計画である。

さらに全体として本学では、演習、実習科目において、15回の途中や最後の回でプレゼンテーションを課し、成績評価の基準の一つとする授業が多い。プレゼンテーションを行い、それについてディスカッションを行うという教育方法は数多くの授業で実施されており、学生は自身の表現したいことの言語化と同時にビジュアルに示す能力が求められる。この教育方法は、新学科でも、実習、演習の授業を中心に実施されることになる。

<履修指導方法の変更内容>

本学では初年次にクラス担任制をとっており、担任と副担任の2名がクラスごとに置かれる。副担任はほとんどが服飾造形の科目を担当する教員で授業時間が長いことから学生との接点が多くなり、学生が教員に相談するときのハードルが低くなることや、一人で抱え込まずに共通の問題として副担任に相談できることで担任の心理的負担が軽減されるといったメリットがある。

その担任と副担任の教員で「初年次教育課程連絡委員会」が構成されている。この委員会は月に一度開かれ、欠席等の問題があると思われる学生についての情報交換が議題とされている。クラス担任だけでは把握できない学生の授業態度、生活態度、友人関係などについての情報交換がなされ、問題のありそうな学生の履修状況を確認し、本人あるいは保護者と連絡をとって個人指導、面接等を行ったりしている。また委員会では「スカートコンテスト」や本学の卒業生による講演などを企画し、学生のモチベーションを高める工夫にも取り組んでいる。

新学科においても担任、副担任は同じに置かれる。その担任、副担任が初年次教育課程連絡委員会のメンバーとなり、同様の情報交換、個人指導等が行われる予定である。また委員会の時のみではなく、欠席の続く学生や悩みを抱えた学生については、学内システムのmanabaを教員がフルに活用し、教員同士の意見交換、学生への連絡、やり取りを普段から行っているが、このシステムも新学科で同様に活用される予定である。

2 年次以降は服飾学科の専門課程ではコース主任がコース所属の他の教員と協力しながら学生の指導を行い、さらにコース主任会議で話し合いをしたうえで、卒業までを見ていく形である。新学科は服飾表現学科と同じ規模で1クラス編成となることから、学科の専任教員で構成される学科会議により、学生の情報交換が行われていくことになる。成績不良の学生は大学全体の教授会で年度末に報告されるが、そうした学生に関しては教員のみならず教務課でも学生を呼び出し、できるだけ遅滞なく学修を進めていけるよう一人一人と話し合い、アドバイスを与える形で履修指導にあたっており、新学科でも教職協働により指導をしていく体制をとることとしている。

(ウ)教員組織の変更内容

新学科の教員組織は開設時点では、専任の教授 5 名、講師 1 名、助手 2 名の計 8 名で構成されるが、2 年次の専門課程に入ってから専任の教授 5 名、講師 2 名、助手 3 名の計 10 名で授業を運営していく予定である。この学科の助教以上の教員一人あたりの学生数（収容定員数）は 22.86 であり、服飾学部全体では 26.82 である。服飾学部は定員変更前は 25.5 であり、定員増により学生の割合が若干高くなるが、新学科においても助手 3 名が実習の授業中心に教員のサポートに入ることによって、教員組織としての指導体制は十分確保できる。

廃止予定の短期大学部からは服飾造形を専門分野とする教授 2 名、講師 1 名が異動して大学の新学科の所属となる。うち教授 1 名は以前からリ・ファッションに関する研究を進めてきており、新学科においても「リ・ファッション実習」「エシカル・ファッション実習」を担当し、この領域の学びを選択する学生を卒業制作まで指導していく。もう 1 名の教授、講師は初年次の必修科目「服飾造形基礎Ⅰ・Ⅱ」、選択科目の「服飾造形応用」を担当する。

さらに講師 1 名を新規採用する。博物館の学芸員として服飾の展示、保存等の業務経験のある教員で、その知識、技術を活かし、2 年次以降の「服飾史料研究」「レプリカ製作」「服飾文化造形演習」から卒業制作の指導に至るまで専門教育を担当する。

また新学科のカリキュラムでは、2 年次以降も様々な造形の実習、演習の授業があり、さらに産学連携、域学連携、博学連携も授業に織り込まれる予定であるが、学生指導が滞らないよう担当教員のほか、造形の助手 3 名を各授業に配置する。

理論の面での指導には西洋服飾史専門の教授 1 名と日本服飾史専門の教授 1 名が中心となって 1 年次から授業を展開し、卒業論文まで一貫して指導できる体制をとることとしている。

(エ)大学全体の施設・設備の変更内容

併設の杉野服飾大学短期大学部が令和 5 年 4 月廃止予定であることから短期大学部専用としていた第 4 校舎（校舎建物面積：4,159.53 m²）の教室、設備は令和 5 年度よ

り全て大学の専用とすることになっている。

今回新設を予定している服飾文化学科が短期大学部で専用としていた教室等を使用する。短期大学部も服飾学科 1 学科のみの組織であり、2 年間のカリキュラムは服飾造形を中心として組まれていたため、服飾造形の実習室と設備はそのまま大学の新設の学科で使用することが可能である。従って、今回の定員増に関して特別に新たな教室の整備等を行わない予定である。第 4 校舎の短期大学部専用であった服飾造形の実習室 4 室、講義室 1 室のうち、225 m²の広さの講義室 1 室は大教室であるため、新学科と既設学科との共用とし、他は新設の学科専用とする。大学専用としていた第 3 校舎の教室に関しては、選択科目で既設学科と共通の授業もあり、講義室は新学科と既設学科が共有で使用することになるが、クラス単位の必修科目の授業は第 4 校舎の新学科専用の講義室で行うこととする。

短期大学部専用としていたロッカー室や学生が休憩などに使用する談話室も新設学科の学生が専用で使用可能であり、既設の 2 学科の学生用の施設使用に影響は及ぼさない。

今後、ミシン、パソコン等々の設備に関しても従来どおりメンテナンスを行い、買い替えが必要な場合には新規購入をしていくことになるが、事前に特別な予算の計上は必要ないと考えている。

開設年度には所要の経常的な教育研究経費を予算に計上する予定である。

資料目次

【資料】教育課程等の概要

p. 2

教育課程等の概要

(服飾学部服飾学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目 (服飾関係)	必修科目	服飾造形基礎Ⅰ	1前	3			○		1		2	1	3	兼3
	服飾造形基礎Ⅱ	1後	3			○		1		2	1	3	兼3	
	流通・商業入門	1前	2			○							兼1	
	ファッションビジネス概論	1前	2			○		1						
	ファッション・フィールド・リサーチ	1前・後	1				○						兼3	
	衣服材料学	1前・後	2			○							兼1	
	西洋服飾文化史	1前・後	2			○							兼1	
	ファッション画Ⅰ	1前	1				○					1	兼2	
	ファッション画Ⅱ	1後	1				○						兼2	
	色彩演習	1前・後		2		○			1					
	ドローイングⅠa	1前・後		2			○		1				兼1	
	ドローイングⅠb	1前・後		2			○		1					
	経営学入門	1前・後		2		○							兼1	
	日本服飾文化史	2前・後	2			○							兼1	
	アパレル素材論	2前・後	2			○					2			
	色材演習	2前・後	1				○						兼1	
	マーケティング・データサイエンス論	2前・後	2			○					1			
	現代ファッション論	2前・後		2		○							兼1	
	CADパターンメイキング	2前・後		1			○					2		
	小計(19科目)	—	—	24	11	0	—	—	—	6	0	9	2	7
コース必修科目	モードクリエーションⅠ	2前		3			○				2	1	2	
	モードクリエーションⅡ	2後		3			○				2	1	2	
	ドレーピング&パターンメイキングⅠ	2前		1			○					1		
	ドレーピング&パターンメイキングⅡ	2後		1			○					1		
	モードデザインⅠ	2後		1			○			1				
	服飾デザイン概論	2前		2		○							兼1	
	装飾技法	2後		1			○				1	1		
	ファッション史	2前・後		2		○							兼1	
	モードクリエーションⅢ	3前		4			○		2				1	
	モードクリエーションⅣ	3後		4			○		2				1	
	ドレーピング&パターンメイキングⅢ	3前		1			○					1		
	ドレーピング&パターンメイキングⅣ	3後		1			○					1		
	モードデザインⅡ	3前		1			○			1				
	モードデザインⅢ	3後		1			○			1				
	アパレルCADⅠ	3前		1			○						兼1	
	アパレルCADⅡ	3後		1			○						兼1	
	モードデザインⅣ	4前		1			○			1				
	卒業制作Ⅰ(モード)	4前		4			○		2				1	
	卒業制作Ⅱ(モード)	4後		4			○		2				1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 (服飾関係)	コース必修科目															
	インダストリアルパターンⅠ	2前		2				○			1					
	インダストリアルパターンⅡ	2後		2				○			1					
	感性産業デザインⅠ	2前		3				○			1					
	感性産業デザインⅡ	2後		3				○			1					
	CGデザインⅠ	2前		1					○		1					
	CGデザインⅡ	2後		1					○		1					
	人体工学設計技術Ⅰ	2前		2			○			1						
	人体工学設計技術Ⅱ	2後		2			○			1						
	インダストリアルパターンⅢ	3前		2					○			1				
	インダストリアルパターンⅣ	3後		2					○			1				
	CGデザインⅢ	3前		1					○	1						
	CGデザインⅣ	3後		1					○	1						
	CAD&3D演習Ⅰ	3前		1				○		1						
	CAD&3D演習Ⅱ	3後		1				○		1						
	感性産業CADⅠ	3前		3				○				1				
	感性産業CADⅡ	3後		3				○				1				
	卒業制作Ⅰ(インダストリアル)	4前		3					○	1						
	卒業制作Ⅱ(インダストリアル)	4後		4					○	1						
	テキスタイルデザインⅠ	2前		2					○			1				
	テキスタイルデザインⅡ	2後		2					○			1				
	ダイイングテクニックⅠ	2前		2					○			1			兼1	共同
	ダイイングテクニックⅡ	2後		2					○			1			兼1	共同
	素材設計論Ⅰ	2前		2			○					1				
	素材設計論Ⅱ	2後		2			○					1			兼1	
	テキスタイルデザインⅢ	3前		2					○			1				
	テキスタイルデザインⅣ	3後		2					○			1				
	ダイイングテクニックⅢ	3前		2					○			1				
	ダイイングテクニックⅣ	3後		2					○			1				
	ニットⅠ	3前		2				○				1				
	ニットⅡ	3後		2				○				1				
	プリントデザイン演習Ⅰ	3前		1				○							兼1	
	プリントデザイン演習Ⅱ	3後		1				○							兼1	
	素材分析実験	3後		1					○			1				
	画像表現演習Ⅰ	3前		1				○				1				
	画像表現演習Ⅱ	3後		1				○							兼1	
	テキスタイルデザインⅤ	4前		1					○						兼1	
	卒業制作Ⅰ(テキスタイル)	4前		4					○			2				共同
	卒業制作Ⅱ(テキスタイル)	4後		4					○			2				共同
	ファッションプロダクトデザイン論	2前		2			○			1						
	ファッションプロダクトデザインⅠ	2前		2				○		1			2			共同
	ファッションプロダクトデザインⅡ	2後		2				○					2		兼1	共同
デザインプロセス	2前		1				○		1							
アクセサリデザイン	2後		1				○		1							
デジタルデザインワークⅠ	2前		1					○						兼1		
デジタルデザインワークⅡ	2後		1					○						兼1		
プロダクトデザイン演習Ⅰ	2後		2				○							兼1		
ファッションプロダクトデザインⅢ	3前		4				○		1			1		兼2	共同	
ファッションプロダクトデザインⅣ	3後		4				○		1			1		兼2	共同	
ファッションプロダクトデザインゼミ	3前		1					○	1			1			共同	
マテリアル実習Ⅰ(金属)	3前		1					○	1							
マテリアル実習Ⅱ(金属)	3後		1					○	1							
プロダクトデザイン演習Ⅱ	3前		2				○							兼1		
デジタルデザインワークⅢ	3前		1					○				1				
卒業制作Ⅰ(プロダクト)	4前		4					○	1			2		兼2	共同	
卒業制作Ⅱ(プロダクト)	4後		5					○	1			2		兼2	共同	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 (服飾関係)	消費行動論Ⅰ	2後		2		○									兼1	
	ビジネスプレゼンテーション技法	2前		1			○			1					兼1	
	企業会計入門	2前		2		○									兼1	
	グローバルマネジメント特論Ⅰ	2後		2		○									兼1	
	ファッションエディトリアルⅠ	2後		2			○								兼1	
	ファッションマーケティング論	2前		2		○									兼1	
	プレゼミ (マネジメント)	2通		2			○		1		1		1		兼1	共同
	プレゼミ (イノベーション)	2通		2			○		1							
	ブランド・マネジメント論	3前		2		○			1							
	トレンド分析とディレクション制作	3前		2		○			1					1		
	P.R. マネジメント論	3前		2		○									兼1	
	新製品 (商品) 開発論	3前		2		○									兼1	
	生産管理論	3後		2		○									兼1	
	バイヤーの実践学	3後		2		○			1							
	リテールマーチャダイジング	3後		2		○									兼1	
	「産学連携」プロジェクト演習Ⅰ	3前		2			○		1					1		
	「産学連携」プロジェクト演習Ⅱ	3後		2			○		1					1		
	グローバル・マネジメント特論Ⅱ	4前		2		○									兼1	
	店舗開発マネジメント論	4前		2		○			1						兼1	共同
	ファッションMD評価システム	4前		2		○									兼1	
	卒業論文Ⅰ (マネジメント)	4前		2			○		1					1		
	卒業論文Ⅱ (マネジメント)	4後		2			○		1					1		
	消費行動論Ⅱ	3前		2		○									兼1	
	現代流通論	3前		2		○			1							
	ファッションエディトリアルⅡ	3前		2			○								兼1	
	流通イノベーション特講 (オムニ、ダイヤモンド)	3前		2		○									兼1	
	流通イノベーションゼミⅠ	3前		2			○		1						兼2	共同
	グローバルマーケティング特講	3後		2		○									兼1	
	フィールドリサーチ実践論 (国内、海外)	3後		2		○									兼1	
	流通イノベーションゼミⅡ	3後		2			○		1							
	顧客関係論	4前		2		○									兼1	
ファッションテック論	4前		2		○			1								
卒業論文Ⅰ (イノベーション)	4前		2			○		1						兼1	共同	
卒業論文Ⅱ (イノベーション)	4後		2			○		1						兼1	共同	
小計 (108科目)		—	0	214	0	—		43	7	31	19	14	兼47	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目 (選択科目)	一般	社会人基礎A	1前	2		○									兼1	共同
		社会人基礎B	1後	2		○									兼1	
		心理学A	1・2前	2		○									兼1	
		心理学B	1・2後	2		○									兼1	
		文学	1前・後	2		○				1						
		日本美術史	1前・後	2		○									兼1	
		西洋美術史	1前・後	2		○									兼1	
		憲法	1・2前・後	2		○									兼1	
		社会福祉学A	1・2前	2		○									兼1	
		社会福祉学B	1・2後	2		○									兼1	
		化学A	1・2前	2		○									兼1	
		化学B	1・2後	2		○									兼1	
	体育	体育A	1前・後		1			○		1						
		体育B	1・2後		1			○		1						
	国際関係	言語と服飾文化	3・4前・後		2		○			1			1			
		日本文化・日本事情 I	1・3前		2		○			1						
		日本文化・日本事情 II	1・3後		2		○			1						
		英語 (総合)A	2前		2		○								兼1	
		英語 (総合)B	2後		2		○								兼1	
		ワールド・カルチャーA	2前		2		○								兼1	
		ワールド・カルチャーB	2後		2		○								兼1	
		実用英語 A	2前		2		○						1		兼1	
		実用英語 B	2後		2		○						1		兼1	
		ファッション英語 A	2前		2		○						1			
		ファッション英語 B	2後		2		○						1			
		フランス語 (総合)A	2前		2		○								兼1	
		フランス語 (総合)B	2後		2		○								兼1	
		ファッションフランス語 A	2前		2		○								兼1	
		ファッションフランス語 B	2後		2		○								兼1	
		中国語 (総合)A	2前		2		○								兼1	
		中国語 (総合)B	2後		2		○								兼1	
		中国語 (会話)A	2前		2		○								兼1	
	中国語 (会話)B	2後		2		○								兼1		
小計 (33科目)	—	0	64	0	—				6	0	0	5	0	兼25	—	
教養科目	外国語	英語 (総合) I	1前	2		○							1		兼2	
		英語 (総合) II	1後	2		○							1		兼2	
		基礎英会話 I	1前	2		○							1		兼2	
		基礎英会話 II	1後	2		○							1		兼2	
		フランス語 (総合) I	1前	2		○									兼1	
		フランス語 (総合) II	1後	2		○									兼1	
		フランス語 (会話) I	1前	2		○									兼1	
		フランス語 (会話) II	1後	2		○									兼1	
		中国語 (総合) I	1前	2		○									兼1	
		中国語 (総合) II	1後	2		○									兼1	
		中国語 (会話) I	1前	2		○									兼1	
		中国語 (会話) II	1後	2		○									兼1	
		日本語 I	1・3前	4		○									兼1	
		日本語 II	1・3後	4		○									兼1	
小計 (14科目)	—	0	32	0	—				0	0	0	4	0	兼18	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教職に関する科目	教師論	1後			2	○									兼1	共同 ※演習 ※演習
	教育心理学	1後			2	○									兼1	
	教育制度論	1後			2	○									兼1	
	教育原理	2前			2	○									兼1	
	教育課程論	2前			2	○									兼1	
	特別支援教育概論	2前			2	○									兼1	
	道徳の指導法	2後			2	○									兼1	
	生徒指導論(進路指導を含む)	2後			2	○									兼1	
	教科教育法基礎(家庭)	2後			1	○									兼1	
	教育現場でのICT活用	2後			1	○									兼1	
	特別活動の指導法	3前			2	○									兼1	
	教育方法論	3前			2	○									兼1	
	家庭科教育法(基礎)	3前			2	○									兼1	
	総合的な学習の時間の指導法	3後			2	○									兼1	
	家庭科教育法	3後			2	○									兼2	
	教科教育法(家庭)	3後			3	○									兼1	
	教育法規	3後			2	○									兼1	
	教育相談(カウンセリングを含む)	3前			2	○									兼1	
	教育実習(事前事後指導を含む)	4前			5			○							兼1	
	教職実践演習(中等)	4後			2		○								兼1	
小計(20科目)	—	0	0	42	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼20	—	
博物館に関する科目	生涯学習概論	1後			2	○									兼1	—
	博物館概論	1後			2	○									兼1	
	博物館経営論	2前			2	○									兼1	
	博物館資料論	2前			2	○									兼1	
	博物館資料保存論	2後			2	○									兼1	
	博物館展示論	3後			2	○									兼1	
	博物館教育論	3前			2	○									兼1	
	博物館情報・メディア論	3後			2	○									兼1	
	博物館実習	4通			3			○							兼1	
小計(9科目)	—	0	0	19	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼9	—	
合計(250科目)		—	34	394	61	—	—	—	73	10	40	39	28	兼163	—	
学位又は称号	学士(服飾)	学位又は学科の分野			家政学関係											
卒業要件及び履修方法					授業期間等											
共通専門必修科目24単位、系別専門必修科目モード系7単位、ビジネス系4単位、コース別専門必修科目35~38単位、専門選択科目から21~25単位以上を修得、さらに教養必修科目10単位、外国語8単位、教養選択科目から16単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録上限:55単位(年間))					1学年の学期区分			2学期								
					1学期の授業期間			15週								
					1時限の授業時間			45分								

教育課程等の概要

(服飾学部服飾文化学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目 (服飾関係)	必修科目 服飾造形基礎Ⅰ	1前	3				○		1		1		1	共同
	サステイナブル・ファッション概論	1前	2			○			3		1		1	オムニバス
	ファッション画Ⅰ	1前	1				○							兼2
	ファッションビジネス概論	1前	2			○								兼1
	ファッション・フィールド・リサーチ	1前	1				○							兼1
	フィールドワーク(集中)	1前	1				○		4					集中・共同
	服飾造形基礎Ⅱ	1後	3				○		1		1		1	共同
	西洋服飾文化史	1後	2			○			1					
	衣服材料学	1後	2			○								兼1
	ドローイングⅠa	1後	2				○							兼1
	色彩演習	1後	2			○								兼1
	リ・ファッション実習	2前	2					○	1				1	
	服飾史料研究	2前	1				○				1			
	日本服飾文化史	2前	2			○			1					
	ファッション史	2前	2			○			1					
	アパレル素材論	2前	2			○								兼1
	CADパターンメイキング	2前	1				○							兼1
	レプリカ製作(民族衣装)	2後	2					○			1		1	
	民族衣裳論	2後	2			○			1					
	ファッションと環境	2後	2			○								兼1
	ユニバーサルファッション論	2後	2			○								兼2
	現代ファッション論	2後	2			○			1					
	マーケティング・データサイエンス論	2後	2			○								兼1
	レプリカ製作(歴史衣装)	3前	2					○	1		1		1	共同
	衣の伝統と現代Ⅰ(衣の民俗文化)	3前	2			○			1					
	服飾文化演習A	3前		1			○		1					
	服飾文化造形演習A	3前		1				○	1				1	
	レプリカ製作特講	3前	1			○								兼1
	エシカル・ファッション実習	3後	2					○	1				1	
	衣の伝統と現代Ⅱ(衣のものづくり)	3後	2			○								兼1
	服飾文化演習B	3後		1			○		1					
	服飾文化造形演習B	3後		1				○	1		1		1	
	衣服修復技術	3後	2			○								兼1
	卒業研究Ⅰ(制作)	4前		2				○	2		1		1	共同
	卒業研究Ⅰ(論文)	4前		2				○	2					共同
	卒業研究Ⅱ(制作)	4後		2				○	2		1		1	共同
	卒業研究Ⅱ(論文)	4後		2				○	2					共同
小計(37科目)		—	54	12	0		—	30	0	9	0	10	兼16	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 (服飾関係)	選択科目 服飾造形応用	1後		2			○		1		1				共同
	人体工学論	1前		2		○								兼1	オムニバス
	現代デザイン論	1前		2		○							兼1		
	ファッション販売論	1前		2		○							兼2		
	流行論	1後		2		○							兼1		
	流通・商業入門	1前		2		○							兼1		
	ファッション画Ⅱ	1後		1			○						兼2		
	経営学入門	1前		2		○							兼1		
	画像設計演習	2前		1			○						兼1		
	ドローイングⅡ	2前		1				○					兼1		
	写真表現演習	2前		1			○						兼1		
	立体造形演習	2後		1			○						兼1		
	和服構成論・実習Ⅰ	2前		1				○					兼1		
	和服構成論・実習Ⅱ	2後		1				○					兼1		
	衣服管理	2前		2		○							兼1		
	染色化学	2後		2		○							兼1		
	繊維ファッション産業構造論	2前		2		○							兼1		
	映像制作	2後		1				○					兼1	集中	
	基礎デザイン(平面)	2前		1			○						兼1		
	基礎デザイン(立体)	2後		1			○						兼1		
	ファッション販売論上級	2後		2		○							兼1		
	色彩実践学	2後		2		○							兼1		
	色材演習	2後		1			○						兼1		
	服飾手芸(ニットを含む)	2後		1				○					兼2		
	服飾クラフト	2前		1				○					兼2		
	服飾デザイン概論	2前		2		○			1						
	デザインプロセス	2前		1			○						兼1		
	消費者行動論Ⅰ	2後		2		○							兼1		
	グローバルマネジメント特論Ⅰ	2後		2		○							兼1		
	インターンシップ	2後・3前・後		2				○					兼1	集中 集中	
	長期インターンシップ	2後・3前・後		4				○					兼1		
	ショップディスプレイ	3後		2		○							兼1		
	メディアコミュニケーション論	3前		2		○							兼1		
	ファッション画(CG)	3後		1				○					兼1		
	アパレル産業論特講	3後		2		○							兼1		
	染織史	3前		2		○							兼1		
	ファッションプレゼンテーション演習	3前		2			○						兼1		
	ト・レ・ビ・ソ・ク & パターニング(選)	3前		1				○					兼1		
	近代日本モード史	3前		2		○			1						
	リテールビジネスにおけるVMDマネジメント	3前		2		○							兼1		
	コミュニケーション論	3前		2		○							兼1		
	現代流通論	3前		2		○							兼1		
小計(42科目)		—	0	70	0	—	—	—	3	0	1	0	0	兼43	—
専門科目 (ライフスタイル関係)	選択科目 家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む)	2前		2		○								兼1	
	家庭電気・機械	2前		1		○								兼1	
	食物学(実践栄養学)	2後		2		○								兼1	
	家庭情報処理	2後		1		○								兼1	
	食物学(食品学)	3前		2		○								兼1	
	住居学(製図を含む)	3後		2		○								兼1	
	保育学(実習及び家庭看護を含む)	3後		2		○								兼1	
	食文化論	3前		2		○								兼1	
	食物学(調理実習・実験)Ⅰ	3前		1				○						兼2	
	食物学(調理実習・実験)Ⅱ	3後		1				○						兼2	
小計(10科目)		—	0	16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼12	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目 (必修科目)	初年次	学習基礎	1前	2			○			1					兼10	オムニバス
	キャリア	文章表現	1前	2			○								兼1	
		情報演習Ⅰ (学修ポートフォリオを含む)	1前	2				○							兼1	※講義
		情報演習Ⅱ (学修ポートフォリオを含む)	1後	2				○							兼1	※講義
		キャリアプランニング	2後	2			○								兼1	
		小計 (5科目)	—	10	0	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼14	—
教養科目 (選択科目)	一般	社会人基礎A	1前		2		○								兼1	
		社会人基礎B	1後		2		○								兼1	
		心理学A	1・2前		2		○								兼1	
		心理学B	1・2後		2		○								兼1	
		文学	1後		2		○								兼1	
		日本美術史	1後		2		○								兼1	
		西洋美術史	1前		2		○								兼1	
		憲法	1・2前		2		○								兼1	
		社会福祉学A	1・2前		2		○								兼1	
		社会福祉学B	1・2後		2		○								兼1	
		化学A	1・2前		2		○								兼1	
		化学B	1・2後		2		○								兼1	
	体育	体育A	1前・後		1			○							兼1	
		体育B	1・2後		1			○							兼1	
	国際関係	言語と服飾文化	3・4前		2		○								兼2	共同
		日本文化・日本事情Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		日本文化・日本事情Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		英語 (総合)A	2前		2		○								兼1	
		英語 (総合)B	2後		2		○								兼1	
		ワールド・カルチャーA	2前		2		○								兼1	
		ワールド・カルチャーB	2後		2		○								兼1	
		実用英語 A	2前		2		○								兼1	
		実用英語 B	2後		2		○								兼1	
		ファッション英語 A	2前		2		○								兼1	
		ファッション英語 B	2後		2		○								兼1	
		フランス語 (総合) A	2前		2		○								兼1	
		フランス語 (総合) B	2後		2		○								兼1	
		ファッションフランス語 A	2前		2		○								兼1	
		ファッションフランス語 B	2後		2		○								兼1	
		中国語 (総合) A	2前		2		○								兼1	
		中国語 (総合) B	2後		2		○								兼1	
		中国語 (会話) A	2前		2		○								兼1	
	中国語 (会話) B	2後		2		○								兼1		
小計 (33科目)	—	0	64	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼34	—		
教養科目 外国語	英語 (総合)Ⅰ	1前		2		○								兼1		
	英語 (総合)Ⅱ	1後		2		○								兼1		
	基礎英会話Ⅰ	1前		2		○								兼1		
	基礎英会話Ⅱ	1後		2		○								兼1		
	フランス語 (総合)Ⅰ	1前		2		○								兼1		
	フランス語 (総合)Ⅱ	1後		2		○								兼1		
	フランス語 (会話)Ⅰ	1前		2		○								兼1		
	フランス語 (会話)Ⅱ	1後		2		○								兼1		
	中国語 (総合)Ⅰ	1前		2		○								兼1		
	中国語 (総合)Ⅱ	1後		2		○								兼1		
	中国語 (会話)Ⅰ	1前		2		○								兼1		
	中国語 (会話)Ⅱ	1後		2		○								兼1		
	日本語Ⅰ	1前		4		○								兼1		
	日本語Ⅱ	1後		4		○								兼1		
小計 (14科目)	—	0	32	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼14	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教職に関する科目	教師論	1後			2	○									兼1	共同 ※演習 ※演習
	教育心理学	1後			2	○									兼1	
	教育制度論	1後			2	○									兼1	
	教育原理	2前			2	○									兼1	
	教育課程論	2前			2	○									兼1	
	特別支援教育概論	2前			2	○									兼1	
	道徳の指導法	2後			2	○									兼1	
	生徒指導論(進路指導を含む)	2後			2	○									兼1	
	教科教育法基礎 (家庭)	2後			1	○									兼1	
	教育現場でのICT活用	2後			1	○									兼1	
	特別活動の指導法	3前			2	○									兼1	
	教育方法論	3前			2	○									兼1	
	家庭科教育法 (基礎)	3前			2	○									兼1	
	総合的な学習の時間の指導法	3後			2	○									兼1	
	家庭科教育法	3後			2	○									兼2	
	教科教育法 (家庭)	3後			3	○									兼1	
	教育法規	3後			2	○									兼1	
	教育相談 (カウンセリングを含む)	3前			2	○									兼1	
	教育実習 (事前事後指導を含む)	4前			5			○							兼1	
	教職実践演習 (中等)	4後			2		○								兼1	
小計 (20科目)	—	0	0	42	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼21	—	
博物館に関する科目	生涯学習概論	1後			2	○									兼1	—
	博物館概論	1後			2	○									兼1	
	博物館経営論	2前			2	○									兼1	
	博物館資料論	2前			2	○									兼1	
	博物館資料保存論	2後			2	○									兼1	
	博物館展示論	3後			2	○									兼1	
	博物館教育論	3前			2	○									兼1	
	博物館情報・メディア論	3後			2	○									兼1	
	博物館実習	4通			3			○							兼1	
小計 (9科目)	—	0	0	19	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼9		
合計 (250科目)		—	64	194	61	—	—	—	34	0	10	0	10	兼163	—	
学位又は称号	学士 (服飾)		学位又は学科の分野			家政学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
専門必修科目54単位、専門選択必修科目6単位、専門選択科目から30単位以上を修得、さらに教養必修科目10単位、外国語8単位、教養選択科目から16単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録上限:55単位(年間))						1学年の学期区分			2学期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			45分							

教育課程等の概要

(服飾学部服飾表現学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 (服飾関係)	必修科目	服飾造形基礎Ⅰ	1前	3			○								兼1	
	服飾表現概論	1前	1			○			1							
	色彩演習	1前	2			○									兼1	
	衣服材科学	1前	2			○									兼1	
	ドローイングⅠa	1前	2				○								兼1	
	西洋服飾文化史	1前	2			○									兼1	
	服飾造形基礎Ⅱ	1後	3					○							兼1	
	グラフィックデザインⅠ	1後	1					○							兼1	
	身体表現Ⅰー基本の動きー	1後	1					○							兼1	
	写真表現	1後	1					○							兼1	
	ファッション・フィールド・リサーチ	1後	1					○							兼1	
	プレゼンテーション論	1後	2				○								兼1	
	現代ファッション論	2前	2				○								兼1	
	日本服飾文化史	2前	2				○								兼1	
	表現心理学ー魅力の発見、魅力の伝達ー	2前	2				○				1					
	身体表現Ⅱーパフォーマンスー	2前	1					○							兼1	
	空間構成Ⅰ	2前	1					○		1						
	画像表現	2前	1					○							兼1	
	ドローイング・構想	2前	1					○							兼1	
	グラフィックデザインⅡ	2前	1					○							兼1	
	服飾表現演習	2前	2					○		5						
	色材演習	2後	1					○							兼1	
	服飾表現史	2後	2				○								兼1	
	空間構成Ⅱ	2後	2					○		1						
	立体造形構想	2後	1					○							兼1	
	近代日本モード史	2後	2					○							兼1	
	マーケティング・データサイエンス論	2前・後	2				○								兼1	
	マネキン学	3前	2				○								兼1	
	プレゼンテーション技法	3前	2					○							兼1	
	ポートフォリオ演習	3前	2					○		1						
	卒業制作企画	4前	3					○		6		2		1		
	卒業制作	4後	6					○		6		2		1		
小計 (32科目)		—	59	0	0		—		21	0	5	0	2	兼24	—	
選択必修	衣裳デザイン・制作Ⅰ	2後		2				○	1		1		1			
	スタイリング演習Ⅰ	2後		2			○		1		1					
	ビジュアルマーチャンダイジング演習Ⅰ	2後		2			○		1							
	ショープロデュースⅠ	2後		2			○		1							
	映像・メディア表現Ⅰ	2後		2			○		2							
	衣裳デザイン・制作Ⅱ	3前		2				○	1		1		1			
	スタイリング演習Ⅱ	3前		2			○		1		1					
	ビジュアルマーチャンダイジング演習Ⅱ	3前		2			○		1							
	ショープロデュースⅡ	3前		2			○		1							
	映像・メディア表現Ⅱ	3前		2			○		1						兼1	
	衣裳デザイン・制作Ⅲ	3後		6			○		1		1		1			
	スタイリング演習Ⅲ	3後		6			○		1		1					
	ビジュアルマーチャンダイジング演習Ⅲ	3後		6			○		1							
	ショープロデュースⅢ	3後		6			○		1							
	映像・メディア表現Ⅲ	3後		6			○		1						兼1	
小計 (15科目)		—	0	50	0		—		16	0	6	0	3	兼2	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養科目 (選択科目)	一般	社会人基礎A	1前	2		○									兼1	共同	
		社会人基礎B	1後	2		○									兼1		
		心理学A	1・2前	2		○					1						
		心理学B	1・2後	2		○					1						
		文学	1前・後	2		○											兼1
		日本美術史	1前・後	2		○											兼1
		西洋美術史	1前・後	2		○											兼1
		憲法	1・2前・後	2		○											兼1
		社会福祉学A	1・2前	2		○											兼1
		社会福祉学B	1・2後	2		○											兼1
		化学A	1・2前	2		○											兼1
		化学B	1・2後	2		○											兼1
	体育	体育A	1前・後		1			○									兼1
		体育B	1・2後		1			○									兼1
	国際関係	言語と服飾文化	3・4前・後		2		○										兼2
		日本文化・日本事情 I	1前		2		○										兼1
		日本文化・日本事情 II	1後		2		○										兼1
		英語 (総合)A	2前		2		○										兼1
		英語 (総合)B	2後		2		○										兼1
		ワールド・カルチャーA	2前		2		○										兼1
		ワールド・カルチャーB	2後		2		○										兼1
		実用英語 A	2前		2		○										兼1
		実用英語 B	2後		2		○										兼1
		ファッション英語 A	2前		2		○										兼1
		ファッション英語 B	2後		2		○										兼1
		フランス語 (総合)A	2前		2		○										兼1
		フランス語 (総合)B	2後		2		○										兼1
		ファッションフランス語 A	2前		2		○										兼1
		ファッションフランス語 B	2後		2		○										兼1
		中国語 (総合)A	2前		2		○										兼1
		中国語 (総合)B	2後		2		○										兼1
		中国語 (会話)A	2前		2		○										兼1
	中国語 (会話)B	2後		2		○									兼1		
小計 (33科目)	—	0	64	0	—			0	0	2	0	0		兼32	—		
教養科目 外国語	英語 (総合) I	1前		2		○									兼1		
	英語 (総合) II	1後		2		○									兼1		
	基礎英会話 I	1前		2		○									兼1		
	基礎英会話 II	1後		2		○									兼1		
	フランス語 (総合) I	1前		2		○									兼1		
	フランス語 (総合) II	1後		2		○									兼1		
	フランス語 (会話) I	1前		2		○									兼1		
	フランス語 (会話) II	1後		2		○									兼1		
	中国語 (総合) I	1前		2		○									兼1		
	中国語 (総合) II	1後		2		○									兼1		
	中国語 (会話) I	1前		2		○									兼1		
	中国語 (会話) II	1後		2		○									兼1		
	日本語 I	1・3前		4		○									兼1		
	日本語 II	1・3後		4		○									兼1		
小計 (14科目)	—	0	32	0	—			0	0	0	0	0		兼22	—		
学位又は称号		学士 (服飾)		学位又は学科の分野			家政学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
専門必修科目59単位、専門選択必修科目10単位、専門選択科目から21単位以上を修得、さらに教養必修科目10単位、外国語8単位、教養選択科目から16単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録上限:55単位(年間))						1学年の学期区分			2学期								
						1学期の授業期間			15週								
						1時限の授業時間			45分								

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組み状況

① 学生確保の見通し	p. 2
ア 定員充足の見込み	p. 2
イ 定員充足の根拠となる客観的データの概要	p. 5
ウ 学生納付金の設定の考え方	p. 7
② 学生確保に向けた具体的な取組み状況	p. 8
ア オープンキャンパスの開催	p. 8
イ 大学と高等学校との情報コミュニケーションプラットフォーム「SYMPA」を利用した情報	p. 8
ウ 高等学校訪問班や教員による高等学校訪問	p. 8
エ 教員による出張授業・模擬授業の実施	p. 9
オ 職員による進学相談会への参加	p. 9
カ 各種 SNS (YouTube、Facebook、Instagram、Twitter、LINE など) による情報	p. 9
キ その他	p. 9

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)	p. 9
ア 人材の養成に関する目的	p. 9
イ 研究教育上の目的	p. 10
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な	p. 10
ア 服飾文化学科が養成する人材のファッション産業における需要	p. 10
イ ファッション関連企業ヒアリング調査における服飾文化学科の評価	p. 11
ウ 服飾文化学科が養成する人材の一般企業における需要	p. 12

資料目次

(資料) - p. 1

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

① 学生確保の見通し

ア 定員充足の見込み

服飾文化学科新設による服飾学部の収容定員変更は、令和5年度以降、併設する短期大学部が廃止予定であることに伴い、時代・社会のニーズに対応した新たな教育体制を図るものである。入学定員設定数は併設短期大学部の入学定員数50名をそのまま移行せずに、10名減らして40名とする。この定員数は、アクティブラーニングにおけるグループワークや本学科で予定される博学連携・域学連携・産学連携での複数人で取り組むプロジェクト等において必要とされる人数である。学生確保の見通しについて、本学服飾学部既設学科ならびに短期大学部の現況、首都圏を中心とする被服・服飾系の大学の状況、社会的動向等を踏まえ、更に服飾関連企業へ向けたヒアリング調査や高校生を対象としたアンケート調査等をもとに総合的に勘案した結果、入学定員の充足は十分可能であると判断した。

・既存の学科と新設学科の関係

本学服飾学部は現在服飾学科と服飾表現学科の2学科で構成されている。服飾学科では現代日本の服飾産業の中で、服飾製造業及び服飾製造小売業におけるデザイン、パターンメイキング、製造技術、テキスタイル分野でのデザイン、バッグや帽子、アクセサリなどの服飾関連製品のデザイン、並びに服飾製造業、服飾製造小売業及び服飾小売業におけるファッションビジネスのマネジメントやイノベーションに関する研究と専門職業の人材養成を目的としている。

また、服飾表現学科では、舞台や映画での衣装、テレビや雑誌などでのタレント等のスタイリング、ショップやイベント会場でのビジュアルマーチャンダイジング、ショープロデューサー、テレビやネット配信などでの映像表現など服飾産業の流過程や舞台芸術やエンターテインメントなど多様な社会生活における服飾表現に関する研究と専門職業の人材養成を目的としている。

このように既設の2学科では、現代の服飾産業の生産・流通と現代の服飾の芸術・社会生活における表現の領域に関する研究・教育を目的としている。

今回新設する服飾文化学科は、世界と日本の服飾文化を歴史的、空間的に高度な見地から把握し、理論又は制作の面から服飾文化の継承と発展を研究し、これに参画できる専門的能力を備えた人材を育成することを目的としている。具体的な目標として、衣服修復、レプリカ製作、衣服リメイク等の実技を備え、服飾文化が内包する現代的な課題である「持続可能な開発目標（SDGs）の解決に向けての発想力と提案力を有する専門職業人を養成することを目的としている。

歴史や伝統文化を学び、新たな発想・価値を生み出していくことで、服飾の分野での「もの」としての持続可能性だけでなく、「文化」としての持続可能性を考えていく研究・教育となる。

服飾文化学科における教育内容の考え方の背景には、世界・日本各地で育まれてきた服飾

に関わる伝統技術の存続の危機とそれに伴う次世代への発展的な技術の継承と新たな価値の創出の動き、また文化財としての歴史衣装・民族衣装の保存修復と継承の問題、さらに現代の服飾産業と服飾の消費生活においてサステイナブル・ファッションの実践が重要課題となっている現況がある。

一方で文部科学省が平成 30 年に既に改訂した「高等学校学習指導要領」が 2022 年度の入学生から年次進行で実施されることになっている。家庭科（共通教科「家庭」）では、その改訂のポイントとして科目内容の改善について「衣食住の生活の科学と文化」の中で「日本と世界の衣食住の文化についての理解」「和食、和服及び和室など、日本の伝統的な生活文化の継承・創造に関する内容の充実」をあげ、「持続可能な消費生活・環境」の中で「持続可能なライフスタイルと環境」をあげている（注 1）。

以上より、歴史・伝統から未来の服飾文化の発展・創造に向けた研究・教育を目的とする点で既設の 2 学科とは大きく指向が異なり、現代の社会的要請へ向けた教育体制として服飾文化学科を設置するものである。

・本学服飾表現学科と併設短期大学の入学者の推移

<服飾表現学科>

服飾表現学科は、平成 30 年に設置し令和 3 年度で完成年度となったが、設立以来 4 年間の定員超過率平均は 0.61 倍となっている。入学定員（40 名）に対しての入学者数の推移は【資料 1】の通りである。

学科としての完成年度を迎えたばかりであることから在学生の学修の成果や就職先の実績がないため、広く学科の特色を十分に紹介できていない現状がある。更にコロナ禍においてオープンキャンパスの開催が難しい時期が 2 年間続いたため、高校生や学校関係者、保護者等に対し直接的な情報提供ができず、浸透できていない面があったと考えられる。しかし、今回服飾文化学科設立に向けて高校生を対象に実施した WEB アンケートでは、服飾表現学科の教育内容に関連する分野への高校生の関心度は、服飾分野全般から見ると高い割合を示していることが改めて明らかとなっている（注 2）。服飾表現学科が令和 4 年 3 月に初めての卒業生を送り出し、学修成果としての卒業制作や就職状況等の実績を学内外に広く情報発信できるようになることから、服飾表現学科の学びのイメージがリアルに伝わるような工夫を行い、入学定員の確保を目指していく。

<短期大学部>

杉野服飾大学短期大学部は昭和 25 年に開学し、昭和 39 年の杉野服飾大学の設置の後は併設短期大学部として被服の教育を担ってきた。

平成 25 年度には短期大学部として教育目標を明確化して教育課程を見直し、1 年次の基礎教育で社会人基礎科目と服飾造形の基礎科目を共通で履修し、2 年次で 3 つのコア科目の専攻科目の一つを主専攻とし、サブ科目から自分のキャリアデザインに合わせて選択履修、そのうえで地域の児童センターでの子育て支援などを行う社会貢献プログラムの科目を履修することとした。この改革以降、入学者の質も高く、専任教員による熱心な少人数教育も

あって、学生の学習意欲も良好で、中退率も改善され、社会貢献プログラムも高い評価を受けてきた。

しかしながら 4 年制大学志向の中で入学者数は増加せず、志願者数、入学者数の推移から今後の入学者数の増加に期待することはできないため、令和 4 年度の学生募集は停止し、令和 3 年度の入学者と在校生の卒業をまって廃止することとなっている。

入学定員(50 名)に対しての入学者数の推移は【資料 2】の通りである。

令和 3 (2021) 年度に入学した 25 名のうち 1 名は病気で死亡し、3 名が前期末で退学したが、21 名は 2 年次に進級し、良好な学修を継続しており、令和 4 年度末に全員無事卒業する見込みで、教員もそのために全力で取り組んでいる。

短大の専任教員は全員が服飾造形系の教員で令和 5 年度には大学の教員に異動し、新設学科の初年次教育課程の服飾造形基礎の科目又は専門教育課程の専門科目を担当する予定となっている。また研究面では杉野学園が主管している「ファッションビジネス学会東日本支部」に所属していて、支部の研究部会である「アパレルリサイクル部会」に所属して、新設学科の当面の取り組み課題となっている服飾の SDG s の研究に取り組んできている。

以上の状況から、短期大学部は廃止予定ではあるが、そこで培われた教育実績は大学教育として新学科の教育・研究に発展的に活かせるものであり、より充実した魅力ある教育内容に繋げていくものである。

・全国被服・服飾系の大学（私立）の状況

「私立大学・短期大学等入学志願動向」（日本私立大学校振興・共済事業団）による統計調査よれば、近年の全国私立大学の入学者数と関連学科（被服学科）の入学者数の推移は表のとおりである【資料 3】。入学者数の減少傾向は 18 歳人口の減少に伴うものであり、入学定員の充足率は令和 2 年度の 102.61%から令和 3 年度では 2.80 ポイント減の 99.81%となり、初めて充足率 100%を下回る結果となった。

被服・服飾系の学科・専攻を持つ私立大学・短大は全国で 38 校ある【資料 4】。全国の入学者数と同様、被服学科入学者数についても減少傾向にある。その内、被服・服飾系の領域について、過去 3 年間の入学定員・志願者数共に公開している大学は首都圏を中心に 7 校になる【資料 5】。これをもとに見ると、18 歳人口が減少期にある中で、被服・服飾系の学科志願者数は過去 3 年間で増減はあるものの志願者倍率からすればその数は多いとはいえない。しかし志願者数は全ての大学において定員を上回る数字となっている。これは併願もあり、正確には判断できないが、全体として「被服」「服飾」に関心を持ち、学びたいとする学生が一定数維持されているということになる。

これらの大学の多くは、被服学科の学科名の下に、造形、科学、ビジネス等の幅広い領域で学びが可能となっている。服飾史、SDG s 等に関する学びは各大学でも取り組まれているが、学科として学びの中心に置く大学は少ない。本学の場合は科学領域での専門教育はなく基礎科目としての学びに留まるが、服飾造形・ビジネス領域、服飾表現領域に学科組織として充実した教育内容と教育力を誇る。更に今回の服飾文化学科の設置は服飾を通して歴史、

世界、社会を見つめ、現代社会の課題に取り組むことを専門に学ぶ教育課程を編成するものとなっている。とりわけ学びの特徴としてあげられる「歴史」「レプリカ製作・修復」「衣のものづくり」「サステナビリティ」を横断的に体系づける教育編成は他に類例がない。また、教育内容の性格から、博学連携・域学連携・産学連携に積極的に取り組んでいく。本学既設の2学科と合わせ、多角的な視点で研究・教育を行う服飾専門の大学として位置づけることができる。

・外国人留学生の受け入れ

外国人留学生については【資料6】にあるように、アジア圏を中心に受け入れてきた実績があり、令和2年度より入学者数が増加傾向にある。また本学との合作校である浙江紡織服装職業技術学院日中服飾専門家庭（中国）から毎年一定数の編入学者がいることから、今後も外国人留学生の安定した受け入れが見込まれる。

以上より、学生確保の見通しについて、本学服飾学部既設学科ならびに短期大学の現況、首都圏を中心とする被服・服飾系の大学の状況、社会的動向等に鑑み、新たな研究・教育領域を設ける学科として新たな志願者層の生まれることが期待され、他大学と大きく競合することはない。

また、後に詳述する服飾文化学科設置に向けての全国の高校生アンケートにおいても本学科の教育内容に関連する関心の高さが見受けられることから、全国の高校生への広報活動をより強化していくことで定員充足が十分確保されると判断する。

イ 定員充足の根拠となる客観的データの概要

服飾文化学科の設置計画の検討のため、全国の高校生（1年生・2年生・3年生）に対し「服飾文化学科への関心と入学意向」および「服飾文化学科の教育内容に関連する分野への関心」についてアンケート形式による調査を行った。調査の実施、回答データの収集・集計等は専門の調査機関に依頼した。【資料13】

本調査は、スマートフォン、パソコン、タブレット等によるWEBアンケートによるものであり500名の有効回答を得られた。

回答者500名は、高校1年生107名、高校2年生148名、高校3年生245名であり、服飾系の大学等への進学希望に限定されず、大学、短大、専門学校への進学予定者、就職予定者、その他を含み、将来希望する職業分野もファッション系に限られず、医療・福祉系、国家・地方公務員、IT・WEB系、教育・保育系など多岐にわたる。

・服飾文化学科への入学意向

回答者500名の服飾文化学科への入学意向については、「服飾文化学科に関心があり、学びたい」と回答した人は36名（7.2%）、「服飾文化学科に関心はあるが学びたいとは思わない」と回答した人は92名（18.4%）、「服飾文化学科に関心がない」と回答した人は372名（74.4%）であった（Q8 Qはアンケート調査の質問番号。以下の記載についても同様）。

今回の調査では回答数が 500 名と限られていたこともあり、「関心があり、学びたい」とした回答者は服飾文化学科の定員（40 名）に達していないが、「関心があり、学びたい」とした回答者の比率を見ると、以下に述べるとおり、実際には回答数以上の入学希望者が見込まれると考えられる。ここでは高校 3 年生の回答数で見ていきたい。

まず、高校 3 年生全体の回答数を見ると、245 名中 22 名が服飾文化学科に「関心があり、学びたい」と回答している（Q8×SC1 SC1 は学年についての質問番号）。その比率は 8.98%であり、母比率 95%信頼区間は 5.95%~13.3% と推定される。次に、本学入学者の主な出身地域である東京・埼玉・神奈川・千葉の 1 都 3 県に限定してクロス集計すると、高校 3 年生 74 名中 7 名が「関心があり、学びたい」と答えている（Q8×Q1）。その比率は 9.46%であり、母比率の 95%信頼区間は 4.38%~18.5% と推定される。すなわち、少なくとも見積もって高校 3 年生の 4.38%に服飾文化学科への入学希望があることが期待される。

現在の東京・埼玉・神奈川・千葉の高校生の 1 学年あたりの人数は約 27 万人（注 3）であり、そのうちの 10%に「学生確保に向けた具体的な取り組み状況」で述べる多様かつ積極的な広報活動を通してアプローチをした場合、27,000 人に服飾文化学科について認知してもらうことができる。東京・埼玉・神奈川・千葉には、被服・服飾系を学部・学科をもつ大学・短大が 16 校あるため、獲得できる学生数はその 1/16 程度となりうる。【資料 4】

上記前提に基づき、東京・埼玉・神奈川・千葉からの服飾文化学科への入学希望者を少ない方の数値で見積もれば、

$$27,000 \times 1/16 \times 4.38\% = 74 \text{ 名}$$

と計算され、この地域のみで服飾文化学科の定員 40 名を上回る。

一方で、大阪、京都、兵庫の近畿 2 府 1 県では、8 名が服飾文化学科に「関心があり、学びたい」と回答した。これに対し、この地域からの本学への過去 3 年間の入学者は令和 2 年度の 1 名のみである【資料 7】。また、愛知県では 5 名が服飾文化学科に「関心があり、学びたい」と回答したが、同県からの本学への過去 3 年間の入学者は令和 2 年度と令和 4 年度に各 1 名ずつの 2 名であった【資料 7】。

このように本学への入学実績の少ない地域から服飾文化学科に「関心があり、学びたい」という回答が多く得られたのは、これらの地域に服飾系の学部学科を持つ大学が複数存在していることが関わっていると考えられる。すなわち、進路として服飾系の学部学科が具体的に意識されており、「歴史を学ぶことを通して持続可能な未来のファッションを考える」という既存の学部学科には見られない服飾文化学科の教育内容に深く関心を示した結果だと思われる。従って、この地域に従来以上の広報活動を行うことにより、入学希望者のさらなる増加を図ることが可能であると考えられる。

・中長期的な観点に基づく分析

次に、服飾文化学科への関心と、ファッション分野の SDGs の取り組み、および、ファッションの歴史への関心との相関性について見ていく。

まず、服飾文化学科への関心と入学意向に関する回答（Q8）と（Q5）のクロス集計（Q8

×Q5) に注目すると、服飾文化学科への関心と SDGs への関心に相関性が見られる。

服飾文化学科に関心があると回答した 128 名（「関心があり、学びたい」36 名と「関心はあるが学びたいと思わない」92 名の合計）のうちファッション分野の SDGs の取り組みに「関心がない」と回答した人は 1 名（0.8%）のみであり、他の 127 名（99.2%）は 14 項目のファッション分野の SDGs の取り組みのいずれかに関心があると回答している。一方、服飾文化学科に関心がないと回答した 372 名のうちファッション分野の SDGs の取り組みに「関心がない」と回答した人は 83 名（22.3%）、14 項目のいずれかに関心があると回答したのは 289 名（77.7%）である。

また、関心を示したファッション分野の SDGs の項目数でみると、「関心があり、学びたい」の回答者は 1 名平均 4.7 項目（36 名の回答者に対し、選択項目数はのべ 169）、「関心はあるが学びたいとは思わない」回答者は 1 名平均 4.8 項目（92 名の回答者に対し、選択項目数はのべ 438）を選択している。これに対し服飾文化学科に「関心がない」回答者が選択した項目数は 1 名平均 2.8 項目（372 名の回答者に対し、選択項目数はのべ 1036）である。

上記の数値により、服飾文化学科に関心がある高校生は、関心のない高校生に比べて、ファッション分野の SDGs の取り組みに関心が高いことが示されている。

次に、服飾文化学科への関心と入学意向に関する回答（Q8）と（Q6）のクロス集計（Q8×Q6）に注目すると、服飾文化学科への関心とファッションの歴史への関心にも同様に相関性が見られる。

服飾文化学科に関心があると回答した 128 名のうち 122 名（95.3%）がファッションの歴史に関心があると回答しており、中でも服飾文化学科の主要科目である「ヨーロッパの服飾の歴史」「日本の服飾の歴史」については関心が高く、それぞれ 62 名（48.8%）、82 名（64.0%）が関心があると回答している。これに対し、服飾文化学科に関心がないと回答した 372 名のうちファッションの歴史に関心があると回答したのは 230 名（61.8%）、関心がないと回答したのは 83 人（38.2%）である。上記の数値により、服飾文化学科に関心がある高校生は、関心がない高校生に比べて、ファッションの歴史にも関心が高いことが示されている。

平成 30 年の高等学校学習指導要領改訂により、持続可能な社会の構築という視点からの各教科を見直しや「伝統や文化に関する教育の充実」が図られており、今後、ファッション分野の SDGs の取り組みや伝統的な服飾に対する高校生の関心は更に高まっていくと考えられ、一層広い層の高校生が服飾文化学科に関心をもつようになることが期待される。

以上のアンケート調査結果と分析を踏まえ、今後、学生募集に向けて積極的な取り組みを行うことによって、服飾文化学科の定員（40 名）を充足し、中長期的に安定した学生確保が可能であると判断できる。

ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金は既設の服飾学科・服飾表現学科と同じ服飾学部に属する学科として同一の納付金額とする。

② 学生確保に向けた具体的な取り組み状況

ア オープンキャンパスの開催【資料 8】

本学では、毎年、進学相談会、体験授業を含めて年間 15 回ほどオープンキャンパスを開催、コロナ禍前の来場者数は【資料 9】に示す通り毎年 1500 名以上となっている。

さらに遡って【資料 9】の過去 6 年間のオープンキャンパス参加者数と入学者数、入学者中のオープンキャンパス参加者数の関係を見ると、平成 28 年度に入学者数が落ち込み、その対策として学生スタッフの積極的活用、学生の作品の展示や、ファッションショーの開催等、本学の学びを肌で感じてもらうようオープンキャンパスのやり方を工夫した結果、翌年の平成 29 年度からオープンキャンパス等の参加者数に対する入学者数の割合が少しずつ高くなり、結果として令和元年度まで入学者数も増加傾向となっている。

また、本学への入学者の多くはオープンキャンパス等で来校したうえで、入学を決めていることが読み取れる。

しかしながら新型コロナウイルス感染症拡大により、令和 2 年度はほとんど対面のオープンキャンパスを開くことが出来ず、また 3 年度も開催数も少なく、さらに参加者数も制限することとなった。それに伴い入学者数が減少することとなったが、今後また開催数を増やし、多くの来校者を迎えることができれば、コロナ禍前の入学者数に戻していくことは可能であると考えている。

今後はより積極的にオープンキャンパスに関する広報を行い、参加者を確保して志願者、保護者に向け学科の特色をわかりやすく、卒業後の将来像がイメージできるように説明を行い入学者増加に努める。

イ 大学と高等学校との情報コミュニケーションプラットフォーム「SYMPA」を利用した情報発信

株式会社進研アドの「SYMPA」は、これまで電話や封書、高校訪問など個別かつアナログに発信してきた高等学校への入試関連情報を Web 上で一元管理できるシステムで、個別高校、セグメント高校に指定校情報、出張授業など配信ができ、高校側からの各種問い合わせ、相談、依頼など双方向でのコミュニケーションが取れる。特に出張授業、模擬授業のリストを登録できるため、高校の探求学習のニーズに対して今回新たに設置する「服飾文化学科」の SDGs 関連授業などが検索可能となり、高校の進路指導、担任にまでアプローチできる。これを活用して戦略的に配信することで、学生募集に繋げていく。

ウ 高等学校訪問班や教員による高等学校訪問【資料 10】

本学では、高校訪問専属の職員に加え教員に最低 7 校の高等学校訪問を義務付けて東京・神奈川・埼玉など関東圏中心に本学在校生の出身高等学校や家政系の学科がある高等学校に別表の通り 2000 件以上訪問していたが、コロナ禍によりここ 2 年間は教員による訪問は実施していない。

令和 4 年度以降は、教員による訪問を再開して、本学の特色ある教育内容を周知して認知度を上げることとしている。

エ 教員による出張授業・模擬授業の実施【資料 11】

本学では、高校在学中に大学の学びを体験できる出張授業を実施し、また高等学校からの依頼により、本学の教員を派遣している。

毎年、5月に教員の専門分野におけるテーマと授業内容を冊子にまとめて各高等学校に配布している。コロナ禍では、高等学校の要望に応じてオンラインで授業を実施することもあった。

本学の授業を受けて興味・関心を持ってもらうことで、志願者増に繋がると考え、今後は、前出の「SYMPA」を利用して高等学校への情報配信を引き続き実施していく。

オ 職員による進学相談会への参加【資料 10】

高校生と直接会える高等学校内で開催される進学相談会には、積極的に参加することとしている。年間約 60 会場に参加している。

高校生に本学の特色、魅力などを直接説明できる良い機会と捉えて高校生からみて相談しやすく、学校のイメージがわかりやすい本学の卒業生である入試広報課の若手職員を派遣し、志願者の確保に繋げる予定である。

カ 各種 SNS (YouTube、Facebook、Instagram、Twitter、LINE など) による情報発信

学科の特色がわかる PR 動画を作成し、YouTube やホームページで配信、また、各種 SNS を活用して、新学科の情報を日々配信して認知度を高めていく。

キ その他

進学情報誌や進学情報サイト、ホームページ、大学案内への掲載、新学科パンフレットの作成、高校構内に掲示してもらうポスター作成、目黒駅、下北沢 K-DG ボードの駅構内広告の刷新など行う。これらの広報活動を通じて高校生のみならず、保護者、高等学校関係者、更に社会一般へ周知することにより認知向上を図り志願者確保に繋げていく。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)

ア 人材の養成に関する目的

「服飾文化学科」では、現代の服飾文化が抱えるさまざまな課題に挑戦し、多様性ある服飾文化の創造と持続的発展を担う人材の養成を目指す。

現在、世界共通の目標として SDGs (持続可能な開発目標) が掲げられ、その達成に向けた取り組みが進展している。このような動きの中で、世界と日本の服飾産業と服飾の消費生活においても、環境・社会・人権に配慮するサステイナブル・ファッションの実践が重要課題となっている。一方で、世界や日本の各地で育まれてきた染織の伝統技術、及び歴史衣装や民族衣装などの服飾史史料の保存と次世代への継承が急務となっている。

本学科では、世界と日本の服飾文化を歴史的、空間的に捉える視点を養うことを通して、このような現代の服飾文化が直面する諸問題について、自ら課題を発見しこれを解決するための方策を構想し新しい提案ができる人材を養成する。

イ 研究教育上の目的

杉野服飾大学は服飾に関する教育研究を行う単科大学として、服飾学部には服飾の造形とビジネスの領域で服飾学科を、服飾の表現の領域で服飾表現学科の2学科を設置している。今回新設する「服飾文化学科」は、上記アで述べたような人材養成を目指して服飾に関する文化現象の諸相について教育研究することを目的とする。

具体的には、ヨーロッパ圏とアジア圏及び日本の服飾文化に関して文化財的見地からの調査研究と学修によってその価値を次世代に継承し、伝承することである。

これには、服飾文化が形成される時間的空間的視点に立って現代の服飾文化が抱える様々な課題の検討とその解決策の検討が含まれる。現在世界と日本の服飾産業と服飾の消費生活に共通する重要課題となっている「SDGs（持続可能な開発目標）」への取り組みは、本学科の教育研究のテーマのひとつとなる。

教育課程は、服飾造形基礎科目とビジネスの基礎科目を含む初年次教育課程と、専門教育課程により構成される。専門教育課程の必修科目は、「歴史と民族」「衣のものづくり」「修復・復元」「サステナビリティ」の4つのカテゴリーに分けられる。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

ア 服飾文化学科が養成する人材のファッション産業における需要

杉野服飾大学は、服飾に関する教育研究を行う単科大学であるという特徴を活かしてファッション関連企業を中心に高い就職実績をあげており、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響が見られた令和元・2年度を除くと、就職希望者の就職率はほぼ100%となっている。このうちファッション関連企業が占める割合は80%前後で推移している【資料12】。このような本学の就職実績をふまえると、「服飾文化学科」卒業生の社会的な需要はファッション産業における人材需要の動向が大きく影響すると考えられる。

近年のファッション産業は、製造にかかるエネルギー使用量やライフサイクルの長さなどから環境負荷が非常に大きい産業と指摘され、国際的な課題となっている。また、労働環境など生産背景の透明性も求められている。このような課題に対し、国際的にはサステナブル・ファッションへの取り組みが急速に広がっている。

一方、日本のファッション産業におけるサステナブル・ファッションへの取り組みの現状については、織研新聞が令和3年12月に繊維・ファッションビジネス関連企業経営トップアンケート調査を行っている。それによると、ファッション関連企業が令和4年の「経営課題として重視するテーマ」として、「サステナビリティの取り組み」が「ECの強化、拡大」（122社中72社）に次ぐ第2位（122社中の約60社）、3～5年の中期の課題としてトップ（122社中約75社）に挙げられており、「サステナビリティの取り組み」が最重要課題のひとつと位置付けられている（織研新聞2022〔令和4〕年1月1日6面・8面）（注4）。また、当アンケートにおける「SDGsへの取り組み」についての回答から、現状ではSDGsへの取り組みは緒についたばかりの企業も少なくないと見られるが、行政において

も、環境省、経済産業省、消費者庁が連携して「サステナブルファッションの推進に向けた関係省庁連携会議」を立ち上げる（令和3年8月）など、企業の努力を促し支援する姿勢を示しており、サステナブル・ファッションは官民あげての課題として取り組まれ始めている。

このようなファッション産業を取り巻く状況から、「服飾文化学科」でSDGsへの取り組みについて広く学び、服飾文化が直面する課題を解決する能力を身につけた人材は、今後のファッション産業において高い需要が見込まれる。

イ ファッション関連企業ヒアリング調査における服飾文化学科の評価

「服飾文化学科」の人材養成とファッション業界の人材需要が適合しているかについて客観的に把握するため、ファッション関連企業A社、B社にヒアリング調査を実施した。

【調査概要】

- ・調査対象：企業のサステナビリティ担当者、人事関連業務担当者
- ・調査方法：訪問聞き取り調査
- ・調査内容：①調査対象企業におけるサステナビリティの取り組み状況
 - ②「服飾文化学科」の特色に対する魅力度
 - ③「服飾文化学科」が養成する人材のファッション業界における必要性

*本調査では、本学科は令和5年4月の開設を目指して構想中であることを明確にしたうえで、基本情報として学科名称、養成する人材像、教育の特徴、カリキュラム表、予想される卒業後の進路を記載したリーフレットを提示し、「服飾文化学科」について十分理解いただいたうえで回答をお願いした。

- ・実施時期：A社 令和4年2月3日
B社 令和4年2月8日
- ・調査実施者：杉野服飾大学就職部部長 杉野服飾大学服飾学部教員2名

【調査結果】

	A社	B社
	ヨーロッパに本拠をもつ世界有数のアパレル企業。日本を含む74か国に主要ブランドの店舗を展開する。	日本のアパレル企業。自社ブランドに加え海外のブランドともライセンス契約を結び、百貨店を中心に日本各地に店舗を展開する。
① サステナビリティの取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・業界が100%循環型へ転換するための先導役との意識。 ・全社員に対する入社直後からの教育実施。 ・循環型デザインツールの開発と実用化の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナブルとダイバーシティの専門部署を2022年3月に設置予定。同部署を中心に取り組み推進を目指す。

②「服飾文化学科」の特色に対する魅力度	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナビリティについて段階を踏んで深化させ専門化させるカリキュラムに有効性を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的視点から現代服飾の課題に取り組み、未来の服飾文化創造に繋げていく考え方は貴重。
③「服飾文化学科」が養成する人材の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・循環型サステナブル・ファッションは今後の標準形。ゆえに新しいビジネスモデルへの適応力をもつ本学科卒業生の需要は高い。 ・リペアやアップサイクル分野の高い技術を持つ卒業生の活躍に期待。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッション企業のサステナビリティ推進の取組みと本学科の教育の取組みが学科完成年度に向けて一致する。本学科の卒業生需要は非常に高いものと期待できる。

上記のヒアリング結果からみても、「服飾文化学科」卒業生のファッション産業における需要は高く、卒業後の進路見通しは良好であると考えられることができる。

ウ 服飾文化学科が養成する人材の一般企業における需要

杉野服飾大学の就職状況は、前述のとおりファッション関連企業を中心に実績をあげてきたが、毎年 15%前後の学生はファッション関連企業を除く一般企業（情報通信業、小売業、不動産業、医療・福祉等）に就職しており、新型コロナウイルス感染症の影響でファッション関連企業の求人が減少した令和 2 年度は一般企業就職者が 35.8%を占めた。従って、「服飾文化学科」卒業生の社会的需要は、一般企業が学生に求める資質や能力とも関わる。

一般社団法人日本経済団体連合会が令和 4 年 1 月 18 日に公開した「採用と大学改革への期待に関するアンケート」（回答企業数：381 社 調査期間：令和 3 年 8 月 4 日～10 月 1 日）（https://www.keidanren.or.jp/policy/2022/004_kekka.pdf）によると、企業が採用の観点から大卒者に特に期待する能力は「課題設定・解決能力」がトップである。

「服飾文化学科」の教育を通して養われる現代服飾の課題発見と解決能力は他分野にも応用される能力であり、「服飾文化学科」卒業生は産業界が学生に求める能力を備えた人材であると言える。

以上のような外部資料からみるファッション関連企業及び一般企業の人材需要の見直し、及びファッション関連企業ヒアリング調査の結果から、「服飾文化学科」の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は人材需要の動向等社会の要請・動向を踏まえているものと判断できる。

(注1) 「新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価(高等学校 共通教科「家庭）」」独立行政法人教職員支援機構 https://www.nits.go.jp/materials/youryou/files/060_001.pdf

(注 2) 【資料 13】のQ7 で服飾表現学科の教育内容に関連する項目として店舗・ディスプレイ、スタイリング(コーディネート)、情報・メディア(SNS イベント、ファッションショー、雑誌に関心を持つ回答数が全体の 31.6%を占めている。

(注 3) 文部科学省の実施した学校基本統計調査結果・高等学校「都道府県別入学状況」によると、東京・

埼玉・神奈川・千葉の高等学校入学者は、2019年度は279,336人、2020年度は272,791人である。

(注4) 織研新聞2022(令和4)年1月1日 新年特別号「ファッションビジネスとSDGs—持続可能な産業をめざして」掲載のファッションビジネス関連企業経営トップアンケート結果より。

資料目次

【資料 1】	服飾表現学科入学者数の推移	p. 2
【資料 2】	短期大学部入学者の推移	p. 2
【資料 3】	全国大学入学者数（私立）	p. 2
【資料 4】	全国大学・短大 被服・服飾系学部・学科一覧（私立）	p. 3
【資料 5】	被服・服飾系大学の定員・志願者数（首都圏私立）	p. 4
【資料 6】	私費外国人留学生入学者数	p. 4
【資料 7】	本学都道府県別・地域別入学者数	p. 5
【資料 8】	オープンキャンパス・高校生講座「つくる」来校者数	p. 6
【資料 9】	オープンキャンパス等参加者数と入学者数	p. 6
【資料 10】	高等学校訪問班や教員による高等学校訪問	p. 7
【資料 11】	教員による出張授業・模擬授業の実施	p. 8
【資料 12】	杉野服飾大学就職率の推移	p. 8
【資料 13】	杉野服飾大学「服飾文化学科」設置に関するアンケート調査 －高校生対象－ 調査結果報告書	p. 9

【資料 1】 本学服飾表現学科入学者数の推移

年度	2018 (H30)	2019 (R 元)	2020 (R2)	2021 (R3)
入学者数	22	24	29	24

【資料 2】 本学短期大学部入学者の推移

年度	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R 元)	2020 (R2)	2021 (R3)
入学者数	51	41	44	40	31	25

【資料 3】 全国大学入学者数(私立)

年度	2021 (R3)	2020 (R2)	2019 (R 元)	2018 (H30)	2017 (H29)
入学者数	494,213	503,830	500,085	497,773	499,677
入学定員充足率	99.81%	102.61%	102.67%	102.64%	104.61%
入学定員充足率 100%未満	46.4%	31.0%	33.0%	36.1%	39.4%
	277 校	184 校	194 校	210 校	229 校
被服学科入学者数	1,625	1,717	1,744	1,488	1,413

* 日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」令和 3(2021)～平成 29(2017)年度より作成

【資料4】全国大学・短大 被服・服飾系学部・学科一覧(私立)

都道府県	大学	学部	学科	募集人数	計	地域合計	
宮城	東北生活文化大学	家政学部	家政学科(服飾文化専攻)	18	18	18	東北
東京	大妻女子大学	家政学部	被服学科	68	138	2233	関東 首都圏
			ライフデザイン学科	70			
	共立女子大学	家政学部	被服学科	70	70		
	実践女子大学	生活学部	生活環境学科	80	80		
	昭和女子大学	環境デザイン学部	環境デザイン学科	185	185		
	東京家政大学	家政学部	服飾美術学科	155	155		
	東京家政学院大学	現代生活学部	現代家政学科	125	205		
			生活デザイン学科	80			
	日本女子大学	家政学部	被服学科	64	64		
	文化学園大学	服装学部	ファッションクリエイション学科	270	517		
			ファッション社会学科	130			
			国際文化学部	国際ファッション文化学科			
	国際ファッション 専門職大学	国際ファッション学部	ファッションクリエイション学科	80	118		
			ファッションビジネス学科	38			
	杉野服飾大学	服飾学部	服飾学科	200	240		
服飾表現学科			40				
戸板女子短期大学		服飾芸術科	150	150			
共立女子大学 短期大学部		生活科学科	100	100			
大妻女子大学 短期大学部		家政科家政専攻	90	90			
千葉	和洋女子大学	家政学部	服飾造形学科	60	60		
神奈川	女子美術大学	芸術学部	デザイン・工芸学科工芸専攻	9	16		
			アート・デザイン表現学科 ファッションテキスタイル表現領域	7			
	相模女子大学	学芸学部	生活デザイン学科	45	45		
新潟	長岡造形大学	造形学部	プロダクトデザイン学科	35	35	280	中部
愛知	金城学院大学	生活環境学部	環境デザイン学科	64	64		
	椋山女子学園大学	生活科学部	生活環境デザイン学科	75	75		
	名古屋学芸大学	メディア造形学部	ファッション造形学科	50	50		
	名古屋女子大学	家政学部	生活環境学科	56	56		
滋賀	滋賀県立大学	人間文化学部	生活デザイン学科	30	30	851	近畿
京都	京都女子大学	家政学部	生活造形学科	93	93		
	京都芸術大学	芸術学部	空間演出デザイン学科	60	60		
	同志社女子大学	生活科学部	人間生活学科	90	90		
	京都精華大学	デザイン学部	プロダクトデザイン学科	72	72		
大阪	大坂樟蔭女子大学	学芸学部	化粧ファッション学科	100	100		
	羽衣国際大学	人間生活学部	人間生活学科 (ファッションデザインコース)	55	55		
兵庫	神戸女子大学	家政学部	家政学科	16	16		
	神戸松陰女子大学	人間科学部	ファッション・ハウジングデザイン学科	60	60		
	神戸芸術工科大学	芸術工学部	ファッションデザイン学科	50	50		
	武庫川女子大学	生活環境学部	生活環境学科	165	165		
奈良	畿央大学	健康科学部	人間環境デザイン学科	60	60	65	中国
広島	広島女学院大学	人間生活学部	生活デザイン学科	65	65		
福岡	九州女子大学	家政学部	人間生活学科	40	40	155	九州
	香蘭女子短期大学		ファッション総合学科	80	80		
長崎	活水女子大学	健康生活学部	生活デザイン学科	35	35		

計38校

合計(人)

3602

3602

3602

※学科によって被服・服飾系領域以外も含む

参考：大学受験パスナビ（旺文社） <https://passnavi.evidus.com/> 2022年7月、各大学ホームページ

【資料5】被服・服飾系大学の定員・志願者数(首都圏私立)

大学	学部	学科	2019(R元)		2020(R2)		2021(R3)	
			定員	志願者	定員	志願者	定員	志願者
大妻女子大学	家政学部	被服学科	68	279	68	279	68	229
共立女子大学	家政学部	被服学科	72	404	72	399	70	333
東京家政大学	家政学部	服飾美術学科	132	692	133	621	155	507
日本女子大学	家政学部	被服学科	78	353	86	404	64	229
文化学園大学	服装学部	ファッションクリエイション学科	412	718	405	804	400	692
		ファッション社会学						
	国際学部	国際ファッション文化学科						
和洋女子大学	家政学部	服飾造形学科	60	148	60	203	64	123
杉野服飾大学	服飾学部	服飾学科	240	305	240	257	240	245
		服飾表現学科						
合計			1062	2899	1064	2967	1061	2358
志願者倍率			2.72		2.78		2.22	

参考：大学受験パスナビ（旺文社） <https://passnavi.evidus.com/> 2022年7月、各大学ホームページ

【資料6】私費外国人留学生入学者数

年度	2018 (H30)	2019 (R元)	2020 (R2)	2021 (R3)
入学者数	7	6	15	13
編入学者数	19	10	5	14
入学者合計数	26	16	20	27

* 合作校浙江紡織服装職業技術学院日中服飾専門課程からの編入学生数含む

【資料 7】 本学都道府県別・地域別入学者数

年度	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	東北 計
2020 (R2)	1	2	3	2	2	1	5	15
2021 (R3)	2	2	1	1	0	0	1	5
2022 (R4)	2	0	1	1	1	0	3	6

年度	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	関東 計
2020 (R2)	7	1	3	22	39	59	26	157
2021 (R3)	5	5	3	23	31	41	35	143
2022 (R4)	4	7	3	23	31	56	19	143

年度	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	中部 計
2020 (R2)	2	0	1	0	1	1	0	4	1	10
2021 (R3)	1	0	1	1	0	2	0	4	0	9
2022 (R4)	3	0	0	0	1	0	1	2	1	8

年度	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	近畿 計
2020 (R2)	0	0	0	1	0	1	0	2
2021 (R3)	0	0	0	0	0	3	0	3
2022 (R4)	0	0	0	0	0	0	0	0

年度	鳥取	島根	岡山	広島	山口	中国 計	徳島	香川	愛媛	高知	四国 計
2020 (R2)	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1
2021 (R3)	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0
2022 (R4)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

年度	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	九州 計	沖縄	その他(外国)
2020 (R2)	1	0	0	0	0	1	1	3	2	15
2021 (R3)	0	0	1	1	1	1	2	6	4	13
2022 (R4)	1	0	0	2	0	0	0	3	3	8

【資料 8】オープンキャンパス・高校生講座「つくる」来校者数

2022 年 2 月現在

年度	回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18		
2021 (R3)	開催日	4月	5月	6月	7月	8月			9月	10月			11月	2月		3月					合計
		25日	30日	13日	18日	9日	10日	21日	19日	23日	30日	31日	21日	12日	13日	20日					
	オープンキャンパス	87	67	60	109	—	—	101	61	—	—	—	56	—	—						541
	高校生講座							58	56							—					
2020 (R2)	開催日	4月	5月			6月	7月		8月			10月			12月	2月		3月			合計
		19日	4日	5日	6日	31日	21日	12日	19日	16日	17日	18日	11日	24日	25日	13日	13日	14日	21日		
	オープンキャンパス	—	—	—	—	—	—	—	—	83	67	70	41	—	—	—	—	—	—	—	261
	高校生講座							—	—							—					
2019 (R元)	開催日	4月	6月		7月		8月			10月			12月	2月		3月					合計
		21日	2日	16日	15日	28日	8日	9日	17日	12日	26日	27日	15日	8日	9日	15日					
	オープンキャンパス	105	155	141	182	101	153	139	230	—	21	20	92	23	12	—					1374
	つくる							111	86							—					
2018 (H30)	開催日	4月	6月		7月		8月			9月	10月			12月	2月		3月				合計
		22日	3日	17日	16日	29日	5日	6日	18日	9日	13日	27日	28日	16日	9日	10日	17日				
	オープンキャンパス	90	140	103	239	86	126	118	183	66	26	15	23	74	8	10	70				1377
	つくる							87	115							47					

【資料 9】オープンキャンパス等参加者数と入学者数

年度	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
OC 等参加者数(A)	1521	1594	1626	1571	261	655
入学者数(B)	164	196	215	222	207	187
入学者中の OC 参加者数(C)	148	183	187	207	187	155
C/B	90.24%	93.37%	86.98%	93.24%	90.34%	82.89%
C/A	9.73%	11.48%	11.50%	13.18%	71.65%	23.66%
入学者の割合(B/A)	10.78%	12.30%	13.22%	14.13%	79.31%	28.55%

C/B:入学者中の OC 参加者の割合

C/A:OC 参加者(全体)における入学者の割合

B/A:入学者数の OC 参加者数(全体)に対する比率

【資料 10】 高等学校訪問班や教員による高等学校訪問

2022年2月現在

年度 都道府県	2018 (H30)		2019 (R元)		2020 (R2)		2021 (R3)		合計
	高校訪問	ガイダンス	高校訪問	ガイダンス	高校訪問	ガイダンス	高校訪問	ガイダンス	
北海道	4								4
青森県	3		1						4
宮城県	1							1	2
秋田県						1			1
山形県			1						1
福島県	15		13						28
茨城県	253	1	233	2	152	2	176	2	821
栃木県	106	6	93	3	139	5	88	4	444
群馬県	71	1	81				75	2	230
埼玉県	318	17	338	12	242	7	324	16	1274
千葉県	418	6	408	5	318	2	365	12	1534
東京都	804	21	699	15	591	15	644	33	2822
神奈川県	283	12	253	12		7	270	9	846
山梨県	7	2		1					10
長野県	2		1			1		1	5
静岡県		1	1	1			8		11
大阪府	1		1						2
兵庫県								1	1
奈良県	7		3						10
岡山県	2								2
山口県	1								1
愛媛県	2								2
福岡県	2								2
熊本県	1								1
鹿児島県	2								2
沖縄県	3		2						5
外国の学校		1							1
高等専修	6		1						7
総計	2312	68	2129	51	1442	40	1950	81	8073

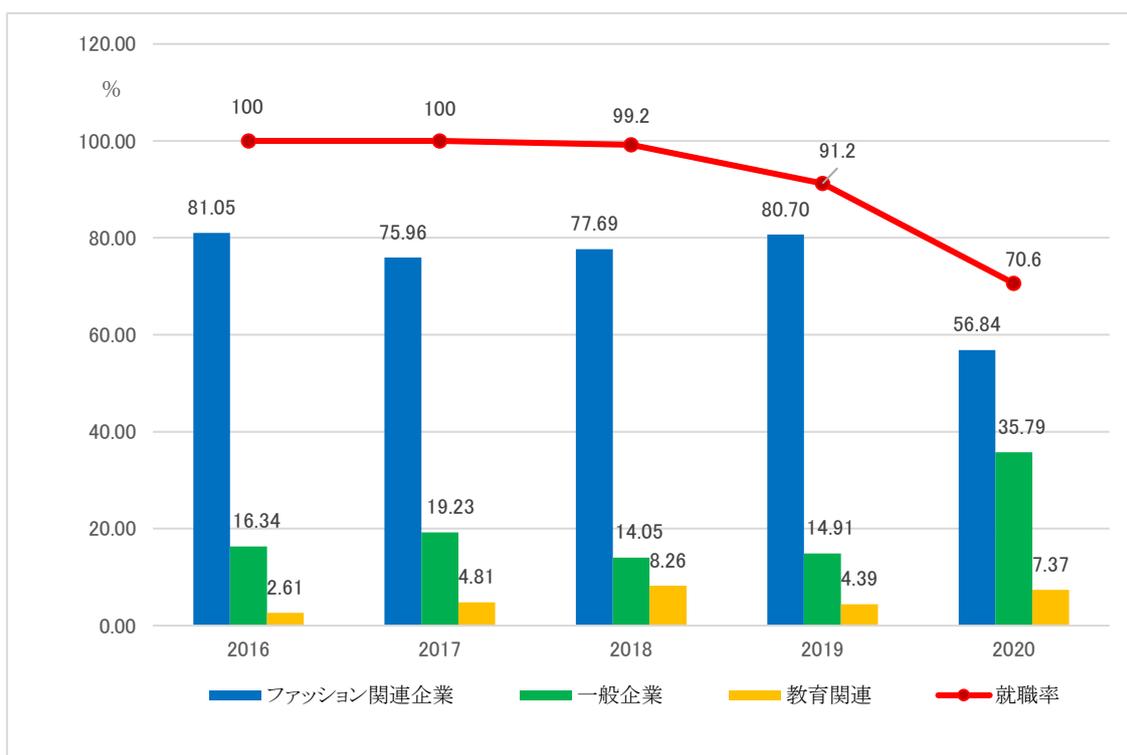
(件)

【資料 11】 教員による出張授業・模擬授業の実施

2022年1月現在

実施都道府県	2018 (H30)	2019 (R元)	2020 (R2)	2021 (R3) (1月末現在)	合計
茨城県	7	4	3	2	16
栃木県	7	6	2	2	17
群馬県			1		1
埼玉県	10	9	6	8	33
千葉県	8	11	4	8	31
東京都	16	20	4	23	63
神奈川県	5	9	4	8	26
長野県	2	2		1	5
高等専修	1				1
総計	56	61	24	52	193

【資料 12】 杉野服飾大学就職率の推移



(%)

杉野服飾大学「服飾文化学科」設置に関するアンケート調査
— 高校生対象 —
調査結果報告書

株式会社ライフマップ

2022年7月

アンケート調査概要

1. 調査目的

2023年4月に開設予定の杉野服飾大学「服飾文化学科」の新設構想に関して、
高校生のニーズを把握する。

2. 調査概要

調査期間	2022年2月2日～2022年2月4日
調査対象	全国の高校1年生、高校2年生、高校3年生
調査方法	スマートフォン、パソコン、タブレット等によるWEBアンケート
有効回答件数	500件
調査実施機関	株式会社ライフマップ
アンケート実施	楽天インサイト株式会社

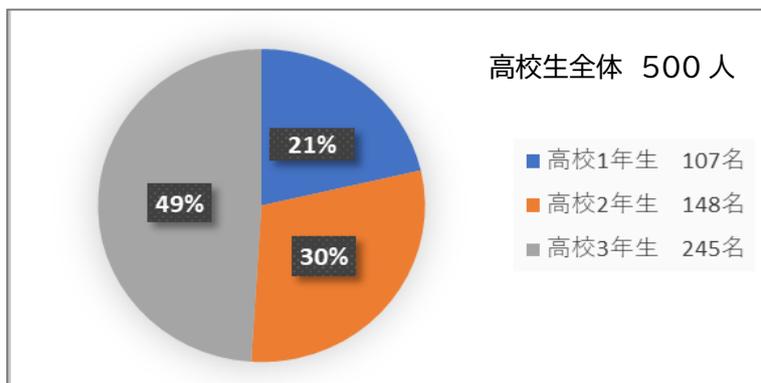
3. アンケート調査項目

- ・ 学年
- ・ 学校所在地
- ・ 高校卒業後の希望進路
- ・ 将来の希望職業
- ・ SDGs への関心
- ・ 服飾文化学科への関心、入学意向

集計結果

SC1. あなたの学年を教えてください。

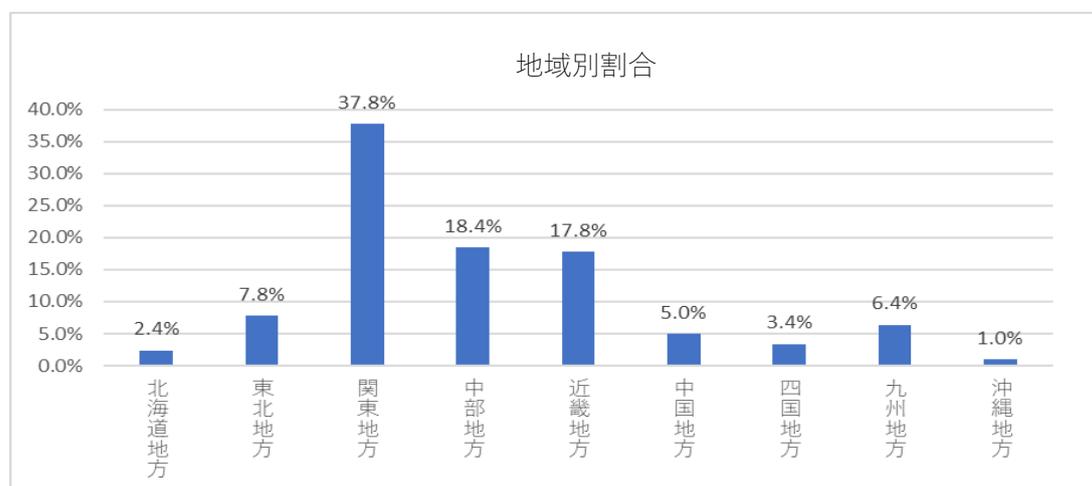
n	500
高校1年生	107
高校2年生	148
高校3年生	245



Q1. あなたの学校所在地を教えてください。

Q1において、回答者の高校所在地を質問した。杉野服飾大学の所在地である「東京都」が最も多く66人(13.2%)、次に千葉県と愛知県がそれぞれ38人(7.6%)と続いた。地域別では、関東地方が最も多く189人(37.8%)、次に中部地方92人(18.4%)、近畿地方89人(17.8%)と続いた。

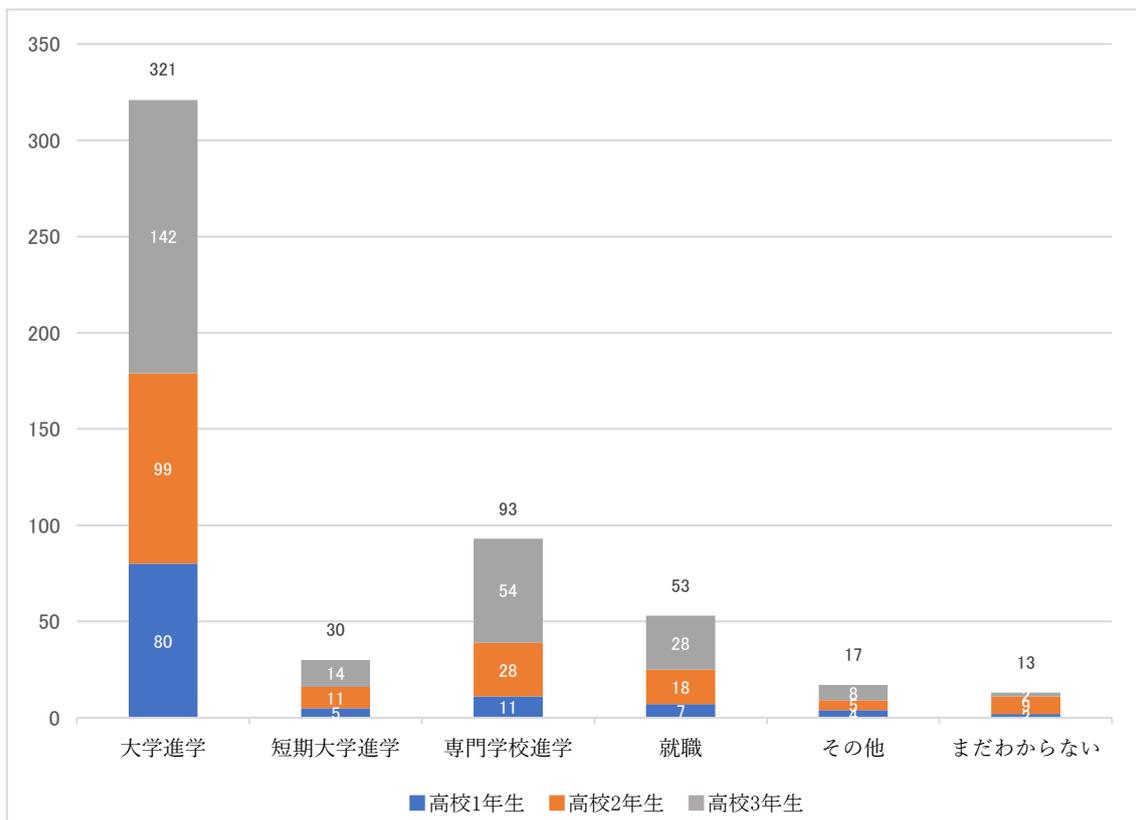
	n	北海道	青森県	秋田県	岩手県	山形県	宮城県	福島県	茨城県	栃木県	埼玉県	群馬県	東京都	神奈川県	千葉県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	静岡県	長野県	愛知県	岐阜県	三重県	京都府	滋賀県	兵庫県	奈良県	大阪府	和歌山県	鳥取県	岡山県	広島県	山口県	香川県	徳島県	愛媛県	高知県	福岡県	大分県	宮崎県	佐賀県	熊本県	鹿児島県	沖縄県		
高校生	500	12	9	3	5	2	10	10	8	7	32	4	66	34	38	10	3	8	2	5	12	4	38	10	8	11	7	29	4	28	2	2	9	2	9	3	3	1	11	2	16	1	2	3	3	5	2	5
高校1年生	107	3	1	0	3	0	0	1	1	1	7	0	16	5	10	4	0	1	1	0	4	1	7	3	3	2	0	7	0	5	1	1	1	0	3	0	0	3	1	6	0	1	1	1	0	0	2	
高校2年生	148	2	2	2	0	1	3	3	2	2	10	0	19	17	12	2	0	4	1	2	2	1	9	3	2	4	3	11	2	9	0	1	2	1	1	0	1	0	3	0	2	0	0	1	1	1	3	
高校3年生	245	7	6	1	2	1	7	6	5	4	15	4	31	12	16	4	3	3	0	3	6	2	22	4	3	5	4	11	2	14	1	0	6	1	5	3	2	1	5	1	8	1	1	1	4	1	0	
地域別		12	39				189					92					89				25			17		32			5																			
%		2.4%	7.8%				37.8%					18.4%					17.8%				5.0%			3.4%		6.4%			1.0%																			
		北海道地方				関東地方					中部地方					近畿地方				中国地方			四国地方		九州地方			沖縄地方																				



【単位: %】

Q2. あなたは高校卒業後、どの進路を考えていますか。(いくつでも)

Q2において、回答者の高校卒業後の希望進路を質問した(複数回答可)。321人(64.2%)の「大学進学」が最も多く、93人(18.6%)の「専門学校進学」、53人(10.6%)の「就職」と続いた。

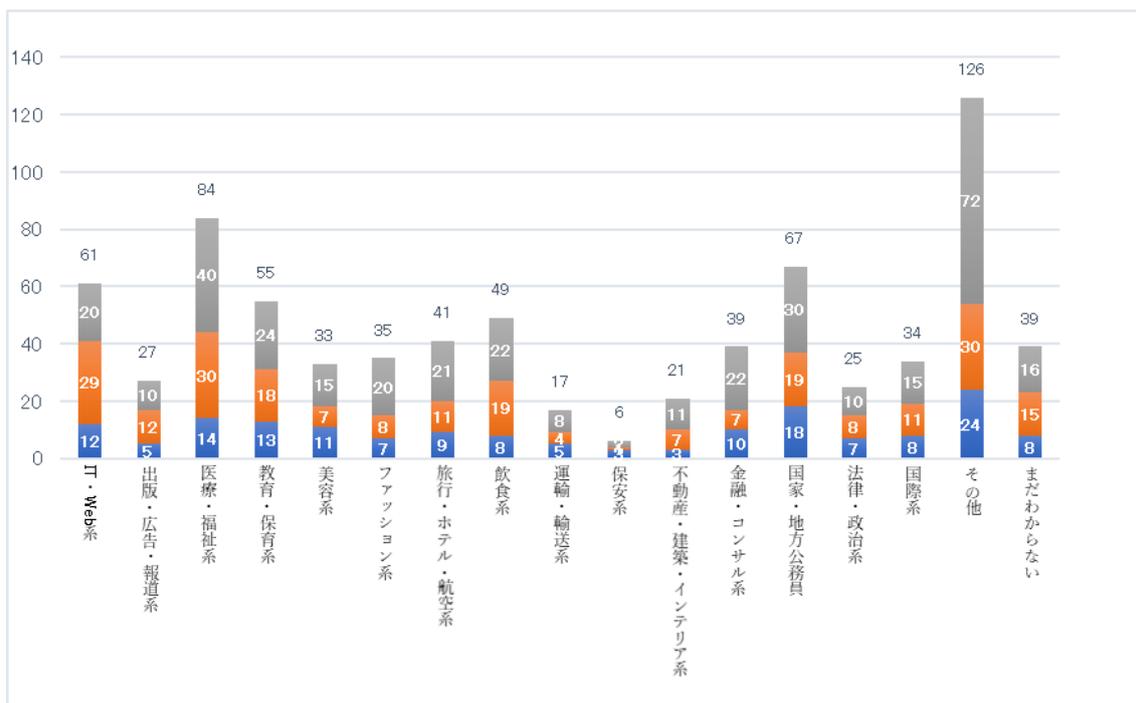


回答者 500人 回答数 527件

【単位：件】

Q3. あなたは将来、どのような分野の職業に就きたいですか。(いくつでも)

Q3において、回答者の将来希望する職業を質問した(複数回答可)。「その他」以外では、「医療・福祉系」が84人(16.8%)と最も多く、次いで「国家・地方公務員」が67人(13.4%)、「IT・WEB系」61人(12.2%)と続いた。服飾文化学科に関連のある「ファッション系」は35人(7.0%)。

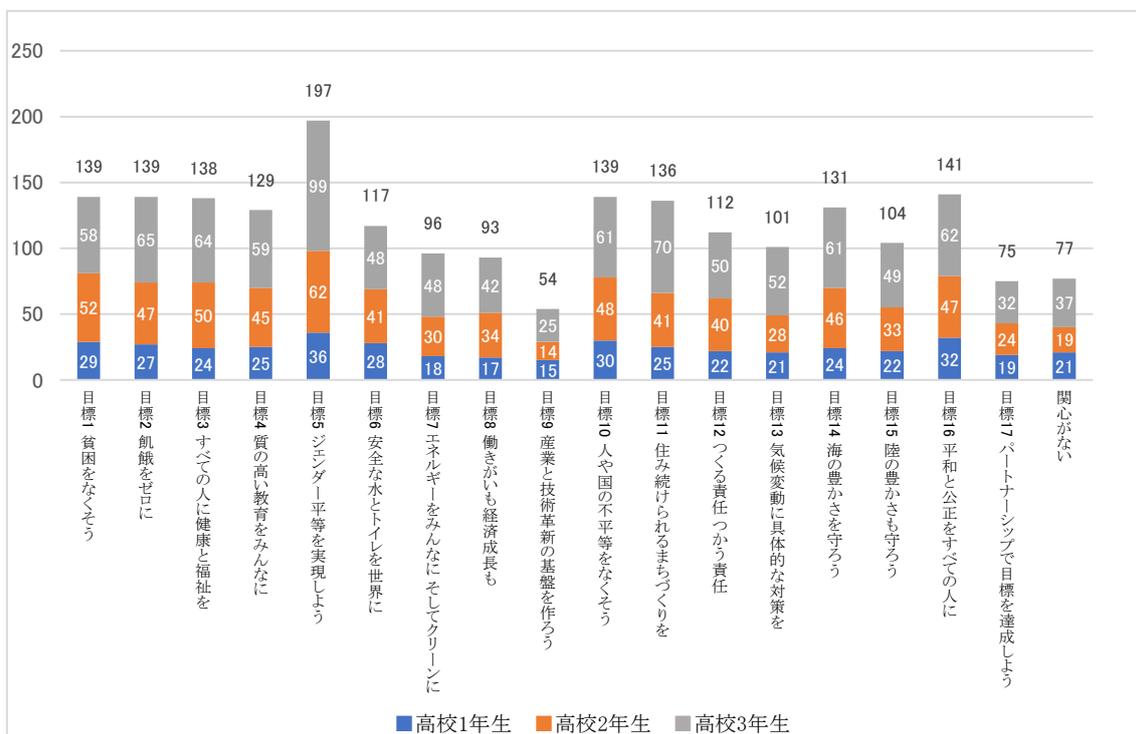


回答者 500人 回答数 759件

【単位：件】

Q4. SDGsの17の目標の中であなたが関心をもっている項目を選択してください。(いくつでも)
 ※SDGsの目標1～17は選択肢となっております。

Q4において、SDGsの17の目標の中で回答者が関心をもっている事柄について質問した(複数回答可)。「目標5 ジェンダー平等を実現しよう」が最も多く197人(39.4%)の回答者が関心を示した。次いで「目標1」「目標2」「目標3」「目標10」「目標11」「目標14」「目標16」に、131人(26.2%)～139人(27.8%)と、ほぼ同程度の回答者が関心を示した。高校生が多様な視点からSDGsに関心をもっていることが示された。

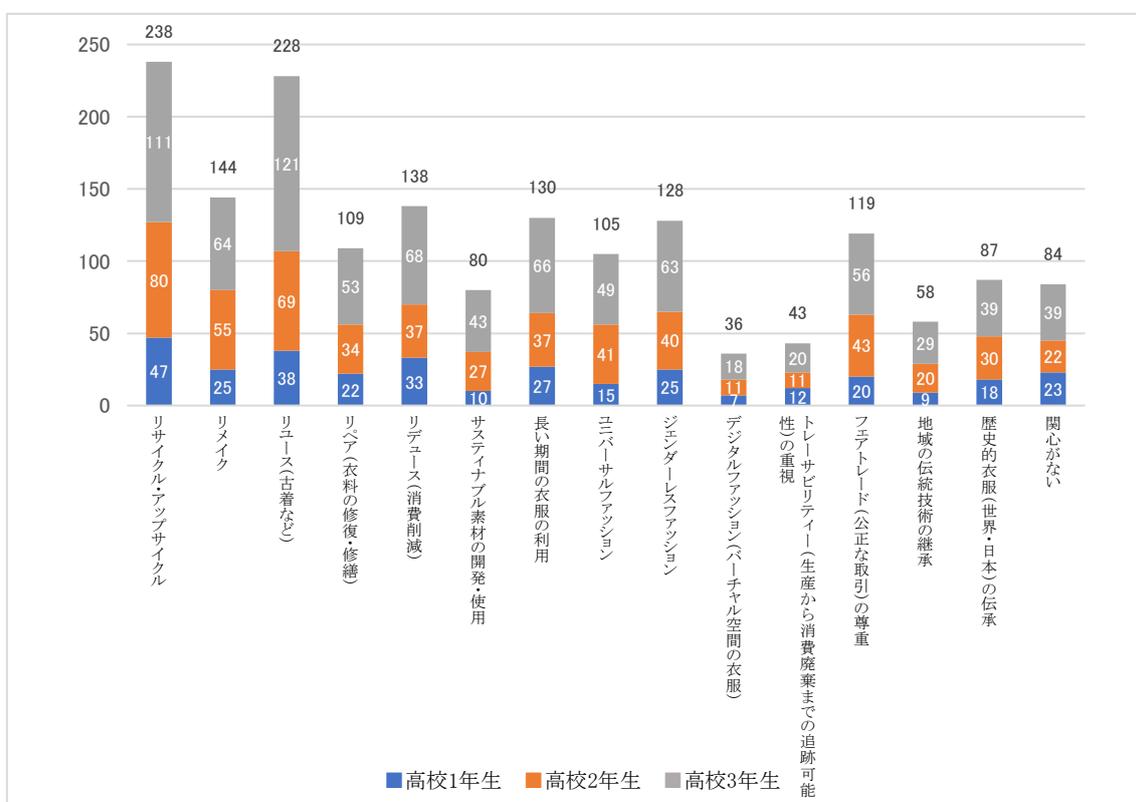


回答者 500 人 回答数 2,118 件

【単位：件】

Q5. 環境や人権に配慮した持続可能な世界を実現するため、ファッションの世界では以下の取り組みが進められています。実践中 or 関心がある項目を選択してください。(いくつでも)

Q5において、回答者の「ファッション分野のSDGsの取り組みへの関心」について質問した（複数回答可）。最も関心が高かったのは「リサイクル・アップサイクル」の238人（47.6%）で、これに次いで「リユース」が228人（45.6%）、「リメイク」が144人（28.8%）であった。この他、「リペア」「リデュース」「長期間の衣服の利用」「ユニバーサルファッション」「ジェンダーレスファッション」「フェアトレード」にも100人以上が関心があると回答し、高校生のファッション分野のSDGsの取り組みへの関心の高さが示された。

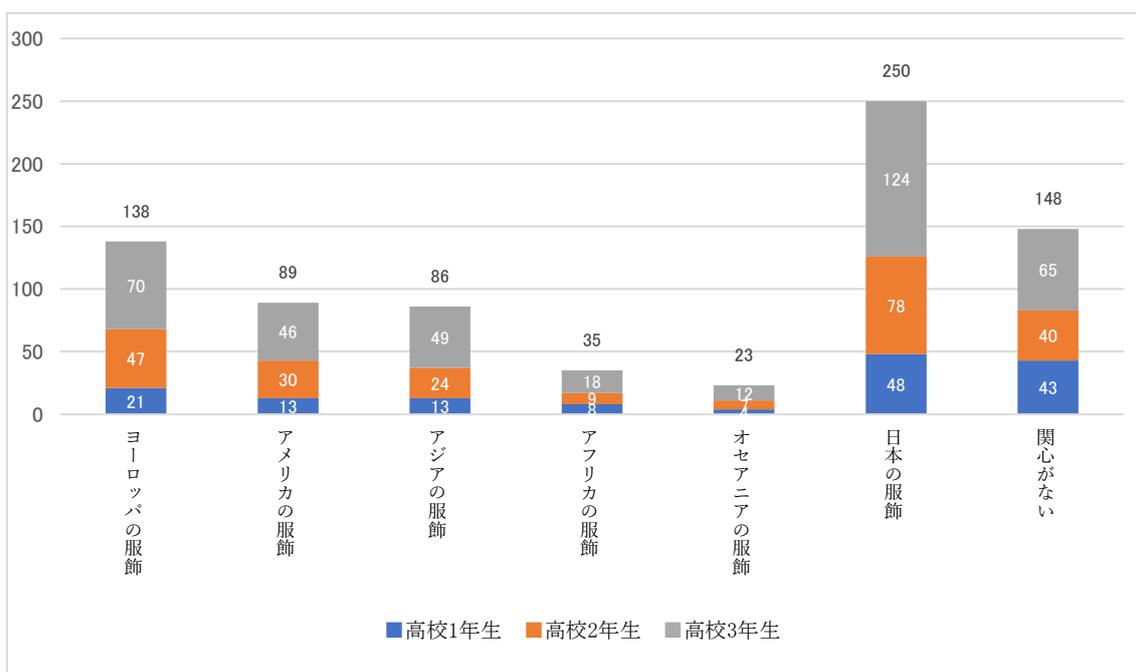


回答者 500 人 回答数 1,727 件

【単位：件】

Q6. 世界のファッションの歴史を知るとは、未来のファッションの創造につながります。ファッションの歴史に関して、関心を持っている項目を選択してください。(いくつでも)

Q6において、回答者の「ファッションの歴史への関心」について質問した（複数回答可）。「日本の服飾」の歴史への関心が最も高く 250 人（50%）、次いで「ヨーロッパの服飾」138 人（27.6%）、「アメリカの服飾」89 人（17.8%）、「アジアの服飾」86 人（17.2%）と続いた。352 人（70.4%）がいずれかの地域の服飾の歴史に関心を示した。

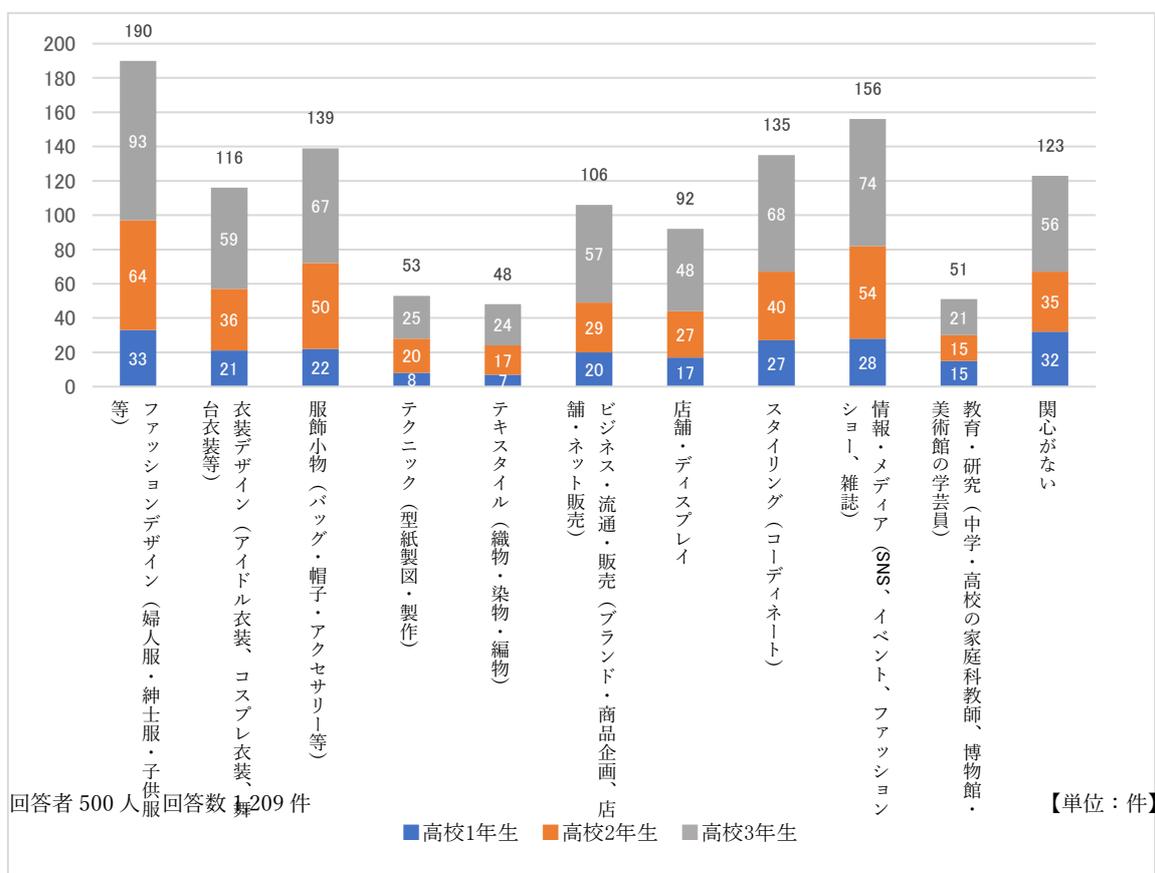


回答者 500 人 回答数 769 件

【単位：件】

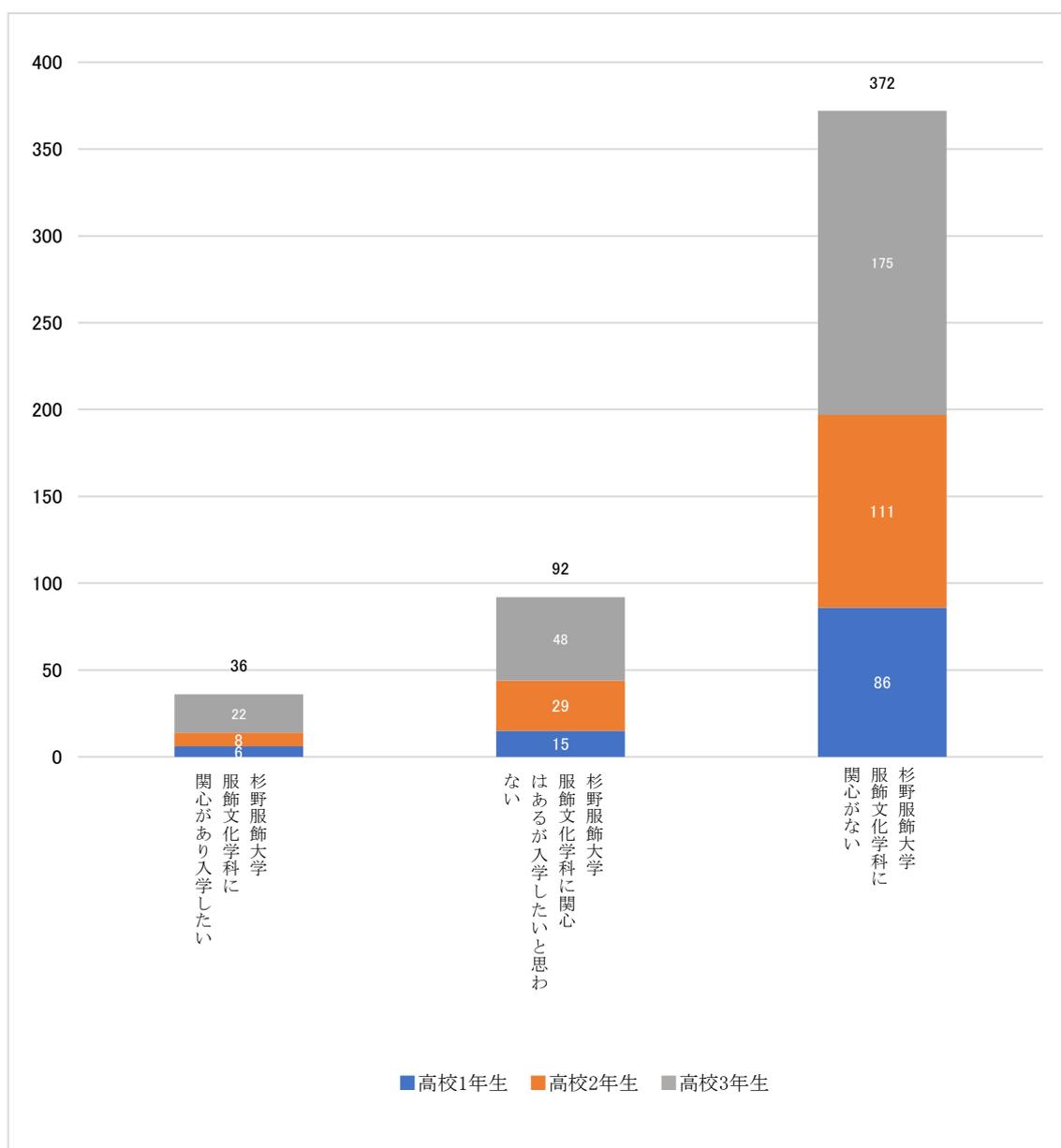
Q7. Q5,6 の他にも、ファッションの世界には以下のような幅広い分野があります。この中からあなたが関心をもっている項目を選択してください。(いくつでも)

Q7において、ファッションの世界で回答者が関心のある分野について質問した。ファッションに「関心がない」という回答は123人(24.6%)に留まり、高校生のファッションに対する関心の高さが示された。最も関心が高かったのは「ファッションデザイン(婦人服等)」190人(38.0%)で、「情報・メディア」156人(31.2%)、「服飾小物」139人(27.8%)と続いた。



Q8. 杉野服飾大学「服飾文化学科」では Q5,Q6 の内容を視野に「多様性あるファッション(服飾)文化の創造」を担う人材を育成します。この学科で学びたいですか。

Q8 において、回答者の服飾文化学科に対する関心と入学意向について質問した。「服飾文化学科に関心がない」が最も多く 372 人 (74.4%)、「服飾文化学科に関心はあるが学びたいとは思わない」が 92 人 (18.4%)、入学意向を示す「服飾文化学科に関心があり、学びたい」は 36 人 (7.2%) に留まった。



回答者 500 人

【単位：人】

「服飾文化学科」への関心・入学意向分析

アンケート調査 Q8 の「服飾文化学科」への関心・入学意向に関する回答について、他の質問項目とのクロス集計を行い分析する。

■ 「服飾文化学科」への関心・入学意向と高校所在地

(Q8 × Q1)

服飾文化学科に「関心があり、学びたい」と回答した者は 500 人中 36 人であり、地域別に見ると関東が最も多く 11 人（内訳は埼玉 2 人・東京 5 人・神奈川 2 人・千葉 2 人）であり、次いで近畿が 10 人（内訳は三重 1 人・京都 3 人・滋賀 1 人・兵庫 5 人）、中部が 8 人（内訳は新潟 1 人・富山 1 人・静岡 1 人・愛知 5 人）である。

高校 3 年生（245 人）で見ると、関東が 7 人（内訳は埼玉 2 人・東京 3 人・神奈川 1 人・千葉 1 人）、次いで中部が 6 人（内訳は新潟 1 人・富山 1 人・静岡 1 人・愛知 3 人）、近畿が 5 人（京都 2 人・滋賀 1 人・兵庫 2 人）である。

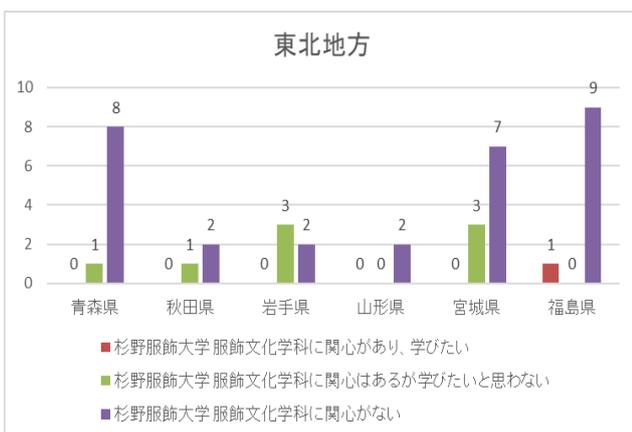
【全体】

		n	北海道	青森県	秋田県	岩手県	山形県	宮城県	福島県	茨城県	群馬県	栃木県	埼玉県	東京都	神奈川県	千葉県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	静岡県	長野県	愛知県	岐阜県	三重県	京都府	滋賀県	兵庫県	奈良県	大阪府	和歌山県	鳥取県	岡山県	広島県	山口県	香川県	徳島県	愛媛県	高知県	福岡県	大分県	宮崎県	佐賀県	熊本県	鹿児島県	沖縄県		
全体		500	12	9	3	5	2	10	10	8	4	7	32	66	34	38	10	3	8	2	5	12	4	38	10	8	11	7	29	4	28	2	2	9	2	9	3	3	1	11	2	16	1	2	3	3	5	2	5
Q8	杉野服飾大学 服飾文化学科に関心があり、学びたい	36	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	2	2	1	1	0	0	0	1	0	5	0	1	3	1	5	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2		
	杉野服飾大学 服飾文化学科に関心はあるが学びたいと思わない	92	2	1	1	3	0	3	0	1	0	2	7	17	8	5	1	1	3	0	0	1	0	5	0	0	2	2	2	0	10	1	1	0	0	2	0	0	2	0	6	1	0	0	0	2	0	0	
	杉野服飾大学 服飾文化学科に関心がない	372	9	8	2	2	2	7	9	7	4	5	23	44	24	31	8	1	5	2	5	10	4	28	10	7	6	4	22	4	18	1	1	9	2	6	3	2	1	9	2	10	0	2	2	3	3	2	3
	杉野服飾大学 服飾文化学科に関心があり、学びたい	36	1												11							8						10																					2
地域名			東北地方				関東地方 (首都圏外)				関東地方 (首都圏)				中部地方				近畿地方				中国地方				四国地方				九州地方																		

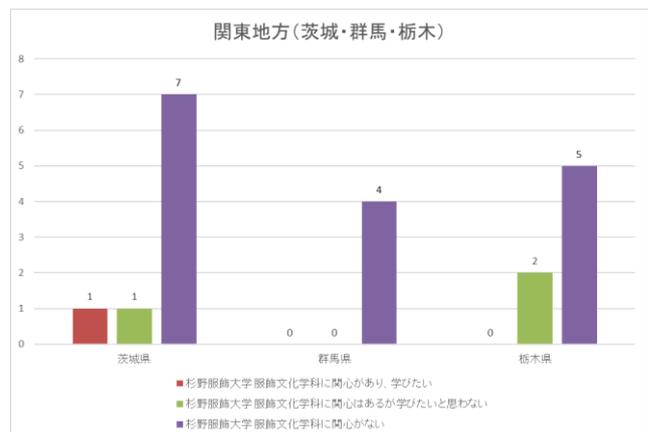
回答者 500 人

【単位：人】

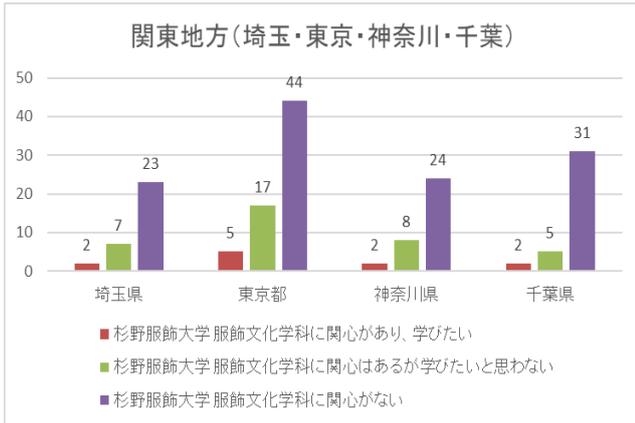
【地域別】



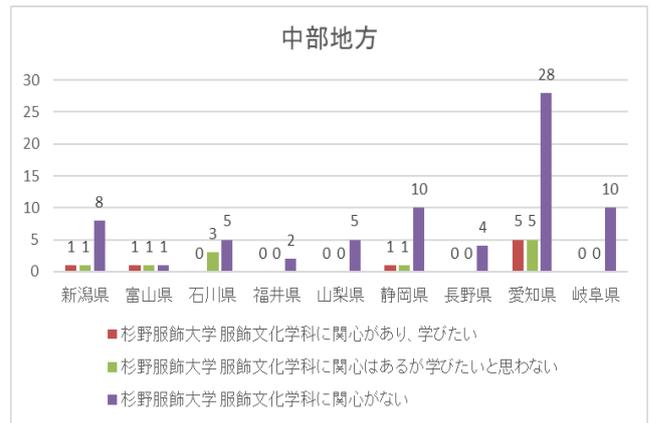
【単位：人】



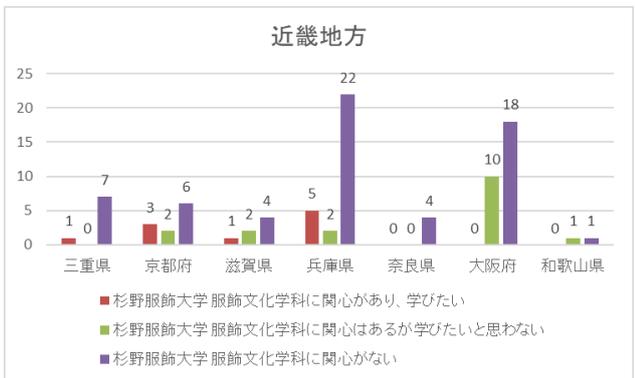
【単位：人】



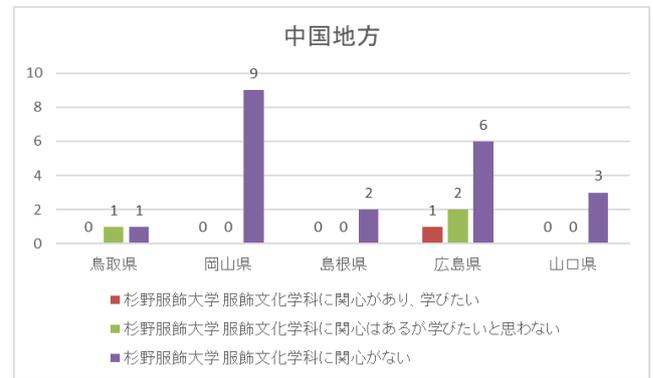
【単位:人】



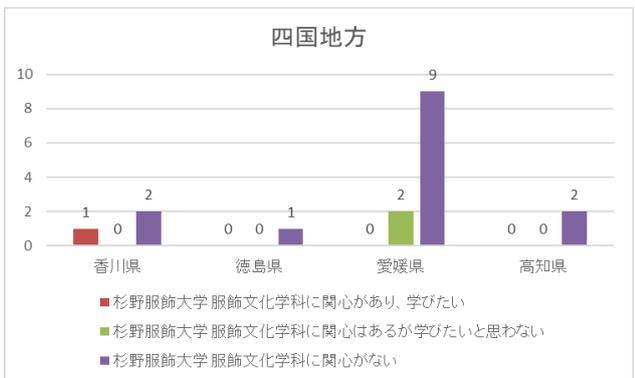
【単位:人】



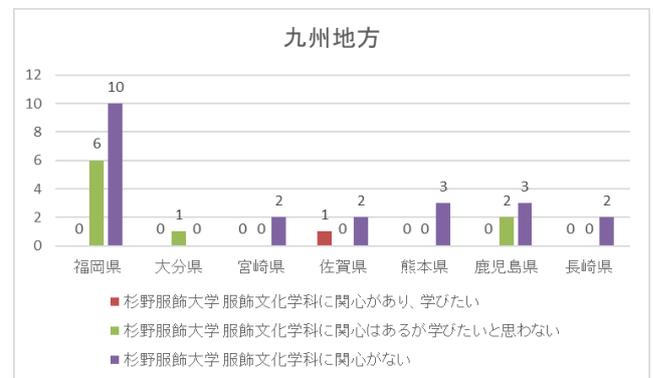
【単位:人】



【単位:人】



【単位:人】



【単位:人】

【学年別】

n=500	n	北海道	青森県	秋田県	岩手県	山形県	宮城県	福島県	茨城県	群馬県	栃木県	埼玉県	東京都	神奈川県	千葉県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	静岡県	長野県	愛知県	岐阜県	三重県	京都府	滋賀県	兵庫県	奈良県	大阪府	和歌山県	鳥取県	岡山県	広島県	山口県	香川県	徳島県	愛媛県	高知県	福岡県	大分県	宮崎県	佐賀県	熊本県	鹿児島県	沖縄県		
		高校1年生・全体	107	3	1	0	3	0	0	1	1	0	1	7	16	5	10	4	0	1	1	0	4	1	7	3	3	2	0	7	0	5	1	1	1	0	3	0	0	0	3	1	6	0	1	1	1	0
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心があり、学びたい	6	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心はあるが学びたいと思わない	15	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心がない	86	2	1	0	2	0	0	1	0	1	7	14	3	9	4	0	0	1	0	3	1	5	3	3	2	0	5	0	3	1	0	1	0	3	0	0	3	1	2	0	1	1	1	0	0	2		
高校2年生・全体	148	2	2	2	0	1	3	3	2	0	2	10	19	17	12	2	0	4	1	2	2	1	9	3	2	4	3	11	2	9	0	1	2	1	1	0	1	0	3	0	2	0	0	1	1	1	1	3
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心があり、学びたい	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心はあるが学びたいと思わない	29	1	0	1	0	0	1	0	1	0	3	5	5	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心がない	111	1	2	1	0	1	2	3	1	0	2	7	12	11	10	2	0	3	1	2	2	1	8	3	1	3	10	2	5	0	1	2	1	0	0	1	0	1	0	2	0	0	1	1	0	1	1	
高校3年生・全体	245	7	6	1	2	1	7	6	5	4	4	15	31	12	16	4	3	3	0	3	6	2	22	4	3	5	4	11	2	14	1	0	6	1	5	3	2	1	5	1	8	1	1	1	1	4	1	0
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心があり、学びたい	22	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	1	1	1	1	0	0	0	1	0	3	0	0	2	1	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心はあるが学びたいと思わない	48	0	1	0	2	0	2	0	0	0	2	4	10	1	3	1	1	1	0	0	0	4	0	0	2	2	2	0	4	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心がない	175	6	5	1	0	1	5	6	5	4	2	9	18	10	12	2	1	2	0	3	5	2	15	4	3	1	7	2	10	0	0	6	1	3	3	1	1	5	1	6	0	1	0	1	3	1	0	

回答者 500 人

希望職業別に服飾文化学科への関心・入学意向をみると、回答者にしめる「関心があり、学びたい」の割合が最も高いのは、服飾文化学科と関連のある「ファッション系」の31.4%（35人中11人）、次いで「美容系」の24.2%（33人中8人）、「国際系」17.6%（34人中6人）、「旅行・ホテル・航空系」17.0%（41人中7人）と続く。

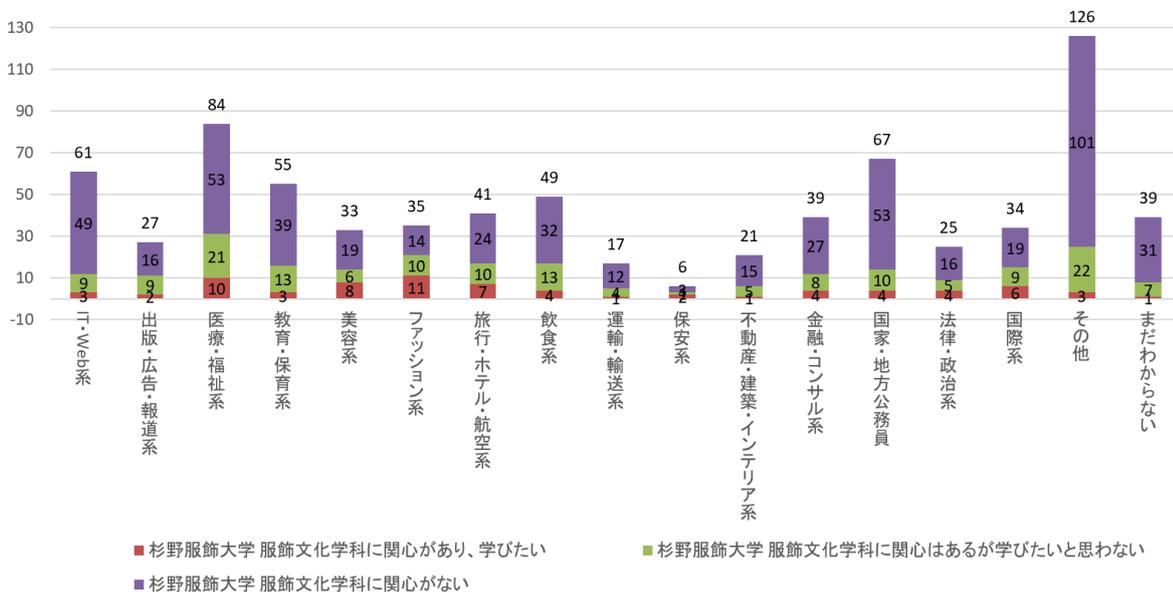
【全体】

	n	I T・Web系	出版・広告・報道系	医療・福祉系	教育・保育系	美容系	ファッション系	旅行・ホテル・航空系	飲食系	運輸・輸送系	保安系	不動産・建築・インテリア系	金融・コンサル系	国家・地方公務員	法律・政治系	国際系	その他	まだわからない
全体	500	61	27	84	55	33	35	41	49	17	6	21	39	67	25	34	126	39
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心があり、学びたい	36	3	2	10	3	8	11	7	4	1	2	1	4	4	4	6	3	1
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心はあるが学びたいと思わない	92	9	9	21	13	6	10	10	13	4	1	5	8	10	5	9	22	7
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心がない	372	49	16	53	39	19	14	24	32	12	3	15	27	53	16	19	101	31

回答者 500 人 回答数 759 件

【単位：件】

高校生 500名



■「服飾文化学科」への関心・入学意向とファッション分野のSDGsの取組みへの関心 (Q8×Q5)

服飾文化学科に関心があると回答した128人（「関心があり、学びたい」36人と「関心はあるが学びたいと思わない」92人の合計）のうち127人（99.2%）は14項目のファッション分野のSDGsの取組みのいずれかに関心があると回答している。

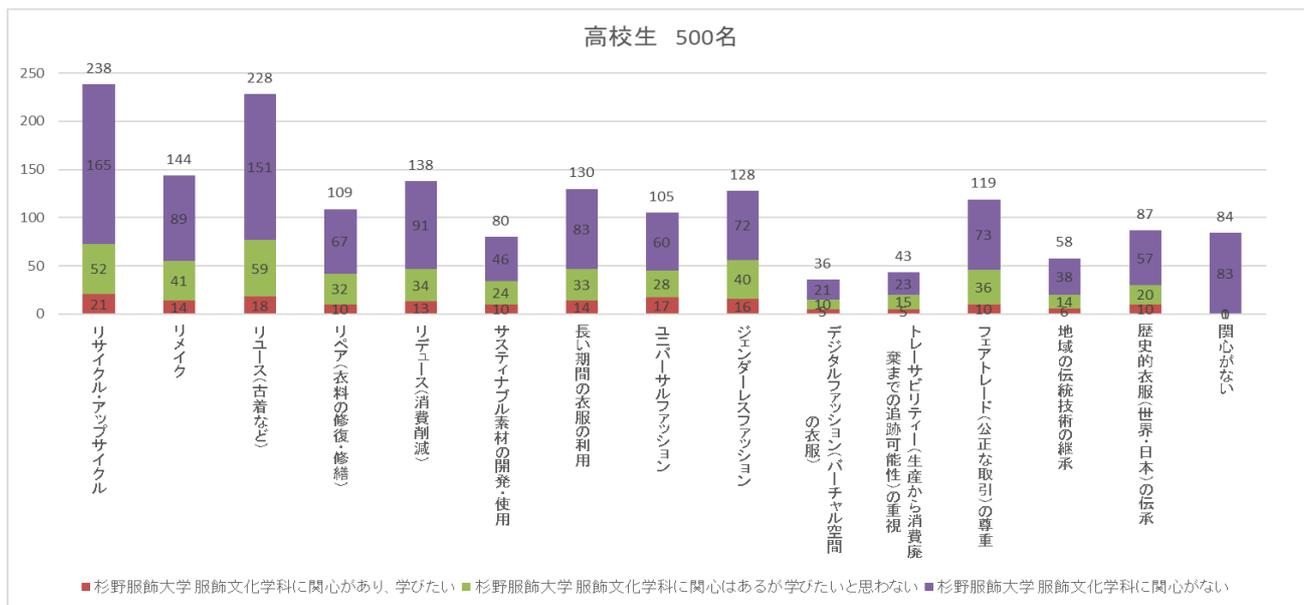
【全体】

	n	リサイクル・アップサイクル	リメイク	リユース（古着など）	リペア（衣料の修復・修繕）	リデュース（消費削減）	サステイナブル素材の開発・使用	長い期間の衣服の利用	ユニバーサルファッション	ジェンダーレスファッション	デジタルファッション（バーチャル空間の衣服）	までの追跡可能性）の重視	フェアトレード（公正な取引）の尊重	地域の伝統技術の継承	歴史的衣装（世界・日本）の伝承	関心がない
全体	500	238	144	228	109	138	80	130	105	128	36	43	119	58	87	84
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心があり、学びたい	36	21	14	18	10	13	10	14	17	16	5	5	10	6	10	0
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心はあるが学びたいと思わない	92	52	41	59	32	34	24	33	28	40	10	15	36	14	20	1
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心がない	372	165	89	151	67	91	46	83	60	72	21	23	73	38	57	83

回答者 500人 回答数 1,727件

【単位：件】

	ファッション分野のSDGsに関心がある	ファッション分野のSDGsに関心がない
服飾文化学科に関心がある	127人 99.2%	1人 0.8%
服飾文化学科に関心がない	289人 77.7%	83人 22.3%



【単位：件】

【学年別】

	n	関心事														
		リサイクル・アップサイクル	リメイク	リユース(古着など)	リペア(衣料の修復・修繕)	リデュース(消費削減)	サステイナブル素材の開発・使用	長い期間の衣服の利用	ユニバーサルファッション	ジェンダーレスファッションの衣服)	デジタルファッション(バーチャル空間の追跡可能性)の重視	フェアトレード(公正な取引)の尊重	地域の伝統技術の継承	歴史的衣装(世界・日本)の伝承	関心がない	
高校1年生・全体	107	47	25	38	22	33	10	27	15	25	7	12	20	9	18	23
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心があり、学びたい	6	2	2	1	3	2	3	1	2	2	1	1	1	1	1	0
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心はあるが学びたいと思わない	15	10	6	5	4	7	3	8	1	6	0	1	5	2	4	0
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心がない	86	35	17	32	15	24	4	18	12	17	6	10	14	6	13	23
高校2年生・全体	148	80	55	69	34	37	27	37	41	40	11	11	43	20	30	22
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心があり、学びたい	8	7	4	6	3	4	1	4	5	4	1	1	2	3	3	0
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心はあるが学びたいと思わない	29	19	16	21	11	11	10	9	13	11	2	5	13	3	4	1
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心がない	111	54	35	42	20	22	16	24	23	25	8	5	28	14	23	21
高校3年生・全体	245	111	64	121	53	68	43	66	49	63	18	20	56	29	39	39
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心があり、学びたい	22	12	8	11	4	7	6	9	10	10	3	3	7	2	6	0
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心はあるが学びたいと思わない	48	23	19	33	17	16	11	16	14	23	8	9	18	9	12	0
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心がない	175	76	37	77	32	45	26	41	25	30	7	8	31	18	21	39

回答者 500 人 回答数 1,727 件

【単位：件】

〔1年生〕

	ファッション分野の SDGs に関心がある	ファッション分野の SDGs に関心がない
服飾文化学科 に関心がある	21 人 100%	0 人 0%
服飾文化学科 に関心がない	86 人 78.9%	23 人 21.1%

〔2年生〕

	ファッション分野の SDGs に関心がある	ファッション分野の SDGs に関心がない
服飾文化学科 に関心がある	36 人 97.3%	1 人 2.7%
服飾文化学科 に関心がない	289 人 81.0%	83 人 18.9%

〔3年生〕

	ファッション分野の SDGs に関心がある	ファッション分野の SDGs に関心がない
服飾文化学科 に関心がある	70 人 100%	0 人 0%
服飾文化学科 に関心がない	136 人 77.7%	39 人 22.3%

服飾文化学科に関心があると回答した 128 人のうち 122 人 (95.3%) がファッションの歴史に関心があると回答しており、特に「ヨーロッパの服飾の歴史」「日本の服飾の歴史」については関心が高い。

【全体】

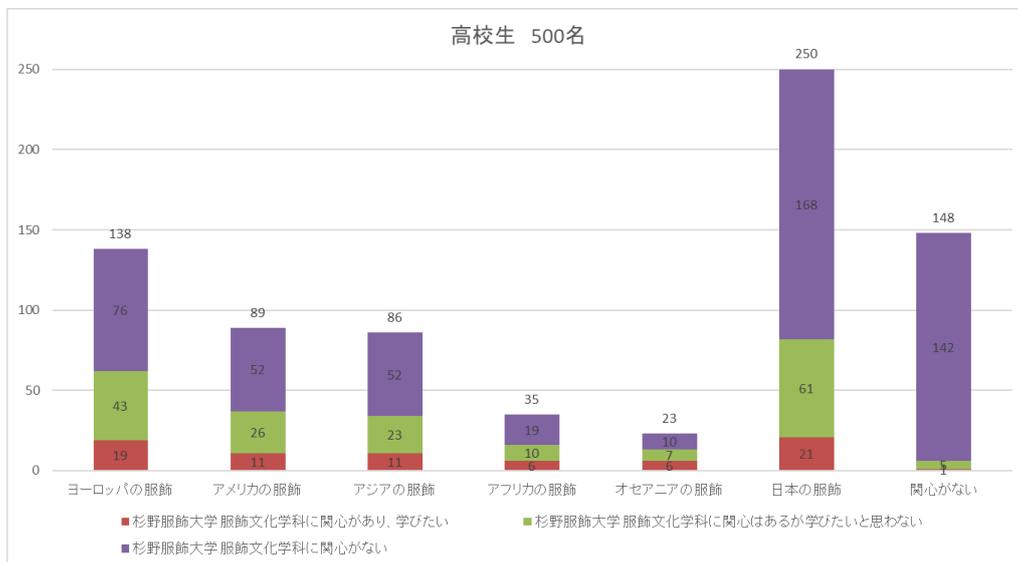
	n	ヨーロッパの服飾	アメリカの服飾	アジアの服飾	アフリカの服飾	オセアニアの服飾	日本の服飾	関心がない
全体	500	138	89	86	35	23	250	148
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心があり、学びたい	36	19	11	11	6	6	21	1
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心はあるが学びたいと思わない	92	43	26	23	10	7	61	5
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心がない	372	76	52	52	19	10	168	142

回答者 500 人 回答数 769 件

【単位：件】

	ファッションの歴史に関心がある	ファッションの歴史に関心がない
服飾文化学科に関心がある	122 人 95.3%	6 人 4.7%
服飾文化学科に関心がない	230 人 61.8%	83 人 38.2%

回答者 500 名 回答数 769 件



【単位：人】

【学年別】

	n	ヨーロッパの服飾	アメリカの服飾	アジアの服飾	アフリカの服飾	オセアニアの服飾	日本の服飾	関心がない
高校1年生・全体	107	21	13	13	8	4	48	43
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心があり、学びたい	6	3	3	2	2	1	1	1
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心はあるが学びたいと思わない	15	5	3	3	3	1	11	2
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心がない	86	13	7	8	3	2	36	40
高校2年生・全体	148	47	30	24	9	7	78	40
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心があり、学びたい	8	5	2	2	1	1	7	0
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心はあるが学びたいと思わない	29	16	12	9	1	2	18	1
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心がない	111	26	16	13	7	4	53	39
高校3年生・全体	245	70	46	49	18	12	124	65
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心があり、学びたい	22	11	6	7	3	4	13	0
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心はあるが学びたいと思わない	48	22	11	11	6	4	32	2
杉野服飾大学 服飾文化学科に関心がない	175	37	29	31	9	4	79	63

回答者 500 人 回答数 769 件

【単位：件】

〔1年生〕

	ファッションの歴史に 関心がある	ファッションの歴史に 関心がない
服飾文化学科 に関心がある	18人 85.7%	3人 14.3%
服飾文化学科 に関心がない	46人 53.5%	40人 46.5%

〔2年生〕

	ファッションの歴史に 関心がある	ファッションの歴史に 関心がない
服飾文化学科 に関心がある	36人 97.3%	1人 2.7%
服飾文化学科 に関心がない	72人 64.9%	39人 35.1%

〔3年生〕

	ファッションの歴史に 関心がある	ファッションの歴史に 関心がない
服飾文化学科 に関心がある	68人 97.1%	2人 2.9%
服飾文化学科 に関心がない	112人 64.0%	63人 36.0%

[付・設問様式]

高校生の皆さんへ

「SDGs × ファッション」アンケートご協力をお願い

高校生の皆さん、こんにちは。

東京・目黒にある杉野服飾大学です。

今回は未来の社会を担う皆さんが SDGs(持続可能な開発目標)とファッションについてどのような関心を持たれているのか、ファッションを専門とする大学の立場から簡単なアンケート(8問)のお願いです。SDGs やファッションに関心のある人はぜひアンケートにご協力ください。

アンケートの目的

杉野服飾大学は、ファッションの全てが学べる日本で唯一の単科大学として長い歴史があります。世界中で SDGs への取り組みが進められているいま、杉野服飾大学では大学独自の視点からファッションの持続的発展について教育研究を行う「服飾文化学科」の創設を構想しています。このアンケートを通して、SDGs とファッションへの関心度や、杉野服飾大学で学びたいと考える高校生がどの位いらっしゃるかを統計的にとらえ、本学科「服飾文化学科」の教育に繋げていきたいと考えています。(個人を特定する設問はありません。)

【杉野服飾大学基本情報】2022年1月現在

服飾学部 入学定員 240名

服飾学科 モードクリエーションコース/インダストリアルパターンコース/テキスタイルデザインコース/ファッションプロダクトデザインコース/ファッションビジネス・マネジメントコース/ファッションビジネス・流通イノベーションコース

服飾表現学科 衣装表現/スタイリング/ビジュアルマーチャンダイジング/ショープロデュース/映像・メディア表現

年間授業料 800,000円 他(入学金 300,000円、施設・設備費 150,000円 ※2年次以降 20,000円)

所在地 東京都品川区上大崎4-6-19 目黒駅(JR・東急目黒線・都営地下鉄三田線・東京メトロ南北線)より徒歩3分

ホームページ <https://www.sugino-fc.ac.jp/>

SC1. あなたの学年を教えてください。

- 高校1年生
- 高校2年生
- 高校3年生

Q1. あなたの学校所在地を教えてください。

- 北海道 青森 秋田 岩手 山形 宮城 福島 茨城 栃木 埼玉
群馬 東京 神奈川 千葉 新潟 富山 石川 福井 山梨 静岡
長野 愛知 岐阜 三重 京都 滋賀 兵庫 奈良 大阪 和歌山
鳥取 岡山 島根 広島 山口 香川 徳島 愛媛 高知 福岡
大分 宮崎 佐賀 熊本 鹿児島 長崎 沖縄

Q2. あなたは高校卒業後、どの進路を考えていますか？

- 大学進学
短期大学進学
専門学校進学
就職
その他
まだわからない

Q3. あなたは将来、どのような分野の職業に就きたいですか？（いくつでも）

- | | | |
|------------------------------------|--|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> IT・Web系 | <input type="checkbox"/> 旅行・ホテル・航空系 | <input type="checkbox"/> 国家・地方公務員 |
| <input type="checkbox"/> 出版・広告・報道系 | <input type="checkbox"/> 飲食系 | <input type="checkbox"/> 法律・政治系 |
| <input type="checkbox"/> 医療・福祉系 | <input type="checkbox"/> 運輸・輸送系 | <input type="checkbox"/> 国際系 |
| <input type="checkbox"/> 教育・保育系 | <input type="checkbox"/> 保安系 | <input type="checkbox"/> その他 |
| <input type="checkbox"/> 美容系 | <input type="checkbox"/> 不動産・建築・インテリア系 | <input type="checkbox"/> まだわからない |
| <input type="checkbox"/> ファッション系 | <input type="checkbox"/> 金融・コンサル系 | |

**Q4. SDGsの17の目標の中であなたが関心をもっている項目を選択してください。
(いくつでも) ※SDGsの目標1～17は選択肢となっております。**

- 目標1 貧困をなくそう
目標2 飢餓をゼロに
目標3 すべての人に健康と福祉を
目標4 質の高い教育をみんなに
目標5 ジェンダー平等を実現しよう
目標6 安全な水とトイレを世界に
目標7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
目標8 働きがいも経済成長も

- 目標 9 産業と技術革新の基盤を作ろう
- 目標 10 人や国の不平等をなくそう
- 目標 11 住み続けられるまちづくりを
- 目標 12 つくる責任 つかう責任
- 目標 13 気候変動に具体的な対策を
- 目標 14 海の豊かさを守ろう
- 目標 15 陸の豊かさを守ろう
- 目標 16 平和と公正をすべての人に
- 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう
- 関心がない

Q5. 環境や人権に配慮した「持続可能な世界」を実現するため、ファッションの世界では以下の取り組みが進められています。実践中 or 関心がある項目を選択してください。(いくつでも)

- リサイクル・アップサイクル
- リメイク
- リユース(古着など)
- リペア(衣料の修復・修繕)
- リデュース(消費削減)
- サステナブル素材の開発・使用
- ジェンダーレスファッション
- デジタルファッション(バーチャル空間の衣服)
- トレーサビリティ(生産から消費・廃棄までの追跡可能性)の重視
- フェアトレード(公正な取引)の尊重
- 地域の伝統技術の継承
- 歴史的衣類(世界・日本)の伝承
- 関心がない

Q6. 世界のファッションの歴史を知ることは、未来のファッションの創造につながります。ファッションの歴史に関して、関心を持っている項目を選択してください。(いくつでも)

- ヨーロッパの服飾
- アメリカの服飾
- アジアの服飾
- アフリカの服飾
- オセアニアの服飾
- 日本の服飾
- 関心がない

Q7. Q5、Q6の他にも、ファッションの世界には以下のような幅広い分野があります。この中からあなたが関心をもっている項目を選択してください。(いくつでも)

- ファッションデザイン(婦人服・紳士服・子供服等)
- 衣装デザイン(アイドル衣装、コスプレ衣装、舞台衣装等)
- 服飾小物(バッグ・帽子・アクセサリ等)
- テクニク(型紙製図・製作)
- テキスタイル(織物・染物・編物)
- ビジネス・流通・販売(ブランド・商品企画、店舗・ネット販売)
- 店舗・ディスプレイ
- スタイリング(コーディネート)
- 情報・メディア(SNS、イベント、ファッションショー、雑誌)
- 教育・研究(中学・高校の家庭科の先生、博物館・美術館の学芸員)
- 関心がない

Q8. 杉野服飾大学「服飾文化学科」では、Q5、Q6の内容を視野に「多様性あるファッション(服飾)文化の創造」を担う人材を育成します。この学科で学びたいですか？

- 杉野服飾大学 服飾文化学科に関心があり、学びたい。
- 杉野服飾大学 服飾文化学科に関心はあるが、学びたいと思わない。
- 杉野服飾大学 服飾文化学科に関心がない。

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

今後、質問等がございましたら杉野服飾大学入試広報課までお気軽にお問合せください。

【お問合せ】

杉野服飾大学入試広報課 03-3491-8152 kouhou@sugino.ac.jp

質問選択 必須

質問番号:

質問番号	質問タイプ	短縮名	質問文	詳細	編集
SC1	SA		SC1.あなたの学年を教えてください。	<input type="button" value="詳細"/>	<input type="button" value="編集"/>
Q1	SA		Q1.あなたの学校所在地を教えてください。	<input type="button" value="詳細"/>	<input type="button" value="編集"/>
Q2	MA		Q2.あなたは高校卒業後、どの進路を考えていますか。(いくつでも)	<input type="button" value="詳細"/>	<input type="button" value="編集"/>
Q3	MA		Q3.あなたは将来、どのような分野の職業に就きたいですか。(いくつでも)	<input type="button" value="詳細"/>	<input type="button" value="編集"/>
Q4	MA		Q4.SDGsの17の目標の中であなたが関心をもっている項目を選択してください。※SD…	<input type="button" value="詳細"/>	<input type="button" value="編集"/>
Q5	MA		Q5.環境や人権に配慮した持続可能な世界を実現するため、ファッションの世界では以…	<input type="button" value="詳細"/>	<input type="button" value="編集"/>
Q6	MA		Q6.世界のファッションの歴史を知るとは、未来のファッションの創造につながり…	<input type="button" value="詳細"/>	<input type="button" value="編集"/>
Q7	MA		Q7.先ほどの設問の他にも、ファッションの世界には以下のような幅広い分野がありま…	<input type="button" value="詳細"/>	<input type="button" value="編集"/>
Q8	SA		Q8.杉野服飾大学「服飾文化学科」では先ほどの内容を視野に「多様性あるファッショ…	<input type="button" value="詳細"/>	<input type="button" value="編集"/>
SEX	SA	性別	性別	<input type="button" value="詳細"/>	<input type="button" value="編集"/>

WEB アンケート画像

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	ナカムラ ケンジロウ 中村 賢二郎 <平成15年4月>		文学士		学校法人杉野学園理事長 (平成16年5月) 杉野服飾大学学長 杉野服飾大学短期大学部学長 (平成15.4~令和5.3)

(注) 高等専門学校にあつては校長について記入すること。

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次） 服飾学部 服飾文化学科

1. 学生確保の見通しの根拠について、高校生を対象にした本学のアンケート調査結果に基づき説明されている「服飾文化学科への入学を希望する数値」は、回答数（高校1年～3年生、500人）のうち7.2%にあたる36人であり、また、定員を増加させる来年4月の入学者を念頭に高校3年生の回答数で見た場合は22人に留（とど）まるなど、新設学科の入学定員（40人）を満たす学生確保の見通しが客観的根拠に基づいて説明されているとは判断できない。また、「服飾文化学科への入学を希望する数値」として説明されている内容について、アンケート調査における他の調査項目とのクロス集計による分析がなされておらず、適切な分析に基づく説明がされているとは判断できない。このため、新設学科において学生確保の長期的かつ安定的な見通しがあるとは判断できないことから、調査項目のクロス集計を含めより適切な調査・分析を行った上で、新設学科の入学定員（40人）を満たすことができることを客観的なデータに基づき明確に説明すること。
(是正事項)・・・2

(是正事項) 服飾学部 服飾文化学科

1. 学生確保の見通しの根拠について、高校生を対象にした本学のアンケート調査結果に基づき説明されている「服飾文化学科への入学を希望する数値」は、回答数（高校1年～3年生、500人）のうち7.2%にあたる36人であり、また、定員を増加させる来年4月の入学者を念頭に高校3年生の回答数で見た場合は22人に留（とど）まるなど、新設学科の入学定員（40人）を満たす学生確保の見通しが客観的根拠に基づいて説明されているとは判断できない。また、「服飾文化学科への入学を希望する数値」として説明されている内容について、アンケート調査における他の調査項目とのクロス集計による分析がなされておらず、適切な分析に基づく説明がされているとは判断できない。このため、新設学科において学生確保の長期的かつ安定的な見通しがあるとは判断できないことから、調査項目のクロス集計を含めより適切な調査・分析を行った上で、新設学科の入学定員（40人）を満たすことができることを客観的なデータに基づき明確に説明すること。

(対応)

審査意見を受け、学生確保の見通し等を記載した書類の**(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組み状況** **①学生確保の見通し** の **ア 定員充足の見込み** 及び **イ 定員充足の根拠となる客観的データの概要** を大幅に加筆修正した。

ア 定員充足の見込み

- 1) 定員を40名と設定した考え方を下記の内容で記述した。
- ①廃止となる短期大学の50名から10名減じ、入学定員40名とした。
 - ②教育課程においてグループワーク、あるいは博学・域学・産学の連携でのプロジェクト等が組み込まれる授業実施の点で40名が適当な人数と判断した。
 - ③本学既設学科及び他大学（被服・服飾系）の状況、社会的動向、実施の調査の結果を勘案し、総合的に判断した。

新旧対照表 学生確保の見通し等を記載した書類 (2ページ)

新	旧
p.2 6～12行目 入学定員設定数は併設短期大学の……(略)……この定員数はアクティブラーニングにおけるグループワーク……(略)……入学定員の充足は可能であると判断した。	p.2 7～20行目 (削除) <u>服飾文化学科が取り組んでいく教育内容……(略)……入学定員の充足は可能である</u> と考える。

- 2) 上記 1) ③で挙げた本学の既設の 2 学科と新設の服飾文化学科との関係及び教育内容等の比較から、本学における服飾文化学科の意義を説明。
- ・教育目的において、服飾文化学科は既設の 2 学科とは指向が異なることを詳述した。また学習指導要領の改訂のポイントとしての科目内容の改善点に服飾文化学科の教育内容が沿うものとなっていることも記述した。

新旧対照表 学生確保の見通し等を記載した書類 (2～3 ページ)

新	旧
p.2 13 行目～p.3 13 行目 本学服飾学部は現在服飾学科と服飾表現学科の・・・(略)・・・以上より歴史・伝統から未来の服飾文化の発展・創造に向けた研究・教育を目的とする点で既設の 2 学科とは大きく指向が異なり、現代の社会的要請へ向けた教育体制として服飾文化学科を設置するものである。	記述なし

- 3) 既設学科の服飾表現学科の入学者の推移の表を【資料 1】として加えた。
- 4) 令和 5 年に廃止予定である杉野服飾大学短期大学部の状況、学生募集停止に至る経緯の説明を加えた。
- ・短期大学部からの定員の移行のほか、教育内容に関しても新学科に繋げていくことが十分可能であることを説明した。

新旧対照表 学生確保の見通し等を記載した書類 (3～4 ページ)

新	旧
p.3 29 行目～p.4 17 行目 <短期大学部> 杉野服飾大学短期大学部は昭和 25 年に開学し・・・(略)・・・以上の状況から、短期大学部は廃止予定ではあるが、そこで培われた教育実績は大学教育として新学科の教育・研究に発展的に活かせるものであり、より充実した魅力ある教育内容に繋げていくものである。	記述なし

- ・【資料 2】として入学者数の推移の表を加えた。
- 5) 1) ③で挙げた他大学の状況として、被服・服飾系の大学の状況と関連を新たに記述した。
- ・他大学の被服、服飾系の学科の学びの領域はそれぞれ幅広いものとなっている。

その中で服飾史、SDG s は多くの大学で取り組みがなされているが、学科の中心として置いている大学は少ない。服飾文化学科においては「歴史」「レプリカ製作・修復」「衣のものづくり」「サステナビリティ」を横断的に体系づける教育課程を編成しており、服飾を共通項としながらも他大学とは異なる視点での教育を行う学科であることを記述した。

新旧対照表 学生確保の見通し等を記載した書類（4～5 ページ）

新	旧
<p>p.4 18 行目～p.5 18 行目</p> <p>「私立大学・短期大学等入学志願動向」（日本私立大学校振興・共済事業団）による統計調査によれば、近年の全国私立大学の入学者数と関連学科（被服学科）の入学者数の推移は表のとおりである【資料 3】。・・・(略)・・・被服・服飾系の学科・専攻を持つ私立大学・短大は全国で 38 校ある。・・・(略)・・・とりわけ学びの特徴としてあげられる「歴史」「レプリカ製作・修復」「衣のものづくり」「サステナビリティ」を横断的に体系づける教育編成は他に類例がない。また、教育内容の性格から、博学連携・域学連携・産学連携に積極的に取り組んでいく。本学既設の 2 学科と合わせ、多角的な視点で研究・教育を行う服飾専門の大学として位置づけることができる。</p> <p>・・・(略)・・・</p> <p>以上より、学生確保の見通しについて、本学服飾学部既設学科ならびに短期大学部の現況、首都圏を中心とする被服・服飾系の大学の状況、社会的動向等に鑑み、新たな研究・教育領域を設ける学科として新たな志願者層の生まれることが期待され、他大学と大きく競合することはない。</p> <p>また、後に詳述する服飾文化学科設置に向けての全国の高校生アンケートにおいても本学科の教育内容に関連する関心の高さが見受けられることから、全国の高校生への広報活動をより強化していくことで定員充足が十分確保されると判断する。</p>	<p>記述なし</p>

- ・【資料 4】として全国大学・短大 被覆・服飾系学部・学科一覧（私立）、及び【資料 5】として被覆・服飾系大学の定員・志願者数（首都圏私立）の表を加えた。

イ 定員充足の根拠となる客観的データの概要

審査意見で「高校生対象のアンケート調査の調査項目のクロス集計を含めより適切な調査・分析を行った上で定員を満たすことが可能であることをデータに基づき説明すること」との指摘を受け、実施したアンケート調査結果から、今回、あらためて入学定員を満たすことが可能であることの数値データに基づく説明及び項目のクロス集計、分析を行い、全面的に文章を書き換えることとした。書き換えた文章の概要は以下の通りである。

・数値データに基づく説明（統計学的な考え方をを用いての説明）

今回新たに、アンケート結果に基づく推計によって、本学の入学者の主な出身地である東京、埼玉、神奈川、千葉の高校生の服飾文化学科への入学希望者の回答数から、この1都3県からの入学者数を見積り、入学定員40名を上回ることを説明した。

【資料7】として本学都道府県別地域別入学者数の表を加えた。

・クロス集計、分析の結果

新学科への関心と、新学科の学びの柱であるファッション分野のSDGsへの関心と服飾の歴史の項目とそれぞれのクロス集計の結果から中長期的に安定した学生確保が可能と判断できることを記述した。

また、【資料13】として「杉野服飾大学「服飾文化学科」設置に関するアンケート調査（高校生対象）結果報告書」を加え、前回提出の際の「【資料8】高校生アンケート調査結果（付・設問様式）」は削除する。

以上より、この「イ 定員充足の根拠となる客観的データの概要」の前の文章は全て削除し、今回新たな文章に差し替えることとした。